

山口大学埋蔵文化財資料館年報
—平成27年度—

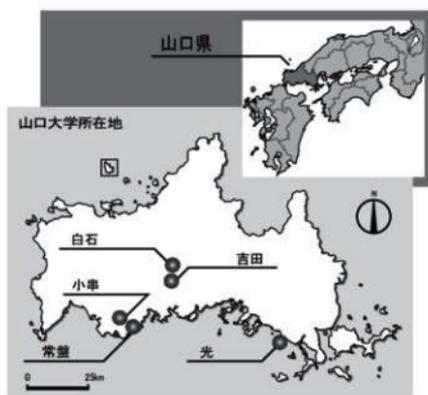
2020

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学埋蔵文化財資料館年報

平成27年度 山口大学埋蔵文化財資料館活動報告

平成27年度 山口大学構内遺跡発掘調査概報



2020

山口大学埋蔵文化財資料館

序

山口大学埋蔵文化財資料館は、吉田構内をはじめ小串・常盤・白石・光構内に所在する山口大学構内遺跡における埋蔵文化財の発掘・保護を基幹業務としています。同時に、学術資料の管理と発信を主要業務とする大学情報機構所属の一組織として、これら埋蔵文化財の調査成果や学術的価値を広く社会に告知するため、資料展示や年報および広報誌発行、社会教育活動など、情報発信活動にも積極的に取り組んでおります。

さて、平成27(2015)年度は、埋蔵文化財保護業務に関しては、本発掘調査1件、予備発掘調査1件、立会調査17件を吉田構内、白石構内、小串構内にて実施しました。その中でも、吉田構内で実施した動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査では、古代の埋没谷から我が国で5例目となる音義木簡が出土しました。その後の調査にて、記載された文字の原典が、中国の初等教育の教科書として用いられた『千字文』であることが判明したことは、報道等により全国的に大きく取り上げられたことから、記憶に新しいところかと思えます。

当館収蔵品の調査としては、平成22年度より開始した萩市見島ジーコンが古墳群出土資料の再調査も6年目を迎え、第124号墳出土品の調査とともに、新たに潮待貝塚出土品の調査を行い、その報告書を刊行することができました。ご協力いただいた萩博物館および下関市立考古博物館の皆様にも厚くお礼申し上げます。

当年度では、新たな取り組みとして山口県立山口博物館と連携協力協定を締結し、取り組みの第一歩として連携企画展と市民講座を開催いたしました。そのほか、展示活動と平成23年度からの継続事業である山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展を、平成24年度からの継続事業である山口大学所蔵学術資産継承事業委員会事業成果展「宝山の一角」を共催にて開催しました。これらの継続的な学術資料の公開活動が本学内、学外に及ぼす影響は大きく、年間の入館者は約2,000名に達しました。

本書には、当館が同年に実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しております。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを願います。

当館は、人的な埋蔵文化財保護体制をはじめ、出土品や調査記録の整理・保管場所の不足が年々深刻化するなど多くの課題を抱えていますが、学内ばかりでなく地域に開かれた学術研究・教育の場として、活用していただくよう、全力を尽くして取り組む所存です。これまで当館の調査・研究活動にご支援、ご協力を頂いた関係機関、関係各位に心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

山口大学埋蔵文化財資料館長

根ヶ山 徹

例言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」と呼称）が平成27年度に実施した、山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告と、同年度に資料館が実施した社会教育等の活動報告を記したものである。
2. 構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畑直彦（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教）・横山成己（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教）・川島尚宗（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教※平成25年11月1日～平成30年3月31日）・山田圭子（事務局情報環境部学術情報課教務補佐員※平成27年4月1日～平成30年3月31日）・乃美友香（事務局情報環境部学術情報課技術補佐員）が担当した。また、現地での本発掘調査および予備発掘調査に際しては、有限会社久富工務店に協力を依頼した。
3. 発掘調査における現地での実測と写真撮影は田畑・横山・川島が行った。出土遺物に関しては、整理を乃美が行い、実測・写真撮影を横山・水久保祥子（大学情報機構埋蔵文化財資料館技術職員）が行った。製図・整図は田畑・横山・乃美が行った。
4. 発掘調査に伴う事務は、事務局情報環境部学術情報課総務係が統括した。
5. 発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。
6. 本文の執筆分担は目次に記した。
7. 本書の編集は館員の補助を得て横山が行った。

凡例

1. 山口大学の吉田・白石・小串・常盤・光構内は、いずれもが文化財保護法(法律第214号)で示される「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置する。各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

吉田構内～吉田遺跡 白石構内～白石遺跡 小串構内～山口大学医学部構内遺跡
常盤構内～山口大学工学部構内遺跡 光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

2. 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA-24区南西隅を起点(構内座標 $x=0$, $y=0$)とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第Ⅲ系における座標値(X, Y)と構内座標値(x, y)とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206, 000$$

$$y = Y + 64, 750$$

3. 平成27年度に実施した本発掘、予備発掘および立会調査に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。

総合研究棟(国際総合科学部)改修工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査……………YD2015-1
動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(設備関連)に伴う立会調査……………YD2014DIC1
動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査……………YD2014DIC2
動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(外灯設置)に伴う立会調査……………YD2014DIC3
動物医療センター外灯設置工事に伴う立会調査……………YD2014DIC4
共同獣医学部枠場設置工事に伴う立会調査……………YD2014KJ
小串保育所新営その他工事に伴う予備発掘調査……………KG2015-1

4. 各遺構は下記の記号で表記することがある。

竪穴住居……SB 掘立柱建物……SH 土壇……SK
溝……SD 柱穴・ピット……Pit・SP 落ち込み……SX

5. 本書で使用した方位は、吉田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

6. 標高数値は海拔標高を示す。

7. 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に準拠した。

8. 遺物の実測図は、下記のように分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶器、磁器

断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、石器、木器、金属器

本文目次

第1章	平成27年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告……………(横山)……………	1
第1節	資料館における展示・情報公開活動	
1	山口県立山口博物館との連携協力協定・企画展・社会教育事業……………(横山)……………	2
2	山口県大学ML連携特別展『時』を学ぶ～時は流れる・モノは変わる～』……………(横山)……………	4
3	第4回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催……………(横山)……………	5
4	平成27年度刊行物……………(横山)……………	6
第2節	資料館における社会教育活動	
1	第15回公開授業「古代人の知恵に挑戦！～古代のお米をつくってみよう～10」を開催……………(田畑)……………	7
第2章	平成27年度山口大学構内遺跡の調査	
第1節	平成27年度に実施した遺跡調査の概要……………(横山)……………	10
第2節	吉田構内(吉田遺跡)の調査	
1	総合研究棟(国際総合科学部)改修に伴う予備発掘調査・本発掘調査……………(横山)……………	14
2	動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(設備関連)に伴う立会調査……………(横山)……………	24
3	動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査……………(横山)……………	32
4	動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(外灯設置)に伴う立会調査……………(横山)……………	68
5	動物医療センター外灯設置工事に伴う立会調査……………(横山)……………	70
6	共同獣医学部解剖実習棟前動物体焼却炉設置工事に伴う立会調査……………(横山)……………	72
7	共同獣医学部枠場設置工事に伴う立会調査……………(横山)……………	74
8	共同獣医学部カーポート設置工事に伴う立会調査……………(横山)……………	75
9	農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査……………(横山)……………	76
10	理学部駐輪場屋根新設工事に伴う立会調査……………(横山)……………	78
11	図書館周辺雨水排水整備工事に伴う立会調査……………(横山)……………	79
12	総合研究棟横小路バリアカー設置工事に伴う立会調査……………(横山)……………	80
13	総合研究棟北側喫煙所新設工事に伴う立会調査……………(川島・横山)……………	81
14	陸上競技場横遊歩道標識設置工事に伴う立会調査……………(横山)……………	82
15	正門前樹木植樹工事に伴う立会調査……………(横山)……………	83
16	事務局前樹木移設工事に伴う立会調査……………(田畑)……………	84
第3節	白石構内(白石遺跡)の調査	
1	教育学部附属山口中学校グラウンド防球ネット新設工事に伴う立会調査……………(田畑)……………	85
2	教育学部附属山口小学校ガス管交換工事に伴う立会調査……………(田畑)……………	86
第4節	小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査	
1	保育所新営その他工事に伴う予備発掘調査……………(横山)……………	87
付節1	平成27年度 山口大学構内遺跡調査要項……………	91
付節2	山口大学構内の主な調査……………	94
付篇	館藏品調査報告～古墳時代から平安時代の遺物……………(横山)……………	118

挿図目次

第2章第1節 平成27年度に実施した遺跡調査の概要	図36 調査区位置図……………72
図1 山口大学吉田・白石構内位置図……………11	図37 A～C地点土層断面柱状図……………73
図2 小串・常盤構内位置図……………13	図38 調査区位置図……………74
図3 光構内位置図……………13	図39 A・B地点土層断面柱状図……………74
第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査	図40 調査区位置図……………75
図4 調査区位置図……………14	図41 A・B地点土層断面柱状図……………75
図5 調査区位置詳細図……………15	図42 調査区位置図……………76
図6 第1調査区平面図・断面図……………17	図43 A～C地点土層断面柱状図……………77
図7 第2調査区平面図・断面図……………18	図44 調査区位置図……………78
図8 第3調査区平面図・断面図……………19	図45 9調査区土層断面柱状図……………78
図9 第4調査区平面図・断面図……………19	図46 調査区位置図……………79
図10 出土土器実測図……………21	図47 土層断面模式図……………79
図11 H-19区位置図……………23	図48 調査区位置図……………80
図12 当調査区とH-19区との位置関係……………23	図49 A・B地点土層断面柱状図……………80
図13 調査区位置図……………24	図50 調査区位置図……………81
図14 遺物包含層・谷埋土出土土器実測図①……………26	図51 A～D地点土層断面柱状図……………81
図15 遺物包含層・谷埋土出土土器実測図②……………27	図52 調査区位置図……………82
図16 調査区位置図……………32	図53 調査区位置図……………83
図17 調査区平面図・断面図……………34	図54 土層断面柱状図……………83
図18 周辺調査区との位置関係……………35・36	図55 調査区位置図……………84
図19 谷埋土3下層出土土器実測図……………39	第2章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査
図20 谷埋土3上層出土土器実測図……………39	図56 調査区位置図……………85
図21 谷埋土2下層出土土器実測図①……………40	図57 調査区位置図……………86
図22 谷埋土2下層出土土器実測図②……………41	第2章第4節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
図23 谷埋土2上層出土土器実測図①……………43	図58 調査区位置図……………87
図24 谷埋土2上層出土土器実測図②……………44	図59 調査区平面図・断面柱状図……………89
図25 谷埋土2上層出土土器実測図③……………45	図60 出土土器実測図……………90
図26 谷埋土1出土土器実測図①……………46	山口大学の主な調査
図27 谷埋土1出土土器実測図②……………47	図61 山口大学吉田構内地区割
図28 遺構・遺物包含層ほか出土土器実測図……………47	および主な調査区位置図……………111・112
図29 出土土器実測図……………47	図62 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）
図30 調査区位置図……………68	調査区位置図……………113
図31 A・B調査区土層断面柱状図……………69	図63 山口大学白石構内（中学校）
図32 出土土器実測図……………69	調査区位置図……………114
図33 調査区位置図……………70	図64 山口大学小串構内調査区位置図……………115
図34 A～C地点土層断面柱状図……………71	図65 山口大学常盤構内調査区位置図……………116
図35 出土土器実測図……………71	図66 山口大学光構内調査区位置図……………117

付篇 館藏品調査報告—古墳時代から平安時代の遺物—	
図67 下松市花岡古墳群採取遺物実測図	119
図68 山口県大内御堀採取遺物①	121
図69 山口県大内御堀採取遺物②	122
図70 山口県大内御堀採取遺物③	123
図71 柳井市小平尾遺跡採取遺物	123

図72 光市浅江採取遺物	123
図73 島田川流域採取遺物	127
図74 山口県女子師範学校旧蔵遺物	127
図75 山口県立室積高等女学校旧蔵遺物	127
図76 注記「FUKUSHŌJI」遺物	127
図77 採取地不明遺物	128

写真目次

第1章第1節 資料館における展示・情報公開活動

写真1 山口県立山口博物館との連携協定調印式	3
写真2 連携企画展の模様	3
写真3 「平川ふるさと講座」展示見学	3
写真4 「遺跡探訪」日吉神社横穴墓群見学	3
写真5 「遺跡探訪」遺跡保存公園見学	3
写真6 「遺跡探訪」広沢寺古墳への道中	3
写真7 ミュージアムトークの模様	4
写真8 「木簡ワークショップ」の模様	4
写真9 前期展ミュージアムトークの模様	5
写真10 後期展ミュージアムトークの模様	5
写真11 平成27年度埋蔵文化財資料館刊行物	6

第1章第2節 資料館における社会教育活動

写真12 館長挨拶	8
写真13 縄ない	8
写真14 田植え	8
写真15 雑草の説明	8
写真16 土器づくり	8
写真17 稲の状況	8
写真18 稲の収穫1	8
写真19 稲の収穫2	8
写真20 参加者の皆さん	9
写真21 焼成前の土器	9
写真22 泥窯づくり	9
写真23 焼成終了後の窯断面	9
写真24 焼成後の土器	9
写真25 脱穀・糶すり	9
写真26 土器による調理	9
写真27 昼食メニュー	9

第2章第1節 平成27年度に実施した遺跡調査の概要

写真28 吉田構内航空写真	11
写真29 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校） 航空写真	11
写真30 白石構内（教育学部附属山口中学校） 航空写真	11
写真31 小串構内航空写真	13
写真32 常盤構内航空写真	13
写真33 光構内航空写真	13

第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査

写真34 調査地点遠景	14
写真35 調査地点近景	14
写真36 第1調査区遺構検出状況	17
写真37 第1調査区西壁土層断面	17
写真38 第2調査区遺構検出状況	18
写真39 第2調査区西・北壁土層断面	18
写真40 第3調査区遺構検出状況	20
写真41 第3調査区北壁土層断面	20
写真42 第4調査区遺構検出状況	20
写真43 第4調査区北壁土層断面	20
写真44 作業風景	20
写真45 第2調査区地山断ち割り状況	20
写真46 出土遺物（土器）	21
写真47 H-19区全景	23
写真48 A地点土層断面	24
写真49 B地点土層断面	24
写真50 C地点土層断面	24
写真51 出土遺物（土器）①	27
写真52 出土遺物（土器）②	28
写真53 出土遺物（土器）③	29

写真54 調査区近景	32	写真91 A地点土層断面	79
写真55 本発掘調査時の模様	32	写真92 B地点土層断面	79
写真56 調査風景	37	写真93 A地点土層断面	80
写真57 調査風景	37	写真94 B地点土層断面	80
写真58 完掘状況	37	写真95 A地点土層断面	81
写真59 完掘状況	37	写真96 B地点土層断面	81
写真60 調査区南壁土層断面	37	写真97 A地点土層断面	82
写真61 調査区東壁土層断面	37	写真98 B地点土層断面	82
写真62 出土遺物(土器)①	48	写真99 工事風景	83
写真63 出土遺物(土器)②	49	写真100 土層断面	83
写真64 出土遺物(土器)③	50	写真101 A地点土層断面	84
写真65 出土遺物(土器)④	51	写真102 B地点土層断面	84
写真66 出土遺物(土器)⑤	52	第2章第3節 白石橋内(白石遺跡)の調査	
写真67 出土遺物(土器)⑥	53	写真103 A地点土層断面	85
写真68 出土遺物(土器)⑦	54	写真104 B地点土層断面	85
写真69 出土遺物(土器)⑧	55	写真105 調査区全景	86
写真70 出土遺物(土器)⑨	56	写真106 C地点土層断面	86
写真71 出土遺物(石器)	56	第2章第4節 小串橋内(山口大学医学部橋内遺跡)の調査	
写真72 A地点土層断面	68	写真107 調査地点遠景	87
写真73 B地点土層断面	68	写真108 調査地点近景	87
写真74 出土遺物(土器)	69	写真109 第1層上面検出状況	89
写真75 A地点土層断面	70	写真110 第3層上面検出状況	89
写真76 B地点土層断面	70	写真111 調査区崩落状況	89
写真77 C地点土層断面	70	写真112 調査区南壁西端部土層断面	89
写真78 出土遺物(土器)	71	写真113 出土遺物(土器)	90
写真79 A地点土層断面	72	付篇 館藏品調査報告—古墳時代から平安時代の遺物—	
写真80 B地点土層断面	72	写真114 下松市花園古墳群採取遺物	119
写真81 C地点土層断面	72	写真115 山口市大内御堀採取遺物①	121
写真82 A地点土層断面	74	写真116 山口市大内御堀採取遺物②	122
写真83 B地点土層断面	74	写真117 山口市大内御堀採取遺物③	123
写真84 A地点土層断面	75	写真118 柳井市小平尾遺跡採取遺物	123
写真85 B地点土層断面	75	写真119 光市浅江採取遺物	123
写真86 A地点土層断面	76	写真120 島田川流域採取遺物	127
写真87 B地点土層断面	76	写真121 山口県女子師範学校旧蔵遺物	127
写真88 C地点土層断面	76	写真122 山口県立室積高等女学校旧蔵遺物	127
写真89 工事風景	78	写真123 注記「FUKUSHO」遺物	127
写真90 9調査区土層断面	78	写真124 採取地不明遺物	128

表目次

第1章第1節 資料館における展示・情報公開活動		表 7 出土遺物（石器）観察表……………66
表 1 埋蔵文化財資料館利用者の推移……………1		表 8 出土遺物（土器）観察表……………69
表 2 平成27年度月別入館者数……………1		表 9 出土遺物（土器）観察表……………71
第2章第1節 平成27年度に実施した遺跡調査の概要		表10 出土遺物（土器）観察表……………90
表 3 平成27年度山口大学構内遺跡調査一覧表……………10		付節 2 山口大学構内の主な調査
第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査		表11 山口大学構内の主な調査一覧表……………94
表 4 出土遺物（土器）観察表……………21		付節 3 館藏品調査報告—古墳時代から平安時代の遺物—
表 5 出土遺物（土器）観察表……………29		表12 遺物（金属器）観察表……………128
表 6 出土遺物（土器）観察表……………56		表13 遺物（土器）観察表……………129

第1章 平成27年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回前後の資料展示を行うこと、各種メディアを用いて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、教育活動としては年度内に1回の市民対象公開授業を開催すること、そして出張展示やワークショップの開催、講演会等への講師派遣など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成27年度は、さらに地域連携を深め、博物館活動を充実させるため、山口県立山口博物館と連携協力協定を締結した。その活動の第一歩として、本学吉田キャンパスが所在する山口市平川地区を対象として、連携企画展と社会教育事業を実施した。そのほか、展示活動として、県内の大学博物館・図書館が各大学の学術資料や研究成果を展示にて公開する「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」に継続参加し、本学委員会である山口大学学術資産継承事業委員会事業成果展『宝山の一角』共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開活動としては、平成13年度および24年度の年報と、『見鳥ジーンゴ古墳群 第124号墳 潮待貝塚出土資料調査研究報告』、広報誌『てらこや埋文』、そのほか『山口県大学ML連携事業報告 平成27年度展示テーマ「つなぐ」』を刊行した。社会教育活動に関しては、例年通り農学部附属農場との共催により、第15回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう10－』を開催した。

当年度の総入館者数は1,995名で前年度に比して12%の増加があった(表1)。これは前年度に中止となった8月初旬開催の吉田地区オープンキャンパスが無事開催されたことによる(表2)。

表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移

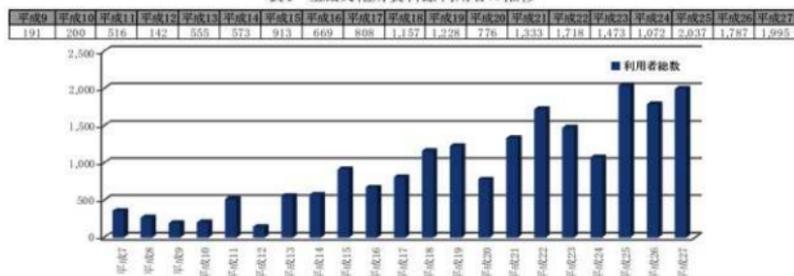
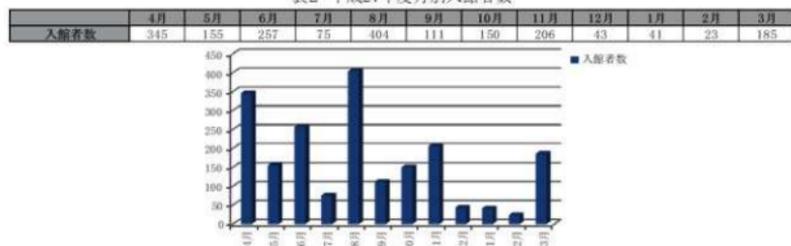


表2 平成27年度月別入館者数



第1節 資料館における展示・情報公開活動

1. 山口県立山口博物館との連携協力協定・企画展・社会教育事業

大学による地域連携・社会貢献が強く求められている昨今であるが、当館の本学における主幹業務（埋蔵文化財保護業務）や館の規模、人員配置では博物館活動を十分に行うことは困難であることが近年の問題となっていた。その状況を改善すべく、当県の基幹博物館である山口県立山口博物館と連携協力協定を締結する運びとなり、6月24日には両館長による調印式が行われた（写真1）。

記念すべき連携活動の第1歩として開催したのが、両館が所蔵する考古資料を用いた連携企画展『半世紀の遺跡調査から読み解く 先史・古代の平川』である。

本学吉田構内が所在する山口市平川地区は、昭和40年代以降、本学のほか高等学校や中学校など教育施設が設立され、文京地区としての景観を備えることとなった。それと同時に、宅地開発も急激に進行したことから、農村地区としての旧来の景観が大きく変化することとなった。平川地区は長らく農村であったことから、地下の遺跡が良好に遺存していることが大きな特徴となっており、山口市でも埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布する地域であることから、当地区の考古学的な考察・評価が地域史を復元する上で重要な役割を果たすことになる。

展示では、本学吉田構内が所在し、当館が継続的に調査を実施している吉田遺跡の資料を中心に、吉田遺跡集落の奥津城と見られる日吉神社横穴墓群出土品（山口県立山口博物館所蔵）のほか、山口市教育委員会と山口市歴史民俗資料館の協力のもと、平川地区の主要遺跡から出土した考古資料を多数公開することにより、当地区の特色や先進性を考察し、文字によって語られることのない平川の歴史を復元した（写真2・3）。

平成27年7月27日から10月17日の会期中、740名の方々に観覧いただいたが、アンケート調査では「小路遺跡に関する講演をしてほしい」という具体的な要望や「古代から中世を中心とした展示をしてほしい」「明治期における山口の文化・産業の展示をしてほしい」など展示に関する要望も寄せられた。

連携企画展に関連し、山口県立山口博物館の教育普及講座『山口市平川地区の遺跡探訪』を両館主催により10月10日に実施した。

コースは①山口大学内大賀ハス池公園（山口市仁保源久寺より株分けされた古代ハス）－②日吉神社横穴墓群（古墳時代終末期）－③山口大学就職支援施設「O-HARA」敷地（吉田遺跡室町時代集落）－④山口大学遺跡保存地区（吉田遺跡各時代遺構密集地区）－⑤埋蔵文化財資料館にて連携企画展の見学・資料解説－⑥山口大学遺跡保存公園（吉田遺跡弥生時代～古墳時代集落）－⑦神郷大塚遺跡（弥生時代から古墳時代終末期にかけての集落）－⑧小路遺跡（古墳時代中期の集落）－⑨広沢寺古墳（古墳時代後期）の全長約3.5kmと定め、現地で解散することとした。

当日の参加者は、小学生から70代までの8名と少数であったが、天候にも恵まれ、道中参加者から様々な意見や感想が飛び交うなど活気にあふれた講座となった（写真4～6）。コースに古墳など視覚的に理解できる遺跡が少なく、いにしへの景観を参加者がどこまで具体的に想像できるか危惧されたが、途中に出土資料を熟覧したことで、遺跡への理解がより深まったように感じられた。

参加者からは、「ちょうど良い距離の探訪だと思った。また地区を変えて、このような遺跡探訪を希望する」「平川地区の様子を知ることが出来て、また知りたいと思った」などの声が寄せられる一方、「1回につき1～2遺跡ずつを何回かに分けて定期的にあると良い」などの要望も寄せられた。

遺跡探訪は、現在（令和元年度）でも継続しており、両館連携の看板事業となっている。



写真1 山口県立山口博物館との連携協力協定調印式



写真2 連携企画展の様



写真3 「平川ふるさと講座」展示見学



写真4 「遺跡探訪」日吉神社横穴墓群見学

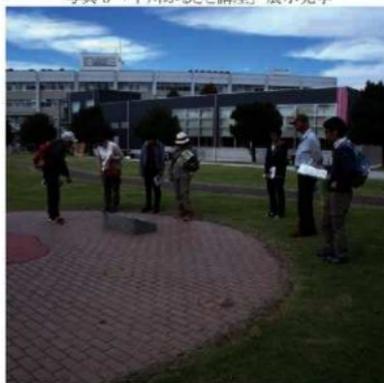


写真5 「遺跡探訪」遺跡保存公園見学



写真6 「遺跡探訪」広沢寺古墳群への道中

2. 山口県大学ML連携特別展『時』を学ぶ～時は流れる・モノは変わる～』

当事業は、平成25年度に山口県内大学博物館・図書館連携へと転換を図ったが、その3年目となる平成27年度事業は、平成26年度から新たに1大学2館(山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館、山口大学工学部図書館)の参加があり、12大学17館での開催となった。

当年度も、10月から1月までの間に各館が最低2ヶ月の期間を設定し、「つなぐ」を共通テーマに展示を開催することとなった。ML連携特別展の開催に際しては、共通テーマのもと、本学参加館(当館、総合図書館、医学部図書館、工学部図書館)でさらに共通テーマを定め、展示を構築している。図書館からの提案により、当年度の共通テーマは『時』を学ぶ』となり、当館はそれに『時は流れる・モノは変わる』という副題をつけ、平成27年11月1日から平成28年1月29日までの会期で開催した。

展示では、考古学的に追うことができるモノの変化を通史的に学ぶことを目的に、展示資料を調理具(深鉢や甕、鍋など)と食器(坏や高坏など)の土器類に限定し、形態と使用方法の変化を追い、変化の原因や契機を解説した。会期中の11月7日にはミュージアムトーク(展示解説)を開催した(写真7)。

入館者は290名と伸び悩んだものの、観覧者からは「土器の形の変化の理由や利用方法が解説されて面白かった」「解説文がわかりやすくて面白かった。展示とあわせてより楽しめた」といった声が寄せられた。

そのほか、展示内容と直接の接点はないが、当該年度に吉田遺跡から「音義木簡」が出土したことを記念し、展示関連事業として会期初日の11月1日(吉田キャンパス大学祭)に総合図書館1階りぶカフェにて「木簡ワークショップ」を開催した(写真8)。吉田遺跡からの出土品をもとに製陶業者に特注した須恵器円面碗の複製で墨をすり、木板に自由に文字を書くというシンプルなイベントであったが、総勢40名の方々に参加いただいた。

当該年度は、筆者が山口県大学ML連携事業事務局企画担当として、事務局代表の吉光紀行氏(当時:本学情報環境部学術情報課長、現:梅光学院大学特任准教授)と参加全館の展示を視察した最後の年となった。氏には、参加館各位と直接顔を合わせることで情報交流を円滑に行う術を教授されたが、当該年度末の氏の退職により、次年度以降、筆者を含め事務局にそのような動きがなくなった。当事業は現在も継続しているが、参加館より事業の形骸化等が指摘されつつあることを重く受け止めたい。

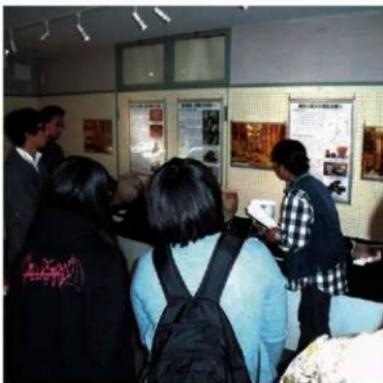


写真7 ミュージアムトークの様相



写真8 「木簡ワークショップ」の様相

3. 第4回山口大学所蔵学術資産継承事業成果展「宝山の一角」を共に開催

平成24年度より、山口大学学術資産継承事業委員会が主催する事業成果展『宝山の一角』の共催館として、展示空間の提供と展示設営協力、会期中の管理運営を行っている。

第4回となる平成27年度も、例年通り前期・後期の2部構成となり、前期展は山口商工会議所主催の「山口お宝展」への参加も兼ね平成28年2月27日から4月22日まで、後期展は5月9日から7月1日までの会期で開催した。

前期展では、当館所蔵潮待貝塚(下関市)出土資料とともに、明治維新期の鉱山開発関連資料(理学部所蔵)、明治期の九谷焼と河井寛次郎作品(経済学部所蔵)、明治維新関連文書「小倉地形(上郷・林家文書)」など(図書館所蔵)を、後期展では山口県内出土鉄刀(人文学部所蔵)、日本の金鉱石(工学部所蔵)、山口県民具資料「背負梯子」など(農学部所蔵)、山口県哺乳類交連骨格標本「アナグマ・タヌキ」など(共同獣医学部所蔵)、典籍『名家雑劇』(図書館所蔵)を公開した。

前期展では551名、後期展では509名、総数1,060名の方々々に観覧いただき、地域の方々からの関心の高さがうかがわれたが、専門科目や共通教育科目などの授業課題としても複数回活用された。そのほか、学生スタッフによって市民向けに土曜日に開催される吉田キャンパスガイド「キャンパスでてくてくツアー」での団体見学なども受け入れた。

前後期ともに会期中にミュージアムトーク(展示解説)を開催し、多くの参加者を迎えることができた。前回までは解説を文書・典籍専門部会長と博物専門部会長、または展示資料を専門とする教員が担ってきたが、今回の後期展から、文書・典籍に関しては所蔵する図書館職員が行うこととなった。

観覧者からは、「各学部で多くの貴重な資料をお持ちですね。是非展示していただきたいです」「考古資料の展示が見られると思って来ましたが、明治期の企画展で山口を震源とする維新に関連する企画展で勉強になりました」などの声が寄せられた。

展示会期中、広島大学総合博物館を会場に開催された第11回日本博物科学会にて、筆者は「大学博物館設立に向けて―山口大学学術資産継承事業委員会の活動―」と題する事例報告を行った。会場からは、学術資料の保存・継承・公開を基幹とする委員会の活動に対し、「『箱』さえあればすぐに大学博物館として機能しうる」との高評をいただいたことを付記しておく。



写真9 前期展ミュージアムトークの様相



写真10 後期展ミュージアムトークの様相

4. 平成27年度刊行物

1. 『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成24年度—』

平成27年度は、平成24年度に実施した構内遺跡発掘調査概報と資料館活動報告を所収した年報を刊行した。発掘調査関係としては、本発掘調査2件(吉田・光)、予備発掘調査3件(吉田)、工事立会11件(吉田5・白石5・光1)の成果が掲載されている。

館の活動報告としては、展示・公開活動として4件の企画展示等事業と、1件の社会教育活動、当該年度刊行物3冊を報告している。そのほか、川島尚宗による「光市東之庄神田遺跡出土の縄文時代石棒」と題する付篇を所収している。

2. 『山口大学構内遺跡調査研究年報XXI』

上述の年報は平成15年度以降の新たなシリーズであり、当年報は当館設立以来平成14年度までのシリーズとなる。これまで平成7・10～14年度が未刊行であったが、平成13年に実施した構内遺跡調査報告を所収した年報を刊行した。試掘調査3件(吉田1・小串1・常盤1)、立会調査9件(吉田)の成果が掲載されている。そのほか、田畑直彦による「吉田遺跡第I地区A区の未報告図面について」と題する付篇を所収している。

3. 館蔵資料調査研究報告書5『見島ジーコンボ古墳群第124号墳 潮待貝塚出土資料調査報告』

平成22年度から開始した事業で、継続的に見島ジーコンボ古墳群の出土資料調査及び報告書の刊行を実施してきたが、川島尚宗の着任により、当館所蔵潮待貝塚(下関市)出土資料にも着手した。

平成27年11月9日から24日にかけて、第124号墳を対象に当館と萩博物館の収蔵資料の悉皆調査を実施し、その成果を収録した。また、下関市立考古博物館所蔵の潮待貝塚出土資料を参照させていただきつつ、当館所蔵資料の調査成果を収録した。

4. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第26号『てらこや埋文』

平成18年(2005)より刊行を開始した広報誌であり、当初季刊で刊行していたが、平成23年度以降は年度末に1度の刊行となっている。巻頭頁は当該年度初旬に出土した音義木管の速報を、2頁から3頁には展示活動、4頁には公開授業の様様、5頁には「資料館この一品」として潮待貝塚(下関市)の貝輪を、6頁から7頁にかけては4年の任期で退任する山内直樹館長のインタビュー記事掲載した。

当館は現状で実施年度の4年後に年報を発行していることから、当冊子は速報性のある刊行物として重要な役割を果たしている。今後も年度末の刊行を継続したい。

5. 山口県大学ML(Museum・Library)連携事業報告 平成27年度展示テーマ『つなぐ』

平成22年度より実施している山口県大学ML連携の事業報告書は、事務局企画担当である筆者が編集し、当館が発行している。平成27年度は、前記したとおり12大学17館が参加し、一定期間テーマを共通とした学術資料展示を各館にて開催した。本書については一般の方は入手困難と思われるが、山口県大学ML連携事業公式web(<http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>)にてデジタル公開を行っている。



写真 11 平成27年度埋蔵文化財資料館刊行物

第2節 資料館における社会教育活動

第15回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう－10』を開催

はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第15回となる平成27年度の公開授業は、昨年度に引き続き、日本のお米のルーツとされる赤米づくり、土器で炊いて食べてみるという内容である。今回も埋蔵文化財資料館と山口大学農学部との共催で、吉田構内の山口大学農学部附属農場で延べ4回行い、小学生7名、教育学部学生6名、一般9名、合計22名の皆様に参加していただいた。今回栽培したのは「紅朱雀」（梗米）である。

6月6日（土）－田植え

館長挨拶、担当者からの趣旨説明等の後、参加者は縄ないを行い、つくった縄を腰紐にして古代服（貫頭衣）を着用した。参加者は田植え綱を目印に田植えを行った。田植えをはじめた方も多く、水田がぬかるみ、転びそうになるなど移動が大変そうであったが、無事に終了することができた。

7月12日（日）－稲の観察と土器づくり

参加者は実習室で農学部附属農場の長砂技術専門職員から水田に生える雑草についての説明を受けて、稲とヒエの違いなどを学習した。その後、土器づくりに挑戦した。短時間であったが、今回もそれぞれが古代をイメージした個性的な土器ができた。

10月4日（日）－土器焼成・稲刈り

まず、参加者は埋蔵文化財資料館横の空地で、前回つくった土器を「覆い焼き」で焼成するための泥窯づくりに挑戦し、点火した。その後は水田へ移動し、収穫を行った。稲は最終的に長さ約80cm前後まで成長したが、過熟した状態であった。収穫は、はじめに石庖丁などを使って一部の稲の穂摘みを行い、残りの稲は鎌で収穫した。土器の大半は割れることなく焼成することができた。

11月14日（土）－脱穀・粳すり、赤米を食べる

当日は残念ながら小雨となった。このため、参加者は箸こぎ、臼と杵による脱穀・粳すり、みとザルによる選別との作業を附属農場実習室で行った。野外作業は中止かと思われたが、幸い、正午前から雨が止んだため、野外で土器による炊飯と蒸米に挑戦した。炊飯・蒸米とも成功し、いずれもほんのりとした甘みがあった。他にもおかずにはアマゴの塩焼き、豚汁をつくったが、これらも美味しく好評であった。

公開授業を終えて

今回の公開授業は、古代米づくりをはじめて10年目である。脱穀・粳すり作業を屋外で行うことができなかったが、無事に終了することができた。

参加者からは「古代人がしていたことを体験できて楽しかった（小学生）」、「大変貴重な体験ができ、いろいろな知識を得ることができてよかった（一般）」などの声が寄せられ、好評であった。今年度も、実際の体験を通して学んでいただくことができ、公開授業の目的を達成することができたと感じている。

なお、公開授業としての古代米づくりは、10年目の節目を迎えたことや館長からの助言、諸般の事情により今回で終了し、来年度からはメニューを一部変更して、山口大学公開講座として行うことになった。各回参加者をはじめ、これまで多大なご支援をいただいた教育学部・農学部関係者をはじめとする関係各位に対して、館員一同心より御礼申し上げます。また、今回を含めた全10回の古代米づくりについての総括は別稿で行いたい。



写真12 館長挨拶(6月6日)



写真13 縄ない(6月6日)



写真14 田植え(6月6日)



写真15 雑草の説明(7月12日)



写真16 土器づくり(7月12日)



写真17 稲の状況(8月7日)



写真18 稲の収穫1(10月4日)



写真19 稲の収穫2(10月4日)



写真20 参加者の皆さん(10月4日)



写真21 焼成前の土器(10月4日)



写真22 泥窯づくり(10月4日)



写真23 焼成終了後の窯断面(10月6日)



写真24 焼成後の土器(11月14日)



写真25 脱穀・初すり(11月14日)



写真26 土器による調理(11月14日)



写真27 昼食メニュー(11月14日)

第2章 平成27年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 平成27年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡であり、官衙遺跡としても著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物を包含する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡にまたがり立地している。

このような環境のもと、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財の保護・調査・研究・活用する施設として昭和52年(1977)に竣工し、昭和54年(1979)に教職員が配置されて以来、その重責を担い続けている。当館の平成27年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画を確認した後、文化財保護法の諸手続のもと、山口大学各構内が位置する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の観点から本発掘・予備発掘・立会の3種の方法で厳密に調査を行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設(職員宿舎等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、できる限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する平成27

表3 平成27年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	本書掲載頁
本発掘	総合研究棟(国際総合科学部)改修工事	吉田	H-18・19	56.5	7月30日～8月28日	14-23
予備発掘	保育所新営その他工事	小串		50	5月13日～6月6日	87-90
立会	動物医療センター(ニシアツ室等)新営その他工事(設備関連)	吉田	R・S-19	44.5	3月31日～4月2日	24-31
	動物医療センター(ニシアツ室等)新営その他工事(プレハブ撤去)	吉田	S-19・20	50	4月22日～5月1日	32-67
	動物医療センター(ニシアツ室等)新営その他工事(外灯設置)	吉田	S-20	2	9月28日	68-69
	動物医療センター外灯設置工事	吉田	S-20	22	1月23・31日 2月10日	70-71
	共同獣医学部解剖実習棟前動物体検検器設置工事	吉田	R-19・20 S-20	10.75	1月14・18日	72-73
	共同獣医学部柵場設置工事	吉田	R・S-20	25	2月15・16日	74
	共同獣医学部カーポート設置工事	吉田	N-17	3	7月25日	75
	農学部附属農場水田排水路工事	吉田	T・U-15・17	100	11月6日	76-77
	理学部誌輪扇屋根新設工事	吉田	N-20	16	3月22日	78
	図書館周切雨水排水整備工事	吉田	N-16	35	9月18・19日	79
	総合研究棟横小路・リカー設置工事	吉田	Q-18・19	0.25	1月22日	80
	総合研究棟北側喫煙所新設工事	吉田	Q-17・18	4.5	2月15日	81
	陸上競技場横遊歩道標識設置工事	吉田	E-20 H-18	2	10月28日	82
	正門前樹木植樹工事	吉田	I-12	5	11月4日	83
	事務局前樹木移設工事	吉田	K-15 I-16	14.5	7月18日	84
教育学部附属山口中学校グラウンド防球ネット管設工事	白石		1.3	12月24日	85	
教育学部附属山口小学校ガス管交換工事	白石		8	12月29日	86	

年度の当館の教職員配置は、専任教員3名、教務補佐員1名、技術補佐員1名であった。

上記の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工法の変更等で現状保存が可能であるかどうか厳密な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については、地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報(年報)を刊行している。

上記の調査体制のもと、平成27年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財調査は、表3のとおり、本発掘調査1件(予備発掘調査から本発掘調査に移行)、予備発掘調査1件、立会調査16件、ライフライン改修のための緊急立会1件の計17件であった。

吉田構内(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部:山口市吉田1677-1、教育学部附属特別支援学校:同吉田3003所在)

例年通り、平成27年度の埋蔵文化財調査も吉田構内に集中し、その件数は本発掘調査1件、立会調



写真28 吉田構内航空写真(南東から)



写真29 白石構内(教育学部附属山口幼稚園・小学校)航空写真(東から)



写真30 白石構内(教育学部附属山口中学校)航空写真(南から)



図1 山口大学吉田・白石構内位置図

査15件を数える。

当該年度は、共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証を取得するために必要な施設拡充が計画されたことから、動物医療センター周域に開発工事が集中した。中でも、動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査では、前年度に実施した動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査区に隣接しており、プレハブの下に古代埋没谷の最深部が存在することが確実であったことから、本発掘調査同等の対応をとったところ、谷埋土より多量の土器とともに、全国5例目となる音義木簡の出土を見た。そのほか、動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(設備関連)に伴う立会調査、動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(外灯)に伴う立会調査、動物医療センター外灯設置工事に伴う立会調査などにおいても埋没谷または遺物包含層を検出しており、遺物が出土している。

総合研究棟(国際総合科学部)改修工事に対しては、地下を深く掘削するエレベーター設置工事に対して、棟西面に予備発掘調査を実施し、遺構が希薄かつエレベーターの使用に大きな不都合のない場所を選定し、本発掘調査を行った。埋蔵文化財保護の観点から、本発掘調査区以外は遺構の検出にとどめたため、各遺構の性格や所属時期に不明な点を残すが、昭和56年(1981)に実施され、長らく調査区の正確な位置が不明であった教育学部H19区調査区(堅穴住居跡4棟、土壇8基、溝9条などが検出)との位置関係を知る手がかりを得た。

白石構内(教育学部附属山口幼稚園:山口市白石三丁目1-2、同山口小学校:白石三丁目1-1、同山口中学校:白石一丁目9-1所在)

立会調査2件を実施したが、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

小串構内(医学部、同付属病院:宇部市南小串1丁目1-1)

予備発掘調査1件を実施した。保育所新営その他工事に伴う予備発掘調査を、既設の保育所南西側の駐車場敷地にて実施した。調査計画どおり、旧海底堆積層(灰色砂礫に多量の貝が堆積する)に達する海拔0m付近まで掘削を行ったが、想定より早い梅雨入りのため調査区壁面が大きく崩落したことから、諸記録作業が行えなかった。

常盤構内(工学部:宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎:同上野中町2658-3所在)

平成27年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

光構内(教育学部附属光小学校、同光中学校:光市室積8丁目4番1号)

平成27年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。



図2 小串・常盤構内位置図



写真31 小串構内航空写真（南東から）



写真32 常盤構内航空写真（南から）



写真33 光構内航空写真（北東から）



図3 光構内位置図

第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

1. 総合研究棟(国際総合科学部)改修工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査



図4 調査区位置図



写真34 調査地点遠景(北上空から)



写真35 調査地点近景(北西から)

[予備発掘調査]

調査地区 吉田構内H-18・19区

調査面積 50㎡

調査期間 平成27年7月30日～8月7日

調査担当 横山成己 山田圭子

[本発掘調査]

調査地区 吉田構内H-18・19区

調査面積 14.6㎡

調査期間 平成27年8月19日～8月28日

調査担当 横山成己 山田圭子

調査結果

(1) 予備発掘調査の経緯(図4、写真34)

平成27年度に国際総合科学部が新設されたことを受け、学部本館の改修工事が計画された。新学部本館には教育学部校舎の一部が充てられたが、校舎建築時に実施された発掘調査では、弥生時代後期の堅穴住居跡4(可能性のあるものを含めると5)棟をはじめとする遺構が密に検出されていることから、改修工事には慎重な対応を必要とした。工事計画が具体化していく過程で、外付けのエレベーターシャフトが設けられることが判明したことから、平成27年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成27年6月16日開催)において、埋蔵文化財保護対応が審議された。審議の結果、エレベーターシャフト建設可能範囲全域に対しレンヂ調査を実施し、遺構の破壊が最小限である場所を選定した上で、本発掘調査を実施することが承認された。

【註】

1) 河村吉行(1983)「教育学部構内H-19区の発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報1』, 山口

(2) 予備発掘調査の経過(写真35)

平成27年7月29日に準備工および調査区内除草

を行い、現地調査前写真を撮影した(写真35)。調査区に関しては、既設建物西壁面から1m離れた位置に、東西幅2m、南北長20.8mのトレンチ設定を予定していたが、樹木の伐採を最小限にとどめるため、樹木周囲は掘削を避けることとなった。

翌30日に重機掘削を実施した。トレンチ北側(第4調査区側)から掘削を進めたが、既設建物の余掘りが想定より大きく、攪乱範囲が建物壁より約2.5mの規模(調査区東壁より1.5m)に達することが明らかとなった。この状況でのトレンチ調査では、開発予定域における遺構の分布の把握は困難であることから、施設環境部と緊急協議を行い、余掘り推定範囲での調査を減じ、代替処置として試掘坑を4箇所を設置(第1~4調査区)し、エレベーターシャフト開発城西限まで遺構の検出を行うこととした。31日以降、第1調査区から旧耕土の人力掘削および遺構の検出を実施した。調査の結果、第1調査区では土壌3基、ピット6基、北東-南西方向に走る溝1条、杭跡6箇所を検出し、第2調査区では杭跡2箇所を、第3調査区では土壌1基、ピット5基、杭跡5箇所を、第4調査区では溝1条を検出した。

8月7日(金)までに全調査区の記録作業まで終了し、予備発掘調査を終了した。

(3) 本発掘調査の経緯

平成27年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成27年8月18日開催)において、当開発工事計画に対する予備発掘調査成果が審議された。審議の結果、最も遺構が希薄であった第2調査区を中心にEVシャフトを増築することが決定されたため、本発掘調査を実施する運びとなった。

(4) 本発掘調査の経過

平成27年8月19日に第1・3・4調査区の埋め戻しおよび樹木の抜根作業を行い、翌20日に第2調査区拡張のための重機掘削を行った。

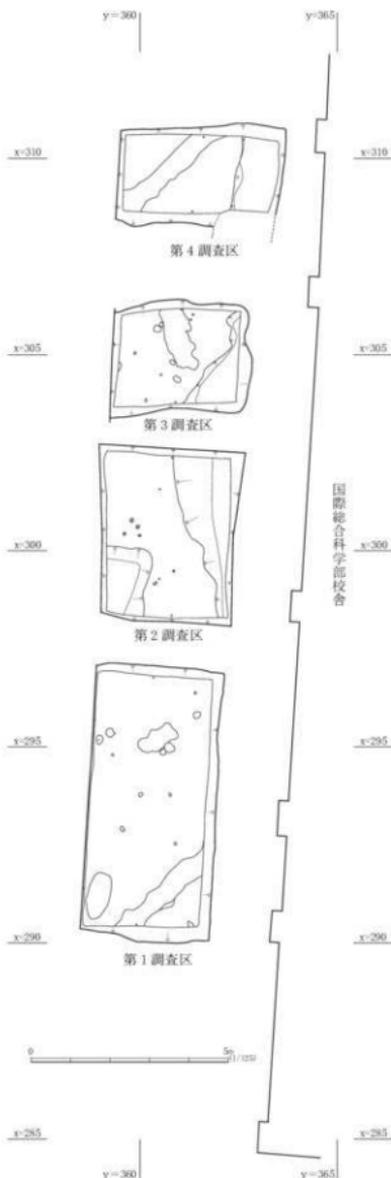


図5 調査区位置詳細図

21日に遺構検出、24日に断面精査および記録写真の撮影を行い、25～26日は台風15号接近のため現場を封鎖し、台風通過後に復旧作業を行った。27日に各種実測作業、28日に地山の断ち割り調査を行い、翌28日に埋め戻しを終え、調査を終了した。

(5) 基本層序(図6～9、写真37・39・41・43)

調査地は、造成土下に旧耕土および旧床土が遺存しており、その直下が明黄褐色(2.5Y7/4)シルトの地山となる。遺構検出面は地山上面となるが、その深度はコンクリートや碎石、植樹のための盛土を除くと、現地表下0.5～0.6mである。

(6) 遺構

【第1調査区】(図6、写真36・37)

最も南側の調査区で、南北長7m×東西幅3.25mで設定した。土壌3基、ピット6基、溝1条、杭跡6箇所を検出した。現国際総合科学部本館における発掘調査成果(H-19区)および遺構埋土の土質の違いから、土壌(SK1～3)およびピット(Pit1～6)は弥生時代の遺構であり、溝は近世以降の水田耕作に伴うものと推測される。後世の水田構築に伴い地山が大きく削平を受けていることから、明確な住居跡は確認できなかったものの、土壌(SK1・2)の主軸(北東-南西方向)はH-19区にて検出された方形竪穴住居跡と同方向であることから、住居内土壌の可能性が考えられる。一方でSK1は0.7m×0.55mの平面楕円形を呈しており、幼児墓である可能性も排除できない。また、調査区が狭小であるため、並びが明確に確認できなかったが、ピットのいくつかは住居の主柱穴である可能性がある。溝(SD1)は幅0.5m、検出長約3mで、北東-南西方向に直線的に走っている。

なお当調査においては、遺構は掘削せず埋め戻し保存を行う方針であったが、Pit1にて検出時に土器1点が露出したため取り上げを行った(図10の1)。

【第2調査区】(図7、写真38・39・45)

第1調査区の北側に隣接する調査区で、予備発掘調査時は南北長2.5m×東西幅3.25mで設定し、本発掘調査時にエレベーターシャフト設置工事幅に合わせて南北長を4.5mに拡張した。

調査区の東側は校舎建築時の余掘りにより大きく攪乱を受けており、南西隅も攪乱を受けていた。検出された遺構は杭跡6箇所のみである。

本発掘調査では、調査の最終盤で調査区中央を東西方向に地山(明黄褐色(2.5Y7/4)シルト)の断ち割りを行った(写真45)。これは、既往の調査において、構内の沖積低地に見られる同層に縄文時代後晩期の土器片が含まれる場合があるとの指摘を受けたからであったが、当調査では土器を確認するに至らなかった。

【第3調査区】(図8、写真40・41)

第2調査区の北側に隣接する調査区で、南北長2.7m×東西幅3.25mで設定した。

第2調査区同様、調査区の東から南東側は校舎建築時の余掘りにより大きく攪乱を受けていたが、土壌1基、ピット5基、杭跡5箇所を検出した。このうち、調査区の中央北側で検出した土壌(SK4)は長軸を北北西-南南東に向けており、全長1.6m以上、最大幅0.7mを測る。

【第4調査区】(図9、写真42・43)

最も北側の調査区で、南北長2.5m×東西幅4.15mで設定した。検出した遺構は溝1条(SD2)のみで、SD1と同様に幅0.5mで北東-南西方向に直線的に走っており、水田耕作に伴うものと推測される。

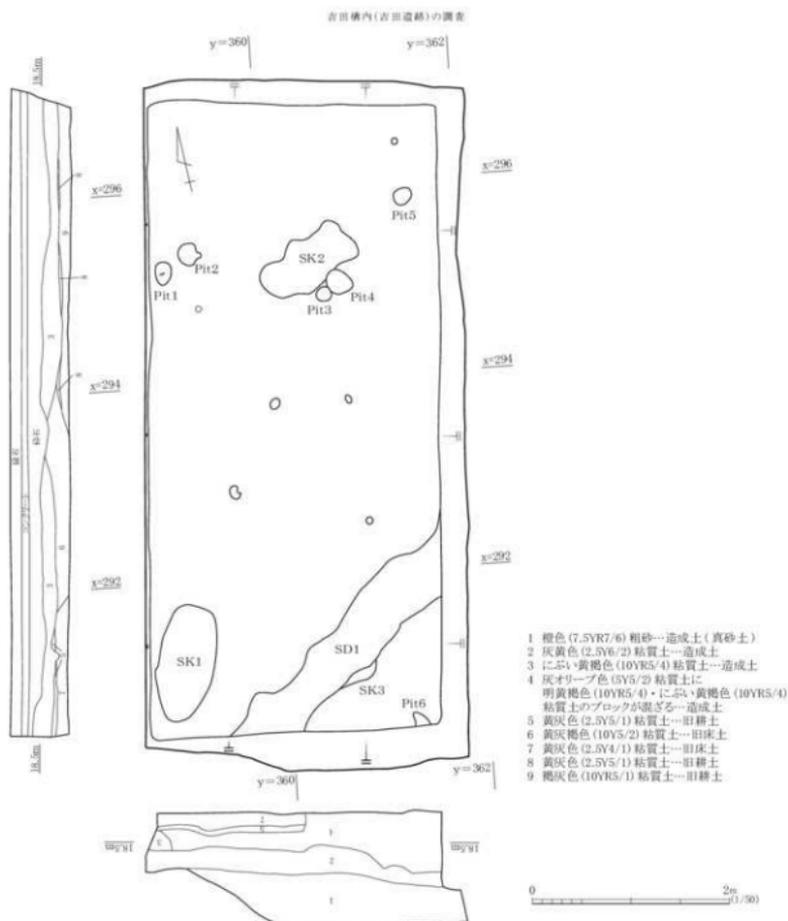


図6 第1調査区平面図・断面図



写真 36 第1調査区遺構検出状況(東から)



写真 37 第1調査区西壁上層断面(北東から)

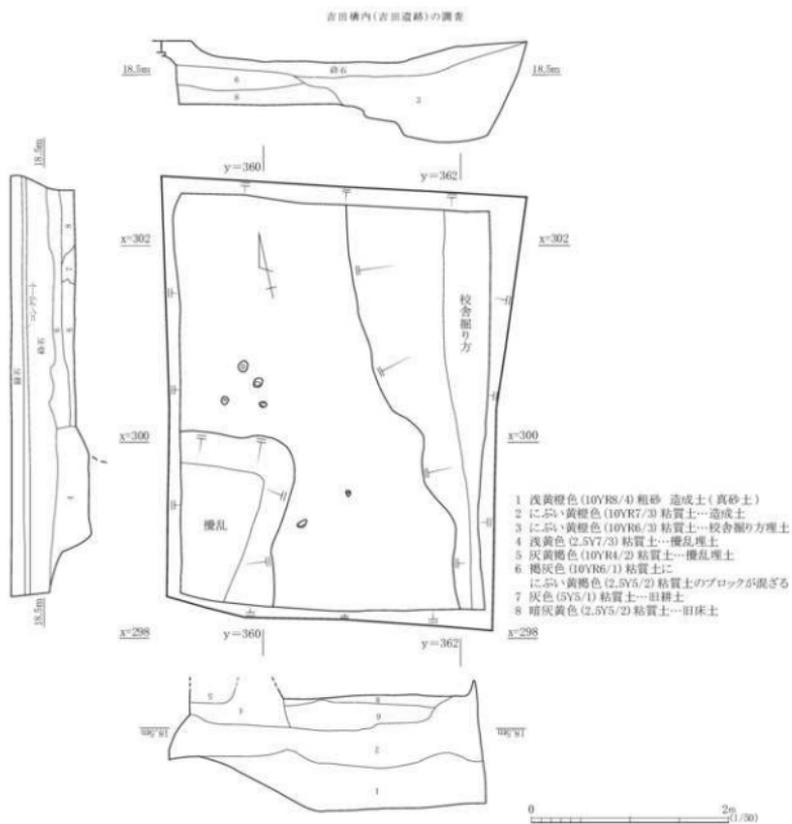


図7 第2調査区平面図・断面図



写真 38 第2調査区遺構検出状況(東から)



写真 39 第2調査区西・北壁土層断面(南東から)

吉田橋内(吉田道路)の調査

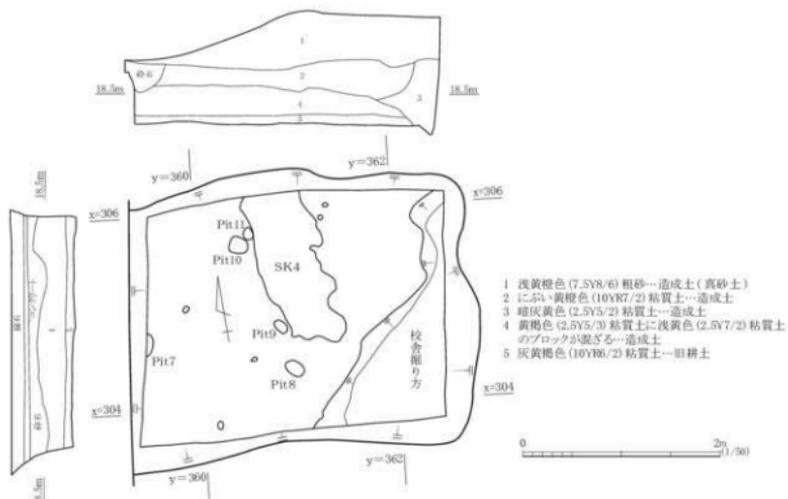


図8 第3調査区平面図・断面図

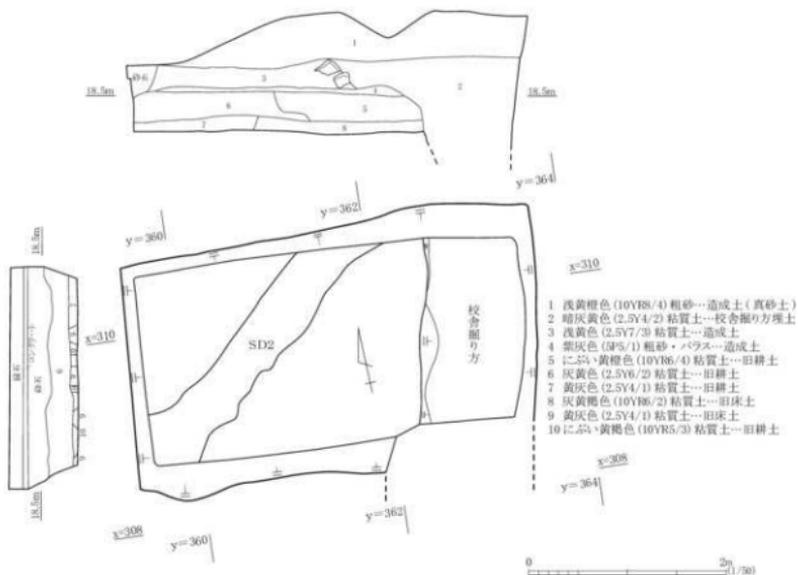


図9 第4調査区平面図・断面図



写真 40 第3調査区遺構検出状況(東から)



写真 41 第3調査区北壁土層断面(南東から)



写真 42 第4調査区遺構検出状況(東から)



写真 43 第4調査区北壁土層断面(南東から)



写真 44 作業風景(北東から)



写真 45 第2調査区地山断ら割り状況(北西から)

(6) 遺物(図10、写真46、表4)

調査では遺構掘削を行わなかったため、出土した遺物は極少量であり、図示可能なものは掲載した6点のみである。

1は第1調査区Pit1から出土した弥生土器底部付近の小片である。内面に横ハケ状の調整痕が見られる。2～5は各調査区の旧耕土および旧床土から出土した。2は須恵器高台付坏底部片。底部外端のやや内側に断面方形の小ぶりの高台が付く。当調査地の南東約80mに位置する遺跡保存公園では、古墳時代後期から奈良時代にかけて機能した南東から北西に走る自然河川が確認されていることから、遺物の由来地を推定できる。3は端部外面を蒲鉾形に肥厚させる陶器鉢口縁部片。藁灰軸。4は磁器染付碗の口縁部片。5は粗陶器の大甕口縁部片。6は陶器碗の高台底部片。藁灰軸。

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

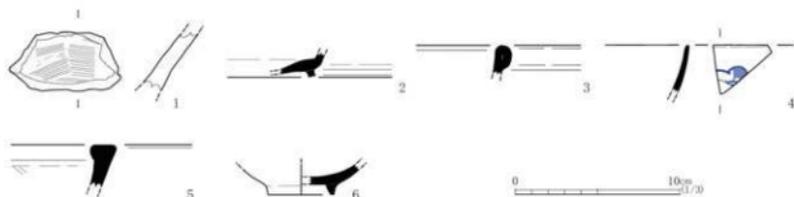


図10 出土土器実測図



写真46 出土遺物(土器)

表4 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①:検出時測定値 ②:復元値	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	第1調査区 P11	弥生土器 壺または 甕	底部	③残高2.5	①断面 浅黄褐色 (10YR8/3) ②(こぶ)黄褐色(10YR7/3)	0.5~5mmφの長石・0.5~ 1mmφのくさり練含む	
2	第1調査区 旧耕土	須恵器 高台付坪	底部	③残高1.45	①②断面 青灰色(5B5/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
3	第1調査区 旧耕土 ~ 旧床土	陶器 鉢	口縁部	③残高1.85	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(5Y8/1) 断面 にふい橙色 (7.5YR6/4)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	薬灰軸
4	第1調査区 旧耕土 ~ 旧床土	染付磁器 碗	口縁部	③残高3.0	①②断面 灰白色(10Y8/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
5	第3調査区 旧床土	粗陶器 壺	口縁部	③残高2.65	①②灰黄色(2.5Y7/2) 断面 にふい黄褐色 (10YR5/4)	0.5~3mmφの長石含む	
6	第4調査区 旧床土	陶器 高台付碗	底部	②(4.0) ③残高1.9	(軸葉)①②明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)~灰白色 (2.5GY8/1) (素地)①灰色(10Y6/1) 断面 灰白色(10Y7/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	薬灰軸

(7) 小結(図11・12、写真47)

国際総合科学部本館(旧教育学部H-19区)敷地における発掘調査では、測量の過失により調査区の正確な位置が不明となっていた。年報に付された調査区位置図(図11)を見ると、L字形の校舎増築予定地の下半部に対し調査を実施したと理解できるものの、遺構分布図に付記された座標を信頼すると調査区が西に隣接するグラウンドにまではみ出してしま(図12の $y=360$ の位置を参照)ためであるが、調査写真には隣接するグラウンドが映り込んでいることから、この可能性は排除できる。

H-19区のほぼ中央に存在する北西への地形の落ち込み(水田の段差)と並行して走るSD1に関しては、「段落ち下面で検出された8本の杭列との相関関係が認められるようであり最も新しく、近世以降のものと思われる」との記述がある。埋土は暗灰色砂質とされるが、このSD1の延長部が当調査の第1調査区で検出されたSD1である可能性が高い。第1調査区SD1の埋土は褐色(10YR4/1)粘質土であり相違が見られるものの、溝の幅、方向とも完全に一致している。このことから、両調査区のSD1から両調査区の位置関係を復元したのが図12である。

このように調査区位置を推定すると、H-19区の南壁は既設校舎の南壁と、調査区南西部の西壁は既設校舎の西壁とほぼ一致することになるが、問題となるのが「試掘調査の段階で未検出であった1号住居跡(SB1)および8号(7号の誤り:SK7)土塼西部分については遺構との完結性を重視し調査区域を拡張して調査を行った」との記述である。この記述にもとづけば、元来H-19区の西壁は直線的で、SB1とSK7の存在が確認されたことから西側に拡張したことになる。調査区位置図(図11)を見ると、元来の調査区西壁は既設校舎の西壁と一致するようであり、これが事実であれば拡張部が本調査の第1調査区と重複することとなる。しかし報告文や調査写真を見る限り、H-19区にて検出された遺構は完掘されていることから、調査区重複の可能性は否定される。

現状では図12の位置関係が最も妥当と判断せざるを得ず、H-19区の位置が動く可能性はSD1を基準に北東方向ということになるであろう。

また、微高地に形成された集落域が、さらに北西方向に広がる可能性が高まったことは大きな成果と言える。吉田遺跡の西部に広がる沖積低地は大部分がグラウンドとして使用されていることから、地下の様相に不明確な点が多い。周辺地においては、小規模開発でも丁寧に地下の情報を取得し続けるべきであろう。

末筆になるが、当調査において、埋蔵文化財保護のため、エレベーター設置位置に関し最大の理解を示していただいた国際総合科学部関係者各位に感謝したい。

【註】

- 1) 河村吉行(1983)「教育学部構内H-19区の発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報 1』、山口

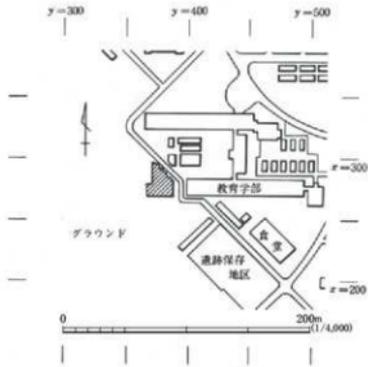


図 11 H-19 区位置図



写真 47 H-19 区全景 (東から)

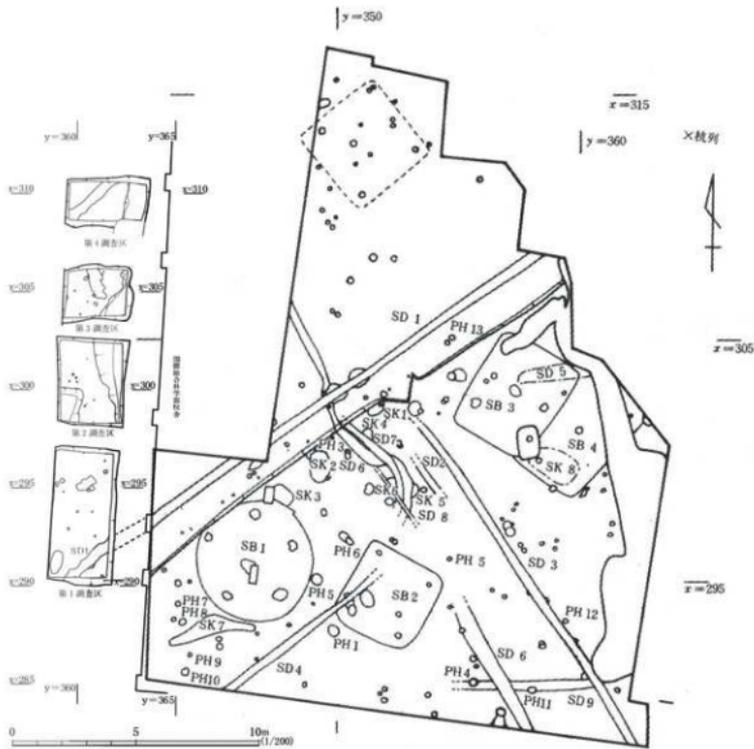


図 12 当調査区とH-19 区との位置関係

2. 動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(設備関連)に伴う立会調査



図13 調査区位置図



写真48 A地点土層断面(南から)



写真49 B地点土層断面(南から)



写真50 C地点土層断面(南東から)

調査地区 吉田構内R・S-19区

調査面積 44.5㎡

調査期間 平成27年3月31日～4月2日

調査担当 横山成己 山田圭子 乃美友香

調査結果

動物医療センターにリニアック室が増築されることを受け、建物が建設される動物医療センター西側空地に多数埋存している既設管の付け替え工事が計画された(図13)。

新たな管路の埋設深度は深く、動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査の成果から、遺物包含層や谷埋土ばかりでなく地山も大きく掘削することが確認されたが、建物の工事工程により設備関連の工期が逼迫していること、設備工事が法面のないオープンカットで実施されることなどから(写真48～50)、調査の安全性が確保できないことを理由に、館員による調査を断念し、重機掘削時に黒色土(遺物包含層および谷埋土)を選別して掘り上げてもらい、排出土中から遺物を回収せざるを得ないと判断した。

なお、当工事は平成26年度である3月31日に開始されたことから、本来26年度事業として報告すべきであるが、他の動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事との混乱を避けるため、平成27年度事業として報告を行うことにした。

回収した遺物は60×37×8cmの遺物収納コンテナ1箱分であったが、排出土が膨大であったため見落としも多いと思われる。以下に図示可能な遺物を報告する(図14・15、写真51～53、表5)。

1～9は須恵器坏蓋。1はボタン状つまみを有しており、扁平な天井部から直線的に口縁に移行し、端部を外方に下垂させる。3はかえりを有する口縁部片で焼成不良品。8は焼き歪みが大きい、天井部から外反気味に口縁が開き、鳥嘴状に端部を下垂させる。9はここでは坏蓋としたが、器壁が厚く口縁端部も内端がわずかに肥厚するのみである。

10～17は須恵器高台付坏。10～13は7世紀後半

から8世紀前半の資料で、長めの高台が底部外端より内側につき、内端で接地する。16は断面方形の小ぶりな高台が底部外端に付き、体部は開かず直線的に立ち上がる。9世紀前半代の資料と見られる。

18・19は無高台の須恵器坏。

20～30は須恵器坏の口縁～体部片。29は器壁が厚く、口縁内端部を断面三角形に肥厚させていることから、他器種の可能性がある。30の体部外面には墨書が見られるが、判読不能である。

31は須恵器皿。底部から内湾して口縁が立ち上がり、端部は軽く外反させている。

32～34は須恵器高坏。32は脚裾部片で、端部を外開きに下垂させる。33は焼成不良品で、脚柱部に通常見られる沈線が施されていない。

35は閉塞粘土円盤が剥離した須恵器横瓶の腹部片と見られる。

36は須恵器壺の口縁部片。外反する頸部から直立気味に口縁を立ち上げ、口縁外面をわずかに肥厚させる。

37は器種不明の須恵器で、動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査において谷埋土2下層から同様の土器が出土している(YD2014-INO, 242)。当須恵器は復元口径10.4cmの細い円筒の外面に鏝状の突帯を廻らせたもので、器面調整は回転ナゲである。同一個体であろう。

38～41は土師器高台付坏底部片。38は断面長方形の高台が底部外端よりわずかに内側に付く。39～41は断面三角形の高台が底部外端に付くが、体部が直線的に立ち上がる40に比して39・41は開き気味に立ち上がることから碗の底部である可能性が高い。42は無高台の土師器坏底部片で、43は土師器坏口縁部片としたが皿の可能性が高い。

44は土師器高坏としたが、形態的に見て須恵器高坏と変わらず、胎土も精選されている。須恵器の焼成不良品である可能性が高い。

45～50は土師器甕の口縁部片。内面に稜をもって屈曲気味に外反させるもの(45)、大きく外反させるもの(46・47・50)、軽く外反させるもの(48・49)が見られる。

51は土師器ミニチュア土器壺としたが、精選された粘土を用いており、つくりも丁寧である。何らかの土製品かもしれない。

工事掘削を地上より観察した限りでは、谷埋土の遺存範囲は図13に示したとおりであり、動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査や動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区、農学部解剖実習棟新営に伴う事前調査区^{11,12}の成果と矛盾しない。

当調査では、十分な埋蔵文化財保護対応が執れなかった。既往の調査により、古代官衙の存在を示す数多くの貴重資料が確認されている地域であることから、慎重な工事計画の立案と、十分な埋蔵文化財保護体制の確立が求められる。

【註】

- 1) 横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成26年度—』, 山口
- 2) 横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成20年度—』, 山口
- 3) 田畑直彦(2004)「平成14年度山口大学溝内遺跡調査の概要」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学溝内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

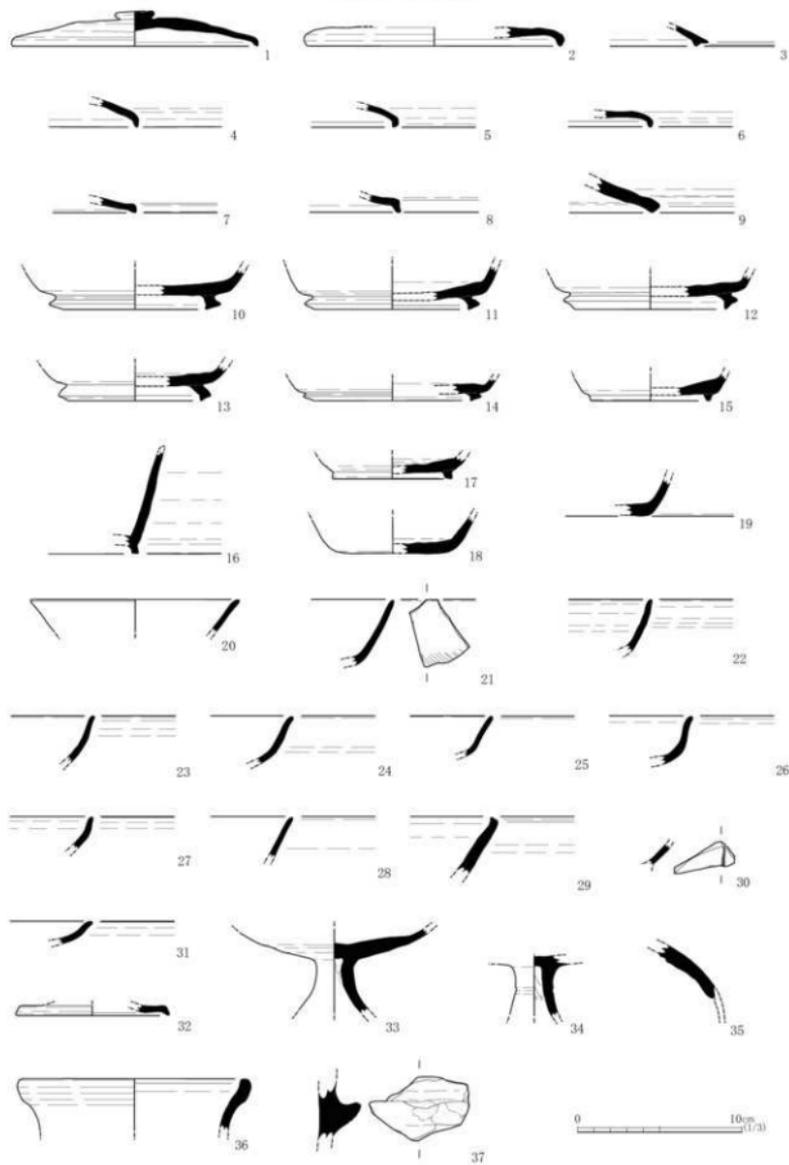


图 14 遺物包含層・谷埋土出土土器実測図①

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

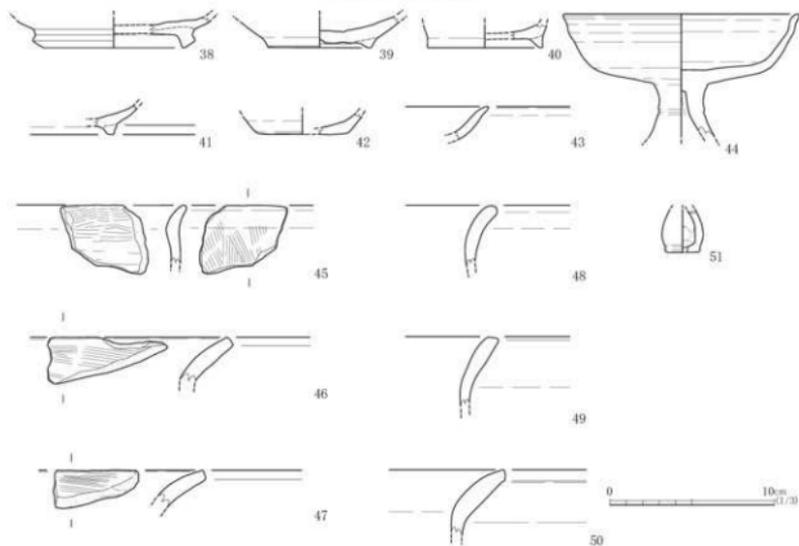


图 15 遺物包含層・谷埋土出土土器実測図②



写真 51 出土遺物(土器)①



写真 52 出土遺物 (土器)②

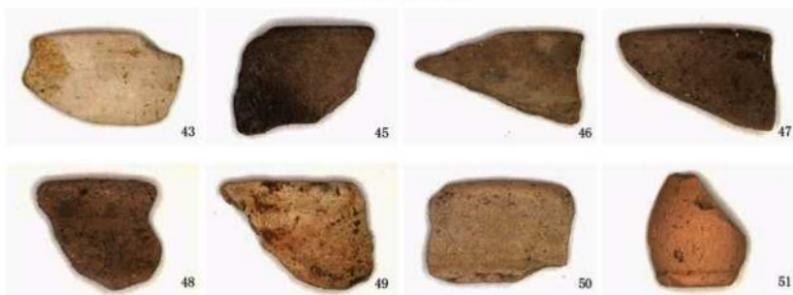


写真 53 出土遺物（土器）③

表5 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口縁②底縁③器高	④外面 ⑤内面	①外面 ②内面			
1	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(14.8) ②2.15		①②断面 灰白色(N7/)		0.5～2mmφの長石含む	
2	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(15.4) ③残高1.15		①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N8/)		0.5～5mmφの長石含む	
3	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.25		①灰色(N4/) ②断面 灰白色(5Y8/1)		0.5～1mmφの長石含む	焼不良
4	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.7		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面 灰白色(N7/)		0.5～1mmφの長石含む	
5	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4		①明青灰色(5PB7/1) ②明青灰色(5PB7/1)～ 青灰色(5PB6/1) 断面 灰白色(N8/)		0.5mmφの長石含む	
6	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.0		①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N8/)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	
7	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95		①②灰色(N6/) 断面 灰白色(N7/)		0.5mmφの長石含む	
8	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.8		①明青灰色(5PB7/1)～ 青灰色(5PB6/1) ②黄灰色(5Y5/1) 断面 灰白色(5Y7/1)		0.5mmφの長石含む	焼きひずみ
9	包含層谷埋土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高2.1		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(10Y7/1)		0.5～2mmφの長石含む	ひずみ大
10	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(8.6) ③残高2.5		①灰白色(N8/) ②灰色(N6/) 断面 灰白色(5Y7/1)		0.5～4mmφの長石含む	焼成やや 不良
11	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(7.2) ③残高2.7		①② 灰白色(N7/) 断面 灰白色(N7/)		0.1～2mmφの長石含む	
12	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(9.2) ③残高2.1		①灰色(N6/) ②灰色(N5/) 断面 灰白色(2.5Y7/1)		0.5～2mmφの長石含む	
13	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(8.0) ③残高2.2		①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N8/)		0.5～2mmφの長石含む	
14	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(9.5) ③残高1.3		①②明青灰色(5PB7/1)～ 青灰色(5PB6/1) 断面 灰白色(N7/)		0.5～2mmφの長石含む	
15	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(6.8) ③残高1.75		①灰白色(5Y8/1)～ ②灰白色(7.5Y7/1) ～灰色(7.5Y6/1) 断面 にんじょう色(5YR6/4)		0.5～2mmφの長石含む	焼成やや 不良
16	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	口縁 ～底部	③残高6.3		①青灰色(5PB6/1) ②青灰色(5PB6/1)～ 断面 青灰色(5PB6/1)		0.5～1mmφの長石含む	
17	包含層谷埋土	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(7.2) ③残高1.4		①②明青灰色(5PB6/1) 断面 灰白色(N7/)		0.5～2mmφの長石含む	

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm)	色調	胎土	備考
				①口縁②底③残高	①外面 ②内面		
18	包含層 谷埋土	須恵器 坏	体部 ～底部	②(7.9) ③残高2.3	①②灰色(N6/) 断面 灰色(N6/)	0.5～2mmφの長石含む	
19	包含層 谷埋土	須恵器 坏	体部 ～底部	③残高2.35	①灰色(N6/) ②断面 灰白色(SY7/1)	1mmφの長石含む	
20	包含層 谷埋土	須恵器 坏	口縁部	①(12.6) ③残高2.0	①②灰白色(N8/～N7/) 断面 灰白色(N8/～N7/)	0.5mmφの長石含む	
21	包含層 谷埋土	須恵器 坏	口縁 ～体部	③残高4.1	①灰白色(N7/) ～ 暗灰色(N3/) ②灰色(N6/) 断面 灰白色(N8/)	0.5～3mmφの長石含む	
22	包含層 谷埋土	須恵器 坏	口縁 ～体部	③残高3.25	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N8/)	0.5～1mmφの長石含む	
23	包含層 谷埋土	須恵器 坏	口縁 ～体部	③残高2.9	①灰白色(N7/) ～ 灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
24	包含層 谷埋土	須恵器 杯	口縁 ～体部	③残高2.9	①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
25	包含層 谷埋土	須恵器 杯	口縁 ～体部	③残高2.5	①②断面 灰白色(N7/) ～ 灰色(N6/)	0.5mmφの長石含む	
26	包含層 谷埋土	須恵器 杯	口縁 ～体部	③残高3.0	①灰色(N4/) ②灰色(SY4/1) 断面 灰白色(N8/)	0.3mmφの砂粒含む	
27	包含層 谷埋土	須恵器 杯	口縁部	③残高2.0	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) ～ 灰色(N6/) 断面 灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
28	包含層 谷埋土	須恵器 杯	口縁部	③残高2.5	①灰色(N6/) ②断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
29	包含層 谷埋土	須恵器 杯	口縁部	③残高3.5	①②灰色(N6/) 断面 灰白色(7.SY7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
30	包含層 谷埋土	須恵器 杯	体部	③残高2.5	①②灰色(N6/) 断面 灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	外面墨書
31	包含層 谷埋土	須恵器 皿	口縁部	③残高1.45	①灰白色(N8/～N7/) ②断面 灰白色(N8/)	0.32mmφの砂粒含む	
32	包含層 谷埋土	須恵器 高坏	裾部	②裾部径(9.2) ③残高0.6	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面 灰白色(N8/)	0.1mmφの長石含む	
33	包含層 谷埋土	須恵器 高杯	坏 ～脚部	③残高5.2	①黄灰色(2.SY6/1) ②灰白色(2.SY7/1) 断面 灰白色(2.SY8/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
34	包含層 谷埋土	須恵器 高杯	脚部	③残高3.25	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) ～ 灰色(N4/) 断面 灰白色(SY7/1)	1～2mmφの長石含む	
35	包含層 谷埋土	須恵器 横瓶	腹部	③残高3.25	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) ～ 灰色(N6/) 断面 灰白色(SY8/2)	0.5～2mmφの長石含む	
36	包含層 谷埋土	須恵器 壺	口縁 ～頸部	①(13.2) ③残高3.2	①②断面 灰白色(N8/)	0.5～1mmφの長石含む	
37	包含層 谷埋土	須恵器 器種不明		③残高2.5	①②断面 灰白色(7.SY8/1)	0.5～4mmφの長石含む	YD2014-1 NO.242と 同一個体か
38	包含層 谷埋土	土師器 高台付坏	底部	②(8.4) ③残高1.9	①灰白色(2.SY8/2) ②浅黄褐色(10YR8/3) 断面 浅黄褐色(10YR8/3)	0.5～2mmφの長石含む	
39	包含層 谷埋土	土師器 高台付坏	底部	②(5.8) ③残高1.95	①②断面 灰白色(2.SY8/2)	0.5～4mmφの長石・石英含 む	
40	包含層 谷埋土	土師器 高台付坏	底部	②(6.9) ③残高1.4	①②断面 浅黄色(2.SY8/3)	0.5～1mmφの長石・チャー ト含む	
41	包含層 谷埋土	土師器 高台付坏	底部	③残高1.9	①②断面 灰白色(2.SY8/2)	0.5～1mmφの長石・石英含 む	
42	包含層 谷埋土	土師器 坏	体部 ～底部	②(5.4) ③残高1.3	①②③④黄色(2.SY6/3) ～ 暗灰黄色(2.SY5/2) ②浅黄色(2.SY7/3) 断面 黄灰色(2.SY6/2)	0.5～2mmφの長石・石英含 む	
43	包含層 谷埋土	土師器 坏	口縁部	③残高2.05	①②断面 灰白色(2.SY8/2)	0.3mmφの砂粒含む	
44	包含層 谷埋土	土師器 高坏	口縁 ～脚部	①(14.2) ③残高7.6	①灰白色(2.SY8/1) ②灰白色(2.SY8/2) 断面 灰白色(2.SY8/1)	0.5～1mmφの長石含む	須恵器焼成 不良品か

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量 (cm) ①口縁②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
45	包含層 谷埋土	土師器 甕	口縁部	③残高3.2	①にぶい・黄色(2.5Y6/3) ②黄褐色(2.5Y5/3) 断面 灰黄色(2.5Y6/2)		0.5~3mmφの長石含む	
46	包含層 谷埋土	土師器 甕	口縁部	③残高3.85	①浅黄色(2.5Y7/3) ②断面 浅黄色(2.5Y7/4)		0.5~3mmφの長石含む	
47	包含層 谷埋土	土師器 甕	口縁部	③残高2.35	①にぶい・黄色(2.5Y6/3) ②断面 浅黄色(2.5Y7/3)		0.5~4mmφの長石・石英 珪を含む	
48	包含層 谷埋土	土師器 甕	口縁部	③残高2.8	①にぶい・黄褐色(10YR7/4) ②浅黄色(2.5Y8/3) 断面 灰白色(2.5Y7/1)		0.5~2mmφの長石・石英・ チャート・くさり礫含む	
49	包含層 谷埋土	土師器 甕	口縁部	③残高4.3	①②浅黄褐色(10YR8/4) 断面 灰色(N4)		0.5~2mmφの長石・石英含 む	
50	包含層 谷埋土	土師器 甕	口縁部	③残高4.05	①②断面 浅黄色(2.5Y7/3)		0.5~1mmφの長石・チャ ート含む	
51	包含層 谷埋土	ミナチュア土器 甕	体部 ~底部	②(1.8) ③残高2.65	①浅黄褐色(7.5YR8/4) ②断面 灰白色(2.5Y8/2)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	

3. 動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査



図16 調査区位置図

調査地区	吉田構内S-19・20区
調査面積	50㎡
調査期間	平成27年4月22日～5月1日
調査担当	横山成己 川島尚宗 山田圭子
調査結果	

調査の経緯(図16、写真54・55)

動物医療センターにリニアック室が増築されることを受け、平成26年度に計画地を対象に本発掘調査を実施した。その結果、検出された埋没谷埋土より墨書土器「□ツカ殿」「田」のほか、製塩土器や輪羽口、多量の木製品が投棄された状態で発見された。

本発掘調査で問題となったのは、動物医療センター西端部に増築されているプレハブ施設(前室・手術室・覚醒室)の存在であった(写真55右上「解体建物」)。工事計画では、この施設を解体のちリニアック室を建設する予定となっていたが、平成26年度中は施設を講義に使用するため、本発掘調査時に敷地を調査対象とすることができず、平成27年度に工事立会として調査を実施する運びとなった。

【註】

- 1) 横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成26年度-』, 山口



写真54 調査区近景(北東から)



写真55 本発掘調査時の模様(西から)

調査の経過(写真56・57)

平成27年度に至り、動物医療センター西端部のプレハブが撤去された4月22日より、約50㎡(7m×7m)を対象範囲として立会調査に着手した。工事施工業者に依頼し、重機にて造成土を除去したところ、増築施設の基礎は浅く、埋没谷が完全に遺存しており、部分的に上位の遺物包含層も残存していることが明らかとなった。翌23日より資料館員3名(横山・川島・山田)にて人力掘削に着手したが、ゴールデンウィーク明けの5月7日よりリニアック室建設工事着工というスケジュールを鑑み、3名での完掘

は不可能と判断し、翌24日より作業員5名を研究補助員として雇用し、作業を行うこととなった。

27日、谷埋土3上層掘削中に多量の木製品を確認した。木筒状の板製品を取り上げ直後に洗浄したところ、明確に文字が確認されたことから、当時人文学部教授であった橋本義則氏に実見調査を依頼した。当資料のその後の調査経緯や成果に関しては、すでに略報に記している³¹⁾のでここでは省く。以降も谷埋土の掘削を続け、翌28日に掘削を終了し、5月1日に写真撮影・測量等諸記録作業を行い、立会調査を終了した。

【註】

- 1) 横山成己(2018)「吉田遺跡出土「千字文」音義木簡略報」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成25年度—』, 山口

遺構(図17・18、写真58～61)

調査区内において、東から西に走る谷筋を検出した。谷の落ち込みは調査区北東端部よりはじまり、南方に緩やかに傾斜したのち、急勾配で谷底に落ち込んでいる。谷の深さは最深部で約1mを測る。緩傾斜部にビット2基を確認しているが、埋土の土質は谷埋土2上層と同一である。その他、谷の緩傾斜部、急傾斜部、谷底に杭を検出しているものの、規則性は見出せない。

基本層序は、平成26年度に実施した本発掘調査と完全に一致しており、谷の堆積土は①谷埋土1(黄灰色(2.5Y4/1)強粘質土に1～2mmφの白色礫がごく少量混ざる)、②谷埋土2上層(黒褐色(10YR3/1)弱粘質土に0.5～2mmφの礫が少量混ざる)、③谷埋土3下層(谷埋土2上層と同質・同色であるが0.5～10mmφの礫が多量に混ざる)、④谷埋土3上層(黒褐色(2.5Y3/2)泥土に5～30mmφの礫がごく少量混ざる)、⑤谷埋土3下層(黒色(N2/)泥土※有機物腐植土層)、⑥谷埋土4(黒褐色(2.5Y3/2)泥土に灰黄色(2.5Y6/2)強粘質土が混ざる)・谷埋土5(5～100mmφの砂礫)となっている。このうち、⑥の谷埋土4・5は層が薄く湧水が著しいため厳密な分層は行えなかった。

当調査区と周辺の既往調査区との位置関係を示したのが図18である。平成20年度に実施した動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区(YD2008-5-2)と動物医療センター(リアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査(YD2014-1)の成果から、谷の最深部幅は約4.5mであることが確認されたが、南東—北西方向であった谷筋が、より上位の当調査区地点ではやや北に振り東南東—西北西方向であることがわかる。なお谷の底面高は、当調査区南東南部からYD2014-1西端部までの約24mの間に、0.65m降下する。

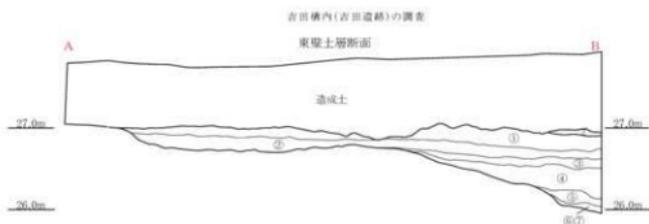
- 1) 横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成20年度—』, 山口

遺物(図20～29、写真62～71、表6・7)

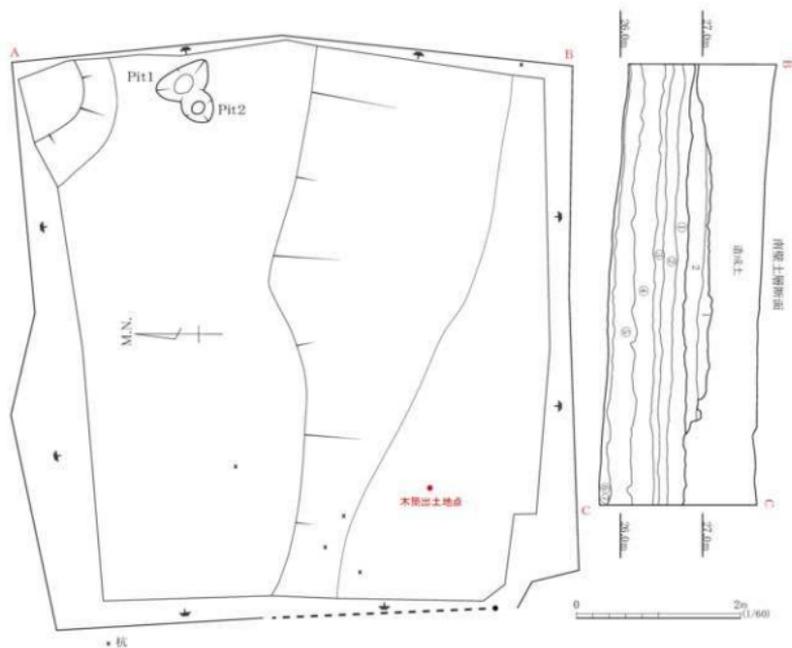
当調査で出土した遺物は、土器類が60×37×8cmの遺物収納コンテナで8箱分、木製品が60×37×15cmの遺物収納コンテナで2箱分である。

埋没谷における土器の出土は、谷埋土2上層が最も多く、次いで谷埋土2下層→谷埋土1→谷埋土1→谷埋土3上層→谷埋土3下層の順となっている。最下層である谷埋土4・5からは出土していない。

木製品は大半が音義木簡が出土した谷埋土3上層から出土しており、谷埋土3下層から少量出土しているほかは確認されなかった。自然木が大半と見られるが、木簡以外は炭化作業が進行していないことから、次年度刊行予定の年報にて報告することとし、本稿には土器と石器のみ掲載する。



動物区画センター建物直壁



※ 杭

- 1 包含層1 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土
- 2 包含層2 褐灰色(10YR4/1)に褐色(10YR4/4)が混ざる粘質土
- ① 谷埋土1 黄灰色(2.5Y4/1)強粘質土に1~2mmφの白色礫が極少量混ざる
- ② 谷埋土2上層 黒褐色(10YR3/1)弱粘質土に0.5~2mmφの礫が少量混ざる
- ③ 谷埋土2下層 谷埋土2上層と同色・同質であるが0.5~10mmφの礫が多量に混ざる
- ④ 谷埋土3上層 黒褐色(2.5Y3/2)泥土に0.5~3cmφの礫が極少量混ざる(木製品多量に含む)※木炭出土層
- ⑤ 谷埋土3下層 黒色(N/2)泥土 ※有機物腐植土層
- ⑥ 谷埋土4 黒褐色(2.5Y3/2)泥土に灰黄色(2.5Y6/2)強粘質土が混ざる
- ⑦ 谷埋土5 0.5~10cmφの砂礫(水洗堆積層)
- 地山 明黄褐色(2.5Y6/6)シルトに灰色(N/5)シルトが部分的に混ざる

図 17 調査区平面図・断面図

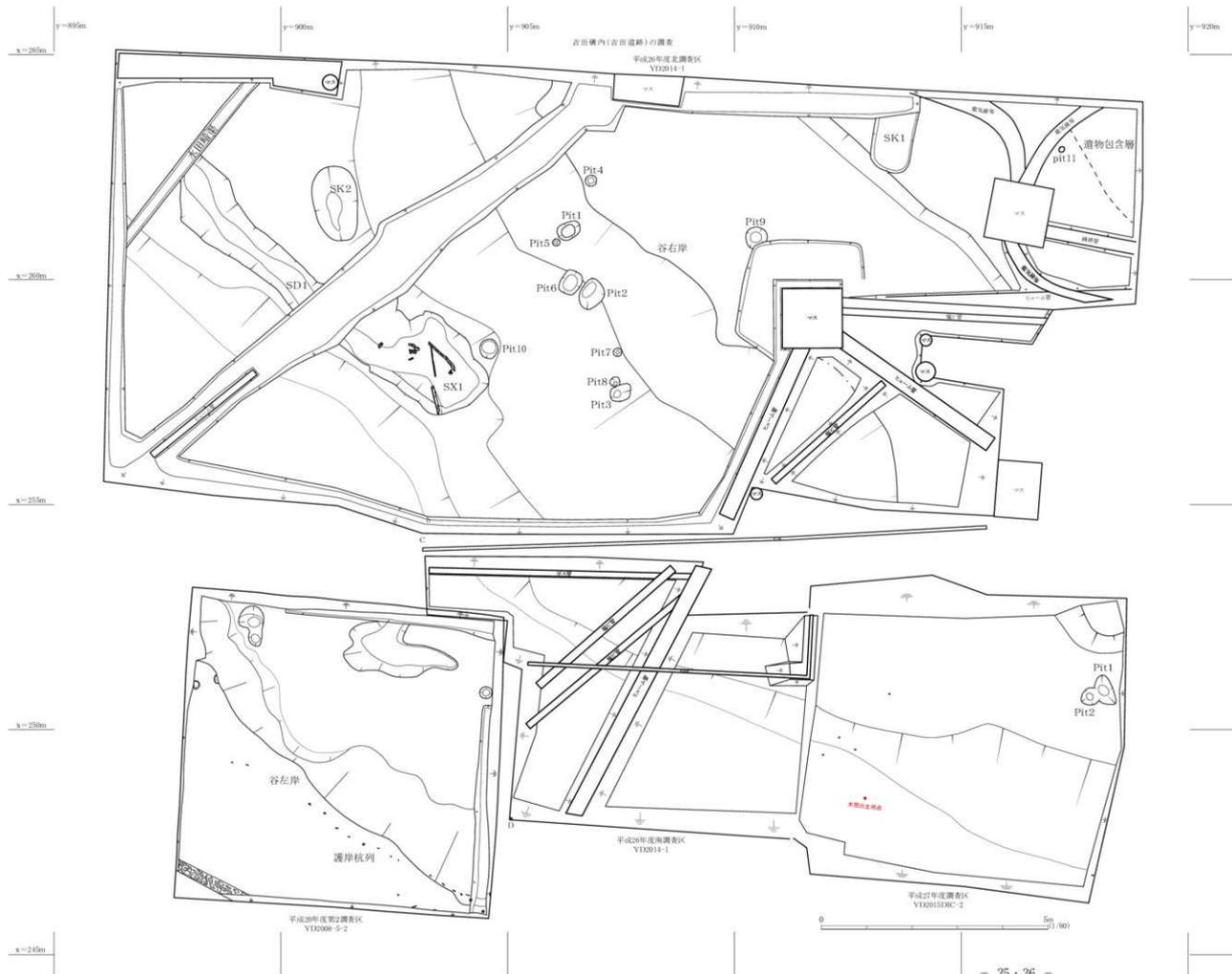


図18 周辺調査区との位置関係



写真 56 調査風景 (南西から)



写真 57 調査風景 (西から)



写真 58 完掘状況 (北東から)



写真 59 完掘状況 (東から)



写真 60 調査区南壁土層断面 (北から)



写真 61 調査区東壁土層断面 (西から)

谷埋土3下層出土土器(図19、写真62、表6)

本発掘調査同様、小片を含めても少量で、図示できる資料は6点に過ぎない。

1は須恵器高坏の坏-脚柱部片で、脚柱の沈線は中位よりやや上に巡らされているようである。2は坏底部と見られ、外面に直線のヘラ記号が見られる。3は土師器碗の底部片。底部外端に外方に開くやや長めの高台が付く。4・5は無高台の土師器坏底部片。6は大きく外反する土師器甕口縁部片。

谷埋土3上層出土土器(図20、写真62、表6)

谷最深部への廃棄物投棄が本格化する時期に形成された堆積層である。

7~9は須恵器坏蓋。7はボタン状つまみを有しており、扁平なドーム状の天井部から緩やかに内湾して口縁に降下する。8・9も天井部から内湾して口縁に降下する蓋で、8は口縁内端を肥厚させ、9は端部を垂直に下垂させている。

10は須恵器高台付坏の底部片。器壁の厚い底部の外端に外方に開く高台が付く。高台の外端はつまみ出されている。11~14は須恵器坏口縁部片。11はロクロ水引き痕が明瞭に残る。15は坏底部と思われる、外面に「○」状の墨書が見られる。

16~18は須恵器高坏。16は完形復元可能な個体で、脚柱部の沈線はほぼ中位に巡る。吉田遺跡の古代須恵器高坏に見られる特徴の一つである。

19は須恵器甕口縁部片。折損部付近にわずかに沈線と櫛描波状文が残る。20はほぼ直立する須恵器甕口縁部片。

21・22は土師器坏口縁部片。21は口縁がわずかに外反するが、22は直線的に口縁端部に至る。

23・24は土師器皿。23は二重口縁の皿口縁部と見られるが、吉田遺跡では類例を見ない。24は都城系土師器で、内面に暗文が施されている。

25~27は土師器甕。25は「く」字状に口縁を屈曲させており、26・27の内面には指押さえ痕が明瞭に残されている。

谷埋土2下層出土土器(図21・22、写真63・64、表6)

下流域では谷の最深部からあふれて緩傾斜部に堆積するが、当調査区では最深部上位中に堆積がとどまっている。

28~37は須恵器坏蓋。当層の蓋には28~32のようにかえりを有する蓋が目立つ。一方で、谷埋土3上層と同様に天井部から内湾して口縁部に至る34があるものの、屈曲気味に口縁が外方に開き端部を下垂させる35・36、扁平な天井部から水平に口縁に至る36・37など、より後出する資料が含まれる。

38~52は須恵器高台付坏。蓋同様形態的なバリエーションが多く、7世紀後半代から9世紀代の資料が混ざる。

53~58は須恵器の無高台坏。53は完形復元可能な坏で、わずかに丸みを帯びた底部から直立して体部が立ち上がり、口縁は軽く外反する。59は坏底部と思われるが、現状で「V」字状のヘラ記号が残り、既往の調査でも出土している「鳥足ヘラ記号」の可能性がある。60~67は須恵器坏口縁部片。

68~70は須恵器高坏片。69は皿口縁部の可能性が残る。

71は須恵器長頸壺の頸部片。頸基部に断面三角形の突帯が見られる。豊前地域からの搬入品か。72は須恵器壺口縁一体部片。口縁上端に面を取る。73は須恵器壺の底部片か。74~77は須恵器甕。76・77は頸部片で、沈線で区画された文様帯に櫛描波状文を充填する。

78~84は土師器の坏と皿。84の皿には赤色塗彩が施される。85~87は土師器甕。87は口縁端部を上方に跳ね上げている。88は土師器の把手片。89は黒色土器A類の体部小片。

吉田墳内(吉田遺跡)の調査

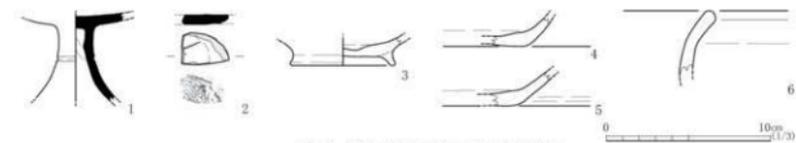


図19 谷理土3下層出土土器実測図

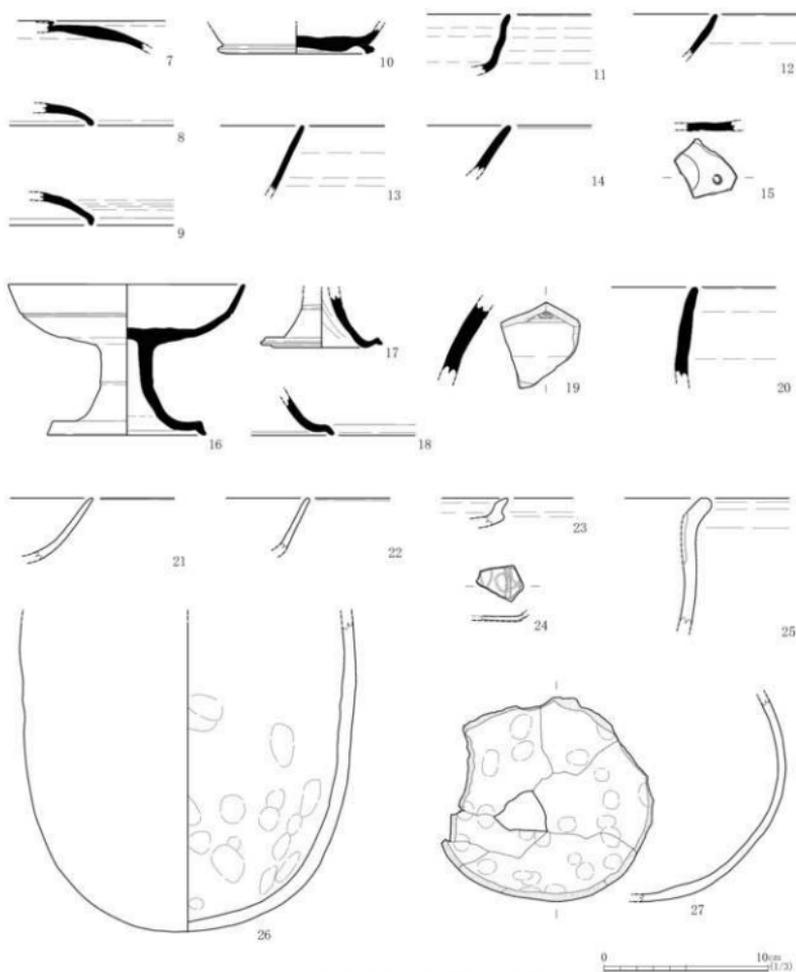


図20 谷理土3上層出土土器実測図

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

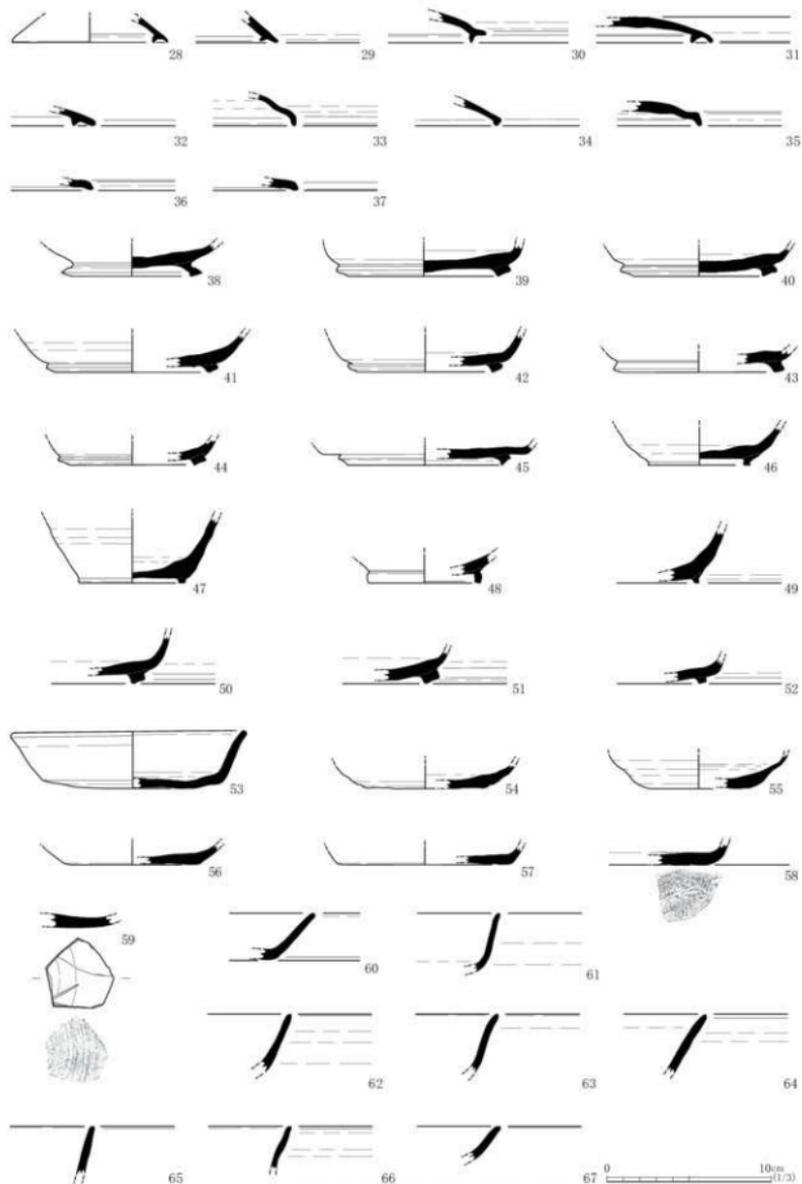


图 21 谷埋土 2 下層出土土器実測图①

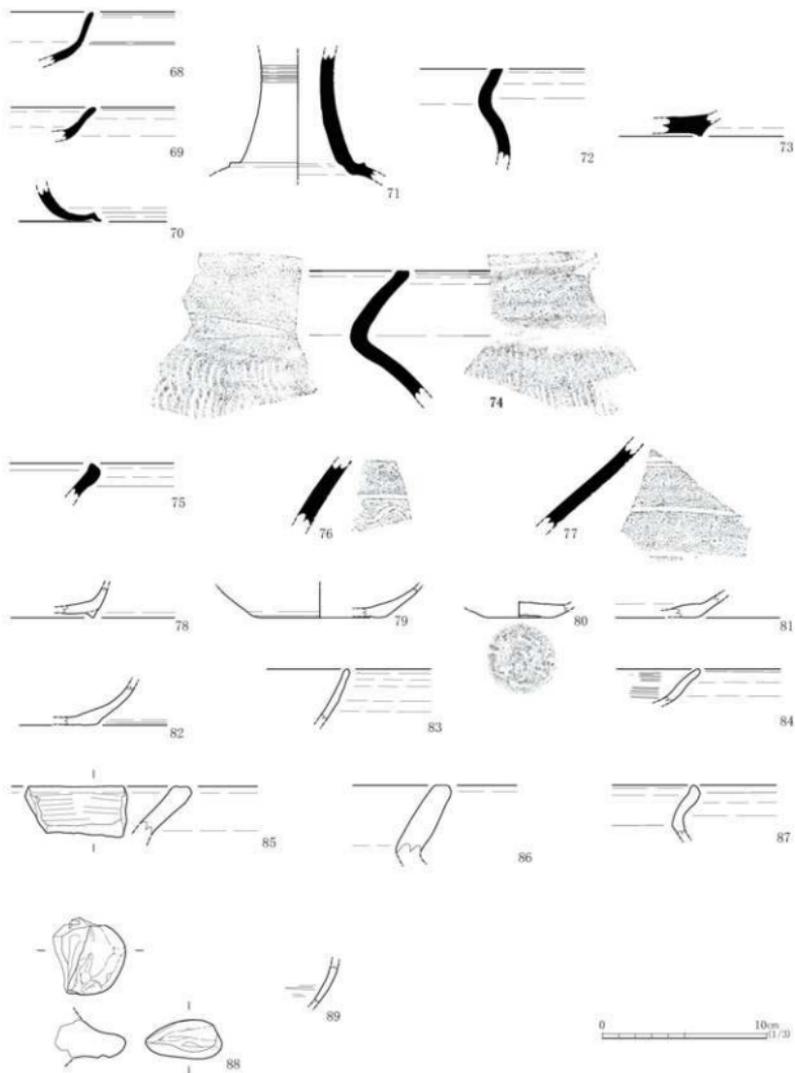


図 22 谷埋土 2 下層出土土器実測図②

谷埋土2上層出土土器(図23～25、写真64～68、表6)

遺物の包含量が増加するが、谷への直接的な投棄の結果ではなく、周域に展開し、その後廃絶した官衙または集落から流入した状況を示している。

90～104は須恵器坏蓋。かえりを有する口縁96～98、天井部から内湾気味に降下する口縁99、天井一口縁境界に稜を形成し、直線的に降下させる口縁100、屈曲気味に外方に開き端部を下垂させる口縁90・102・103などバリエーションに富む。

105～119は須恵器高台付坏。蓋同様こちらにも形態的なバリエーションが多く、7世紀後半代から9世紀代の資料が混在する。

120～126は無高台の須恵器坏。120は完形復元可能な個体で、丸みを帯びた底部から直線的に体部が立ち上がり、口縁をわずかに外反させている。倒置させ高台付坏が載せられ状態で焼成された痕跡を残している。127～135は坏口縁部片。135の外面には墨書が見られる。

136・137は須恵器皿。136は完形復元可能な皿で、吉田遺跡では高台付皿の蓋と目される資料と同形態であるが、復元口径25.2と大型品であることから、ここでは皿としておく。138～141は須恵器高坏。

142須恵器高台付壺の底部片。143も高台付壺の底部片であるが小型品であり、高台基部に6方向から径1～1.5mmの孔を穿っている。144は壺の肩部と見られ、外面に櫛描列点文が施される。145は横瓶または平瓶の粘土円盤閉塞部片。146は横瓶の閉塞粘土円盤片で、内面に布目が見られる。

147は長頸壺の頸部片。頸の基部と中位に2条の回転沈線が施される。

148～154は須恵器甕。体部外面はいずれも平行叩きが施され、内面はいずれも同心円当てで具痕が残る。152の外面には沈線と櫛描波状文が見られる。

155は円面碗の脚部片。形態的な特徴、胎土や焼成具合から既出の円面碗とは別個体であり、吉田遺跡では4例目の出土となる。

156～158は緑釉陶器碗の底部片。いずれも釉の乗りが悪く、高台基部などに部分的に緑釉が見られるに過ぎない。159は青磁碗の体部片。

160～164は土師器高台付坏の底部片。いずれも底部外端に断面方形または台形の小ぶりの高台が付く。165・166は無高台の坏で、165には糸切痕が残る。167・168は坏口縁部片。169～174は土師器碗の底部片。170にはわずかに糸切痕が残る。

175・176は土師器皿。175は都城系の皿で、内面に暗文が施される。177は赤色塗彩が施されており、ここでは高台付皿としておく。

178～180は土師器高坏。178は木製模倣とされる大型高坏の脚部片で、八角形に面を取っている。吉田遺跡では初出となる。

181～188は土師器甕口縁部片。口縁が外反または外傾するもの(181～183・186)、直立するもの(184・185)、内湾するもの(187・188)がある。189・190は土師器の把手片。

191・192は埋没谷に散見される輪羽口片。小破片が多いのが特徴と言える。

193は弥生土器高坏口縁部片。谷左岸丘陵地(現農学部附属農場牧草地)に営まれた弥生時代集落に由来すると見られ、同時代の遺物は谷埋土より散発的に出土する。

谷埋土1出土土器(図26・27、写真68～70、表6)

浅い窪地となった谷地に形成された堆積層で、遺物はさらに小片化する。

194～207は須恵器坏蓋。形態的なバリエーションが多いのは谷埋土2上下層と同様である。208は天井一口縁境界部に沈線が巡る蓋で、ここでは壺蓋としておく。

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

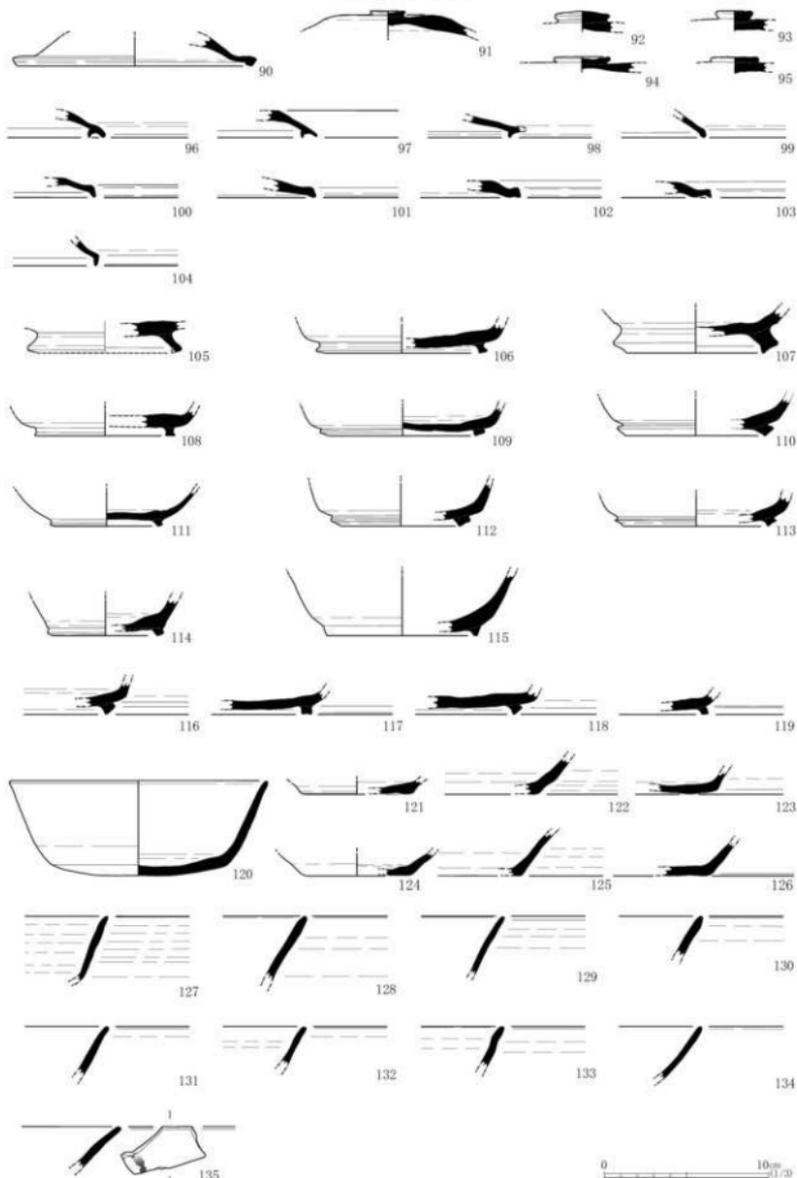


図 23 谷埋土 2 上層出土土器実測図①

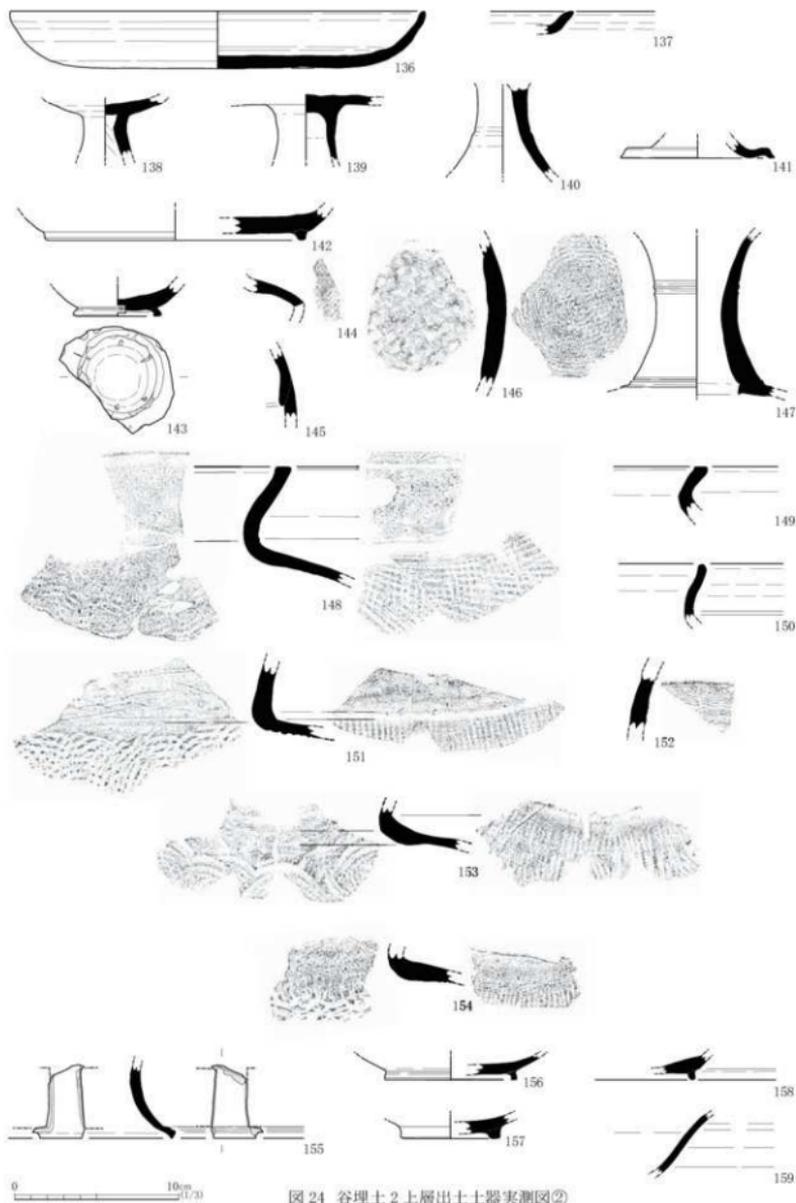


图 24 谷埋土 2 上層出土土器実測図②

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

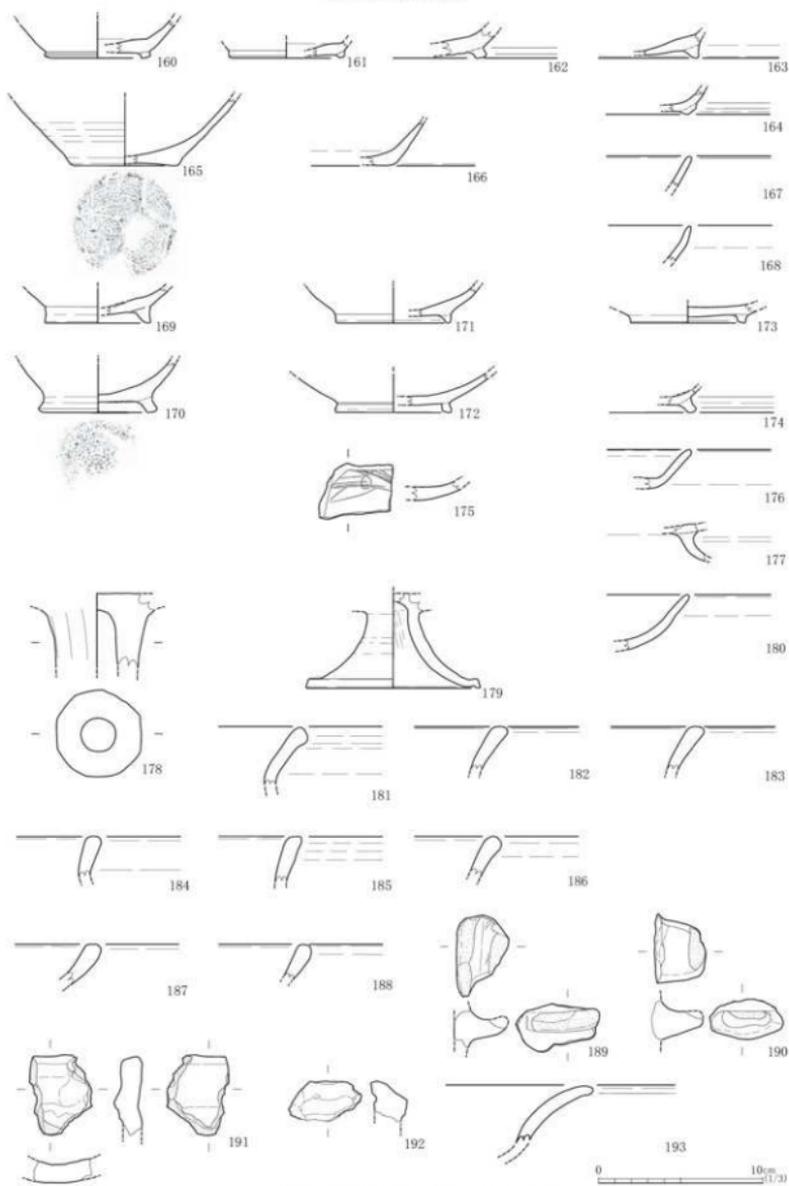


図 25 谷埋土 2 上層出土土器実測図③

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

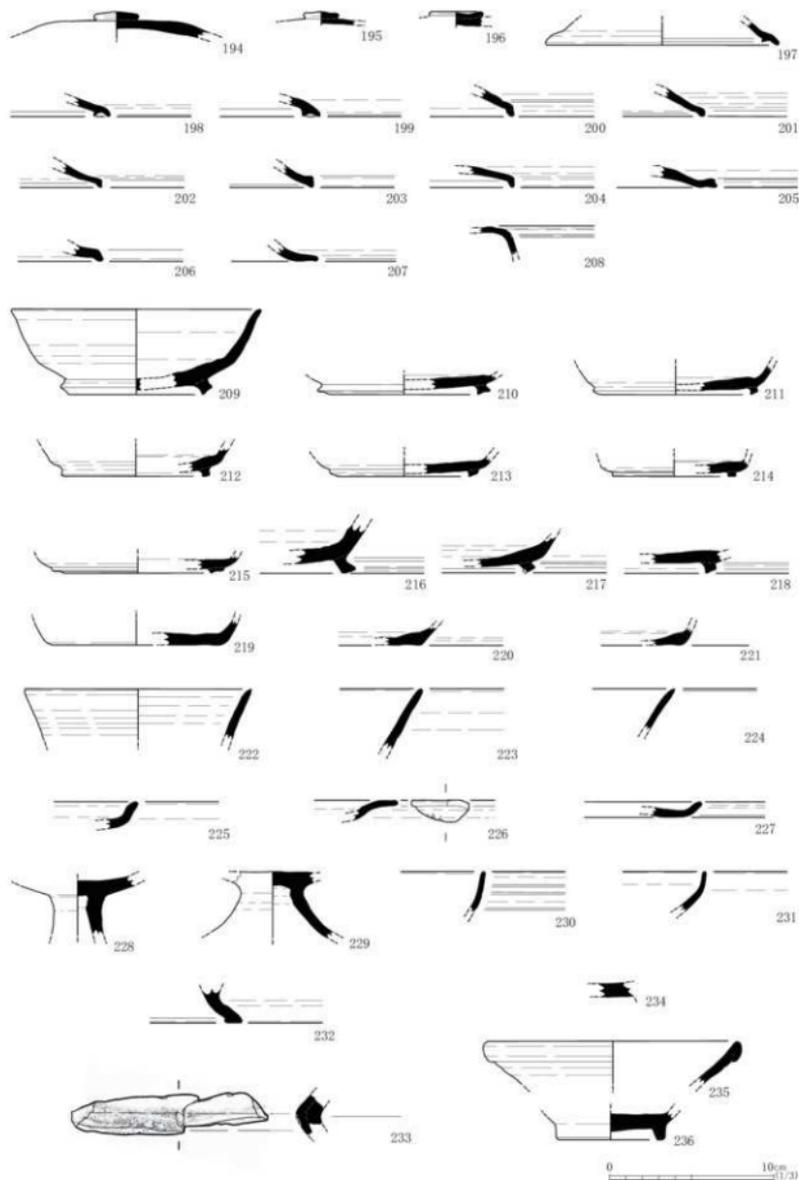


図 26 谷理土 1 出土土器実測図①

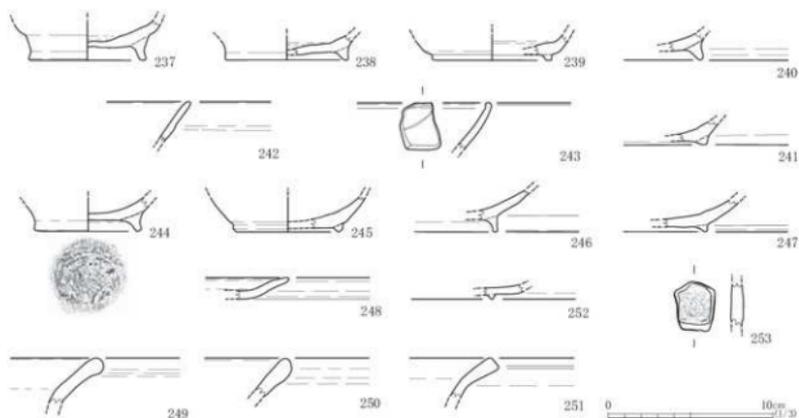


図 27 谷埋土 1 出土土器実測図②

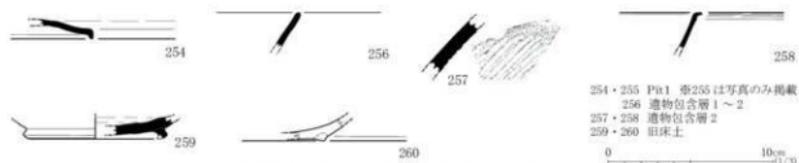


図 28 遺構・遺物包含層 I 劫・出土土器実測図

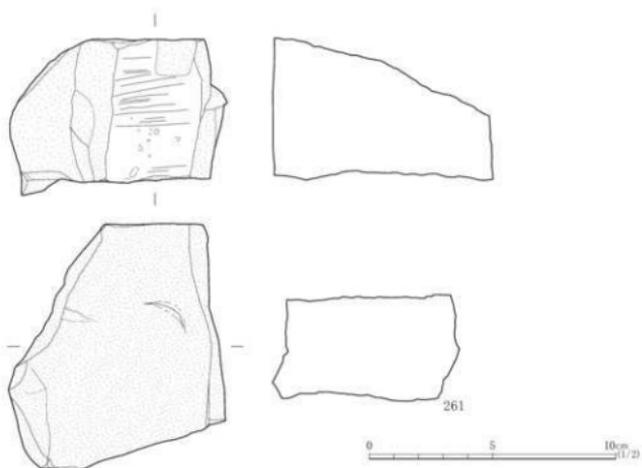


図 29 出土土器実測図



写真 62 出土遺物 (土器)①



写真 63 出土遺物 (土器)②

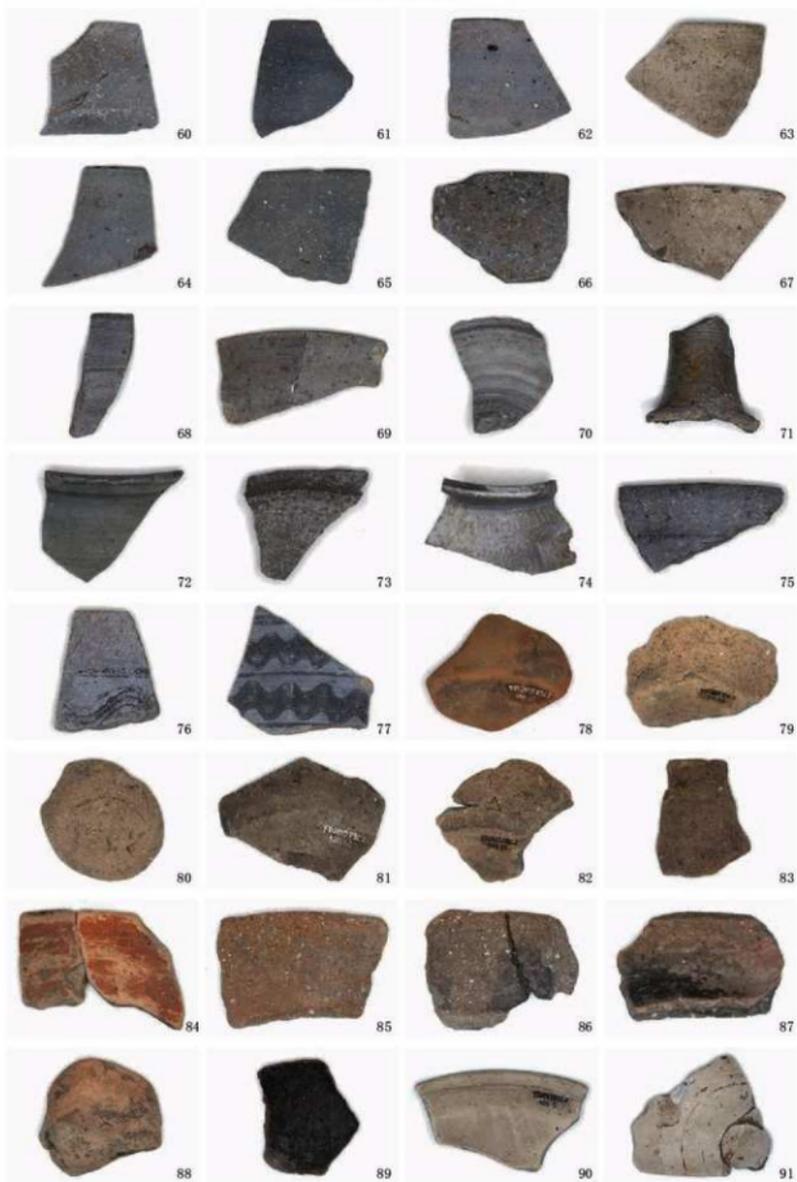


写真64 出土遺物(土器)③



写真 65 出土遺物 (土器)④



写真66 出土遺物(土器)⑤

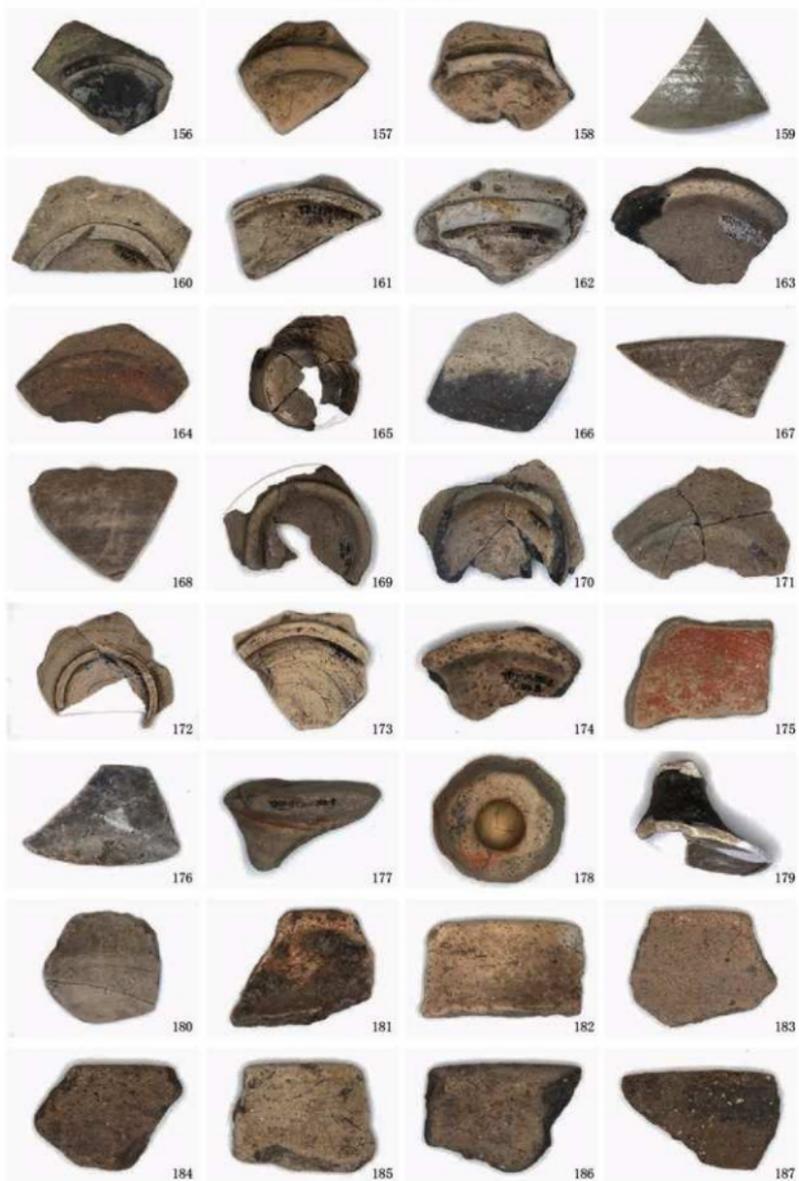


写真 67 出土遺物 (土器) ⑥



写真 68 出土遺物 (土器)⑦



写真 69 出土遺物 (土器) ⑤

吉田橋内(吉田遺跡)の調査



- 1～6 谷埋土3 下層
7～27 谷埋土3 上層
28～89 谷埋土2 下層
90～193 谷埋土2 上層
194～251 谷埋土1
- 254・255 PH1 ※255は写真のみ掲載
256 遺物包含層1～2
257・258 遺物包含層2
259・260 旧床土

写真70 出土遺物(土器)⑨



261 谷埋土3 上層

写真71 出土遺物(石器)

表6 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②底縁③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	谷埋土3 下層	須恵器 高坏	脚部	③残高5.45	①灰白色(7.5Y7/1～N7/) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(7.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む		
2	谷埋土3 下層	須恵器 坏	底部	③残高0.6	①②断面 灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	底部外面 へラ記号	
3	谷埋土3 下層	土師器 椀	底部	②(6.0) ③残高1.75	①断面 浅黄色(2.5Y7/3) ②浅黄色(2.5Y8/3)	0.5～1mmφの長石・1～ 2mmφのくさり礫含む		
4	谷埋土3 下層	土師器 坏	底部	③残高1.8	①②断面 灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む		
5	谷埋土3 下層	土師器 坏	底部	③残高2.1	①淡黄色(2.5Y8/4)～にぶ い黄色(2.5Y8/3) ②灰白色(2.5Y8/2)～明青 灰色(5P47/1) 断面 灰白色(2.5Y8/2)～青 灰色(5B5/1)	0.5～1mmφの長石含む		
6	谷埋土3 下層	土師器 甕	口縁部	③残高4.0	①②淡黄色(2.5Y8/3) 断面 灰色(N4/)	0.5～1mmφの長石・石英・ くさり礫・チャート含む		
7	谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.8	①②断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む		
8	谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.35	①断面 灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良	

吉田境内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量 (cm) ①:口縁 ②:底縁 ③:器高	色調		粘土	備考
					①外面	②内面		
9	谷埴土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高2.0		①灰色 (N5/) ②灰色 (N6/) 断面 灰白色 (N7/)		
10	谷埴土3 上層	須恵器 高台付坏	底部	②8.5 ③残高1.55		①灰色 (N6/) ②灰白色 (N7/) 断面 灰白色 (N8/)	0.5~2mmφの長石含む	
11	谷埴土3 上層	須恵器 坏	口縁部 ~体部	③残高3.6		①灰色 (N5/) ②灰色 (N6/) 断面 灰白色 (N7/)	1mmφの長石含む	
12	谷埴土3 上層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5		①②灰色 (N5/) 断面 黄灰色 (5RP6/1)	0.5~1mmφの長石含む	
13	谷埴土3 上層	須恵器 坏	口縁部	③残高4.15		①灰色 (N5/) ②断面 灰白色 (N7/)	0.5mmφの長石含む	
14	谷埴土3 上層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.8		①②断面 灰白色 (N7/)	1mmφの長石含む	
15	谷埴土3 上層	須恵器 坏	底部	③残高0.65		①断面 灰白色 (2.5Y8/2) ②灰色 (5Y6/1)	0.5~2mmφの長石含む	底部外面 黒着 焼成やや 不良
16	谷埴土3 上層	須恵器 高坏	口縁部 ~底部	①(14.3) ②(9.7) ③(9.25)		①②灰白色 (N7/) 断面 灰白色 (2.5Y8/1)	0.5~1mmφの長石含む	
17	谷埴土3 上層	須恵器 高坏	脚部	②(7.4) ③残高3.2		①灰白色 (2.5Y7/2)~暗灰 色 (N3/) ②暗灰色 (N3/) 断面 灰白色 (N7/)	1mmφの長石含む	
18	谷埴土3 上層	須恵器 高坏	脚部	③残高2.5		①②灰色 (N6/) 断面 灰白色 (5Y7/1)	1mmφの長石含む	
19	谷埴土3 上層	須恵器 甕	頸部	③残高5.25		①青灰色 (5PB6/1) ②灰色 (N6/) 断面 灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5~1mmφの長石・3mmφ のチャート含む	
20	谷埴土3 上層	須恵器 甕	口縁部	③残高5.55		①②灰色 (N5/) 断面 灰白色 (N7/)	0.5~3mmφの長石含む	
21	谷埴土3 上層	土師器 坏	口縁部 ~体部	③残高3.8		①灰黄色 (2.5Y6/2) ②灰色 (5Y5/1) 断面 灰白色 (2.5Y8/1)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	須恵器模倣 土師器
22	谷埴土3 上層	土師器 坏	口縁部	③残高3.2		①灰色 (N4/) ②断面 灰白色 (2.5Y8/2)	0.5~2mmφの長石含む	須恵器模倣 土師器
23	谷埴土3 上層	土師器 皿	口縁部	③残高1.7		①にぶい黄褐色 (10YR7/2) ②にぶい黄褐色 (10YR6/3) 断面 灰黄褐色 (10YR6/2)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	
24	谷埴土3 上層	土師器 皿	底部	③残高0.35		①断面 にぶい黄褐色 (10YR7/3) ②にぶい赤褐色 (5YR5/4)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	郡城系 土師器
25	谷埴土3 上層	土師器 甕	口縁部 ~体部	③残高7.8		①②断面 灰黄褐色 (10YR6/2)	0.5~2mmφの長石・石英含 む	
26	谷埴土3 上層	土師器 甕	体部 ~底部	③残高18.9		①黒褐色 (10YR3/2) ②灰褐色 (7.5YR4/2)~黒褐 色 (7.5YR3/2) 断面 褐灰色 (10YR5/1)	0.5~1mmφの長石含む	YD2014-1 Na63同一個 体か
27	谷埴土3 上層	土師器 甕	体部	③残高12.5		①暗灰黄色 (2.5Y4/2)~に ぶい橙色 (7.5YR6/4) ②黒褐色 (10YR3/2) 断面 灰黄褐色 (10YR6/2)	0.5~1mmφの長石含む	
28	谷埴土2 下層	須恵器 坏蓋	口縁部	①(9.4) ③残高1.6		①灰色 (5Y5/1) ②灰色 (N5/) 断面 灰白色 (N8/)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	
29	谷埴土2 下層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高3.2		①灰白色 (2.5Y7/1~N7/) ②灰白色 (2.5Y7/1) 断面 灰白色 (2.5Y8/1)	1mmφの長石含む	
30	谷埴土2 下層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.9		①断面 灰白色 (N7/) ②暗灰色 (N3/)	1mmφの長石含む	
31	谷埴土2 下層	須恵器 坏蓋	天井部 ~口縁部	③残高1.55		①灰白色 (N8/) ②暗灰色 (N3/) 断面 灰白色 (N7/)	0.5~1mmφの長石含む	
32	谷埴土2 下層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.05		①灰黄色 (2.5Y6/2) ②灰黄色 (2.5Y7/2) 断面 灰白色 (2.5Y8/1)	1mmφの長石含む	焼成不良
33	谷埴土2 下層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.95		①②断面 灰白色 (N7/)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
34	谷埴土2 下層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.65		①灰白色 (2.5Y7/1) ②断面 灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5~1mmφの長石含む	焼成やや 不良

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm)	色調	粘土	備考
				①×②残高③底面	①外面 ②内面		
35	谷埴土2下層	須恵器 環蓋	天井部～口縁部	③残高1.5	①②灰色(N6/)断面 灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
36	谷埴土2下層	須恵器 環蓋	口縁部	③残高0.7	①灰黄色(2.5Y6/2)②黄灰色(2.5Y6/1)断面 上は黄褐色(2.5Y6/3)	1mmφの長石含む	
37	谷埴土2下層	須恵器 環蓋	口縁部	③残高0.75	①②断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成不良
38	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(7.0)③残高2.0	①断面 灰白色(2.5Y8/2)②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～3mmφの長石含む	焼成不良
39	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(9.0)③残高1.9	①青灰色(5B6/1)②灰色(N6/)断面 灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
40	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(7.7)③残高1.8	①灰白色(N7/)～灰色(N5/)②断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
41	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(9.0)③残高2.3	①②断面 灰黄色(2.5Y7/2)断面 灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
42	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.2)③残高2.35	①灰色(N6/)②断面 灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
43	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(9.3)③残高1.35	①灰白色(5Y7/1)～灰色(N4/)②灰色(10Y4/1)断面 灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
44	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(7.6)③残高1.5	①②青灰色(5B5/1)断面 灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
45	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(9.3)③残高1.3	①②灰色(N6/)断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
46	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(6.2)③残高2.35	①灰色(5Y6/1)②灰色(7.5Y6/1)断面 灰色(N6/)	0.5mmφの長石含む	
47	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	体部～底部	②6.2③残高4.0	①灰色(N6/)～青灰色(10BG6/1)②青灰色(10BG6/1)断面 灰色(N6/)	0.5～3mmφの長石・石英含む	
48	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	②(6.8)③残高1.8	①灰白色(10YR8/2)②灰黄色(2.5Y7/2)断面 灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	緑釉陶器の可能性あり 焼成不良
49	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	体部～底部	③残高3.25	①②灰白色(5Y7/1)断面 灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
50	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	③残高2.85	①②灰白色(2.5Y8/2)～暗灰色(N3/)断面 灰白色(2.5Y8/2)	1mmφの長石含む	焼成不良
51	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.95	①灰白色(N8/)～灰色(N5/)②断面 灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
52	谷埴土2下層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.55	①②断面 青灰色(5B5/1)	0.5～1mmφの長石含む	
53	谷埴土2下層	須恵器 坏	口縁部～底部	①(14.0)②(11.0)③3.55	①灰色(N4/)②灰白色(N7/)断面 灰褐色(5YR5/2)	0.5～1mmφの長石含む	
54	谷埴土2下層	須恵器 坏	底部	②(7.0)③残高1.45	①灰白色(N7/)②断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5～4mmφの長石含む	
55	谷埴土2下層	須恵器 坏	底部	②(7.4)③残高2.1	①②断面 灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
56	谷埴土2下層	須恵器 坏	底部	②(8.4)③残高1.25	①灰白色(N7/)②灰色(N6/)断面 上は黄褐色(10YR5/3)	0.5～2mmφの長石含む	
57	谷埴土2下層	須恵器 坏	底部	②(10.6)③残高1.15	①②断面 灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
58	谷埴土2下層	須恵器 坏	底部	③残高1.25	①②断面 灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	底部外面へう記号 焼成やや不良 底部外面へう記号
59	谷埴土2下層	須恵器 坏	底部	③残高0.9	①②灰黄色(2.5Y7/2)断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
60	谷埴土2下層	須恵器 坏	口縁部～底部	③残高2.9	①灰色(N6/)②断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
61	谷埴土2下層	須恵器 坏	口縁部～体部	③残高3.6	①灰色(N5/)②灰色(N6/)断面 灰黄褐色(10YR6/2)	0.5～3mmφの長石含む	
62	谷埴土2下層	須恵器 坏	口縁部	③残高3.55	①灰色(N6/)②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	遺構・部位	器種	部位	法量(cm)	色調	胎土	備考
				①口縁②底縁③器高	①外面 ②内面		
63	谷埴土2下層	須臾器 坏	口縁部～体部	③残高3.6	①②断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成不良
64	谷埴土2下層	須臾器 坏	口縁部	③残高3.65	①②断面 灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
65	谷埴土2下層	須臾器 坏	口縁部	③残高2.95	①灰色(N6/) ②断面 灰色(N6/)	0.5～2mmφの長石含む	
66	谷埴土2下層	須臾器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰色(7.5Y6/1) ②断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
67	谷埴土2下層	須臾器 坏	口縁部	③残高2.1	①②断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良
68	谷埴土2下層	須臾器 高坏	口縁部	③残高3.25	①灰白色(N7/) ②灰色(5Y6/1)～灰白色(N7/) 断面 灰白色(7.5Y7/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
69	谷埴土2下層	須臾器 高坏	口縁部	③残高2.0	①明青灰色(5P17/1) ②断面 浅灰色(2.5Y7/3)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
70	谷埴土2下層	須臾器 高坏	脚部	③残高2.1	①②断面 灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
71	谷埴土2下層	須臾器 長頸壺	頸部	③残高7.7	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(5Y7/2)	1mmφの長石含む	
72	谷埴土2下層	須臾器 壺	口縁部～体部	③残高5.6	①青灰色(5B6/1) ②灰白色(7.5Y7/1)～(N7/) 断面 灰白色(7.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
73	谷埴土2下層	須臾器 壺	底部	③残高1.85	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(N7/) 断面 灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
74	谷埴土2下層	須臾器 甕	口縁部～頸部	③残高7.9	①②断面 灰色(N6/) 断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
75	谷埴土2下層	須臾器 甕	口縁部	③残高2.1	①灰色(N6/) ②断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
76	谷埴土2下層	須臾器 甕	頸部	③残高3.8	①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
77	谷埴土2下層	須臾器 甕	頸部	③残高5.15	①②断面 灰色(N6/) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
78	谷埴土2下層	土師器 高台付坏	底部	③残高1.9	①②断面 褐色(7.5YR6/6)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
79	谷埴土2下層	土師器 坏	底部	②(8.2) ③残高1.85	①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②にぶい黄褐色(10YR5/3) 断面 灰色(N4/)	0.5～3mmφの長石・0.5～1mmφのくさり礫・チャート含む	
80	谷埴土2下層	土師器 坏	底部	②4.2 ③残高0.95	①断面 にぶい黄褐色(10YR7/4) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	0.5～2mmφの長石・1mmφのくさり礫含む	底部糸切
81	谷埴土2下層	土師器 坏	底部	③残高1.4	①②断面 灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmφの長石含む	
82	谷埴土2下層	土師器 坏	底部	③残高2.5	①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②灰黄褐色(10YR5/2) 断面 黄灰色(2.5Y5/1)	0.5～2mmφの長石・0.5～1mmφのくさり礫含む	
83	谷埴土2下層	土師器 坏	口縁部	③残高3.2	①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/4)～灰黄褐色(10YR5/2) 断面 黄灰色(2.5Y5/1)	0.5～1mmφの長石含む	遺物番号82と同一個体か
84	谷埴土2下層	土師器 皿	口縁部	③残高2.2	①明赤褐色(5YR5/6) ②にぶい赤褐色(5YR5/4) 断面 にぶい褐色(10YR7/4)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	都城系土師器
85	谷埴土2下層	土師器 甕	口縁部	③残高3.0	①②断面 にぶい褐色(7.5YR5/4)	0.5～3mmφの長石・石英含む	
86	谷埴土2下層	土師器 甕	口縁部	③残高4.2	①断面 にぶい黄褐色(10YR4/3) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	0.5～5mmφの長石・石英含む	
87	谷埴土2下層	土師器 甕	口縁部	③残高3.05	①黒色(10YR2/1)～にぶい褐色(7.5YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/3) 断面 暗灰色(N3/)	0.5～3mmφの長石・石英・0.5～2mmφのくさり礫含む	
88	谷埴土2下層	土師器	把手	③残高2.35	①にぶい褐色(7.5YR7/4) 断面 にぶい黄褐色(10YR7/2)	0.5～1mmφの長石・くさり礫含む	
89	谷埴土2下層	黒色土器 碗小	体部	③残高2.45	①断面 暗灰黄色(2.5Y4/2) ②黒色(N2/)	0.5～1mmφの長石含む	内黒

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm)		色調	胎土	備考
				①口縁径②器高③器底高	①外面 ②内面			
90	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	①(14.2) ②残高1.8		①断面 灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmφの長石含む	焼成やや 不良
91	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.6		①断面 灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	1mmφの長石含む	焼成不良
92	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	腹部	③残高1.8		①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰色(N6/) 断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5~3mmφの長石含む	
93	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	腹部	③残高1.25		①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N8/)	0.5~2mmφの長石含む	
94	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	腹部	③残高0.95		①②灰色(N6/) 断面 灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
95	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	腹部	③残高1.0		①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5~2mmφの長石含む	
96	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.65		①②断面 灰白色(N7/)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	
97	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.65		①灰白色(N7/) ②灰色(N4/) 断面 灰白色(N8/)	0.5mmφの長石含む	
98	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3		①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(10Y8/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
99	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4		①②断面 灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
100	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2		①灰白色(N7/) ②断面 灰白色(7.5Y7/1)	1mmφの長石含む	
101	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1		①灰色(N5/)-灰白色 (5Y7/1) ②明青灰色(10BG7/1) 断面 灰白色(2.5Y7/1)	1mmφの長石含む	
102	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.05		①断面 青灰色(5B6/1) ②青灰色(5B5/1)	0.5~1mmφの長石含む	
103	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95		①灰白色(N7/) ②青灰色(5B6/1) 断面 黄灰色(2.5Y6/1)	0.5~1mmφの長石含む	
104	谷埴土2 上層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6		①灰白色(5Y7/2~N7/) ②灰色(N6/) 断面 灰白色(5Y7/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
105	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.2) ③残高1.95		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面 濃い黄褐色 (10YR7/3)-灰白色(N7/)	0.5~1mmφの長石含む	
106	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(9.4) ③残高1.8		①断面 灰色(N6/) ②灰色(10Y6/1)	0.5~2mmφの長石含む	
107	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.4) ③残高2.7		①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(N7/) 断面 灰色(5Y6/1)	0.5~3mmφの長石含む	
108	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.5) ③残高1.55		①青灰色(5B6/1) ②灰色(N6/) 断面 赤灰色(5R5/1)	0.5~1mmφの長石含む	
109	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.8) ③残高1.8		①灰白色(7.5Y7/1~N7/) ②断面 灰色(N6/)	0.5~3mmφの長石含む	
110	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.4) ③残高2.3		①灰白色(2.5Y8/2)-灰色 (N5/) ②灰色(5Y6/1) 断面 淡黄色(2.5Y8/3)	0.5~3mmφの長石含む	焼成やや 不良
111	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(6.2) ③残高2.15		①灰色(10Y6/1)-灰黄色 (2.5Y6/2) ②断面 灰色(5Y6/1)	0.5~2mmφの長石含む	
112	谷埴土2 上層 (地山 直上)	須恵器 高台付坏	底部	②(7.2) ③残高2.65		①灰白色(N8/)-灰色(N5/) ②断面 灰白色(N7/)	0.5~1mmφの長石含む	
113	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.8) ③残高1.85		①灰色(N4/) ②灰色(N5/) 断面 灰白色(5Y7/1)	0.5~1mmφの長石含む	
114	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	②(6.3) ③残高2.2		①青灰色(5B6/1) ②緑灰色(10G6/1) 断面 灰色(N6/1)	0.5~1mmφの長石含む	
115	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	体部 ~底部	②(9.2) ③残高3.7		①②断面 灰色(N7/)	0.5~3mmφの長石含む	
116	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.95		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面 灰白色(N8/)	0.5~2mmφの長石含む	

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁部②底縁部③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
117	谷埴土2 上層 (地山 直上)	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①②灰白色(N7/ 断面 灰白色(7.5Y7/1)	0.5~1mmφの長石含む		
118	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.4	①灰色(N6/ ②灰白色(N7/ 断面 灰白色(5Y7/1)	0.5~4mmφの長石含む		
119	谷埴土2 上層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.25	①②断面 青灰色(5B6/1)	0.5~2mmφの長石含む		
120	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部 ~底部	①(15.6) ②(10.6) ③5.55	①灰色(N6/ ②断面 灰白色(N7/)	0.5~3mmφの長石含む		
121	谷埴土2 上層	須恵器 坏	底部	②(6.7) ③残高0.9	①②灰黄色(2.5Y7/2) 断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	焼成やや 不良	
122	谷埴土2 上層	須恵器 坏	体部 ~底部	③残高2.2	①灰白色(5Y8/1)~黄灰色 (2.5Y4/1) ②断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	焼成不良	
123	谷埴土2 上層	須恵器 坏	底部	③残高1.4	①灰黄色(2.5Y7/2) ②断面 灰白色(2.5Y8/2)	1mmφの長石含む	焼成やや 不良	
124	谷埴土2 上層	須恵器 坏	底部	②(6.6) ③残高1.45	①断面 灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5~1mmφの長石含む	焼成やや 不良	
125	谷埴土2 上層	須恵器 坏	体部 ~底部	③残高2.6	①灰白色(10Y7/1) ②断面 黄灰色(2.5Y6/1)	0.5mmφの長石含む		
126	谷埴土2 上層 (地山 直上)	須恵器 坏	底部	③残高2.1	①②灰黄色(2.5Y7/2) 断面 灰白色(N7/)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	焼成やや 不良	
127	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部 ~体部	③残高4.0	①灰白色(2.5Y7/1) ②断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.5~2mmφの長石含む		
128	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部 ~体部	③残高4.0	①②断面 灰白色(N7/)	1mmφの長石含む		
129	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部 ~体部	③残高3.6	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/ 断面 灰白色(2.5Y7/1)	1mmφの長石含む		
130	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5	①②灰色(N6/ 断面 明紫色(5P7/1)	0.5mmφの長石含む		
131	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部 ~体部	③残高3.05	①灰色(5Y5/1) ②灰色(10Y6/1) 断面 灰白色(N7/)	0.1~0.3mmφの砂粒含む		
132	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.45	①②断面 灰白色(N7/)	0.5~2mmφの長石含む		
133	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5	①青灰色(5B5/1) ②灰色(N6/ 断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.1~0.3mmφの砂粒含む		
134	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部 ~体部	③残高3.3	①灰色(5Y5/1) ②灰色(N6/ 断面 灰色(5Y6/1)	0.5mmφの長石含む		
135	谷埴土2 上層	須恵器 坏	口縁部 ~体部	③残高2.9	①灰色(N6/ ②灰白色(2.5Y7/1) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.5~2mmφの長石含む	外面墨書	
136	谷埴土2 上層	須恵器 皿	底部 ~口縁部	①(25.2) ③(3.5)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(7.5Y7/1) 断面 に5~黄褐色 (10YR7/3)	0.5~1mmφの長石含む	焼成やや 不良	
137	谷埴土2 上層	須恵器 皿	口縁部 ~底部	③残高1.4	①灰色(10Y6/1) ②断面 灰色(N6/)	0.5~1mmφの長石含む		
138	谷埴土2 上層 (地山 直上)	須恵器 高坏	坏底部 ~脚部	③残高3.55	①残灰色(2.5Y7/3)~黄灰 色(2.5Y6/1) ②断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.5~6mmφの長石含む	焼成不良	
139	谷埴土2 上層	須恵器 高坏	脚部	③残高4.05	①青灰色(5B5/1) ②灰色(N6/ 断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5~2mmφの長石含む		
140	谷埴土2 上層	須恵器 高坏	脚部	③残高5.3	①灰色(5Y5/1) ②灰色(N5/ 断面 灰白色(2.5Y8/1)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	焼成やや 不良	
141	谷埴土2 上層	須恵器 高坏	脚部	②(9.4) ③残高1.15	①②断面 灰白色(N7/)	0.1~0.3mmφの砂粒含む		
142	谷埴土2 上層 (地山 直上)	須恵器 蓋	底部	②(15.9) ③残高1.9	①断面 灰白色(7.5Y8/1) ②灰白色(5Y7/2)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	焼成不良	

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量 (cm) ①口径×高さ②底径	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
143	谷埋土2 上層	須恵器 蓋	底部	②(4.4) ③残高2.0	①灰色(N6/~N5/?) ②断面 灰色(N6/?)		0.5~2mmφの長石含む	高台に 刺突痕
144	谷埋土2 上層	須恵器 蓋	肩部	③残高1.7	①②断面 灰色(N6/?)		0.5~1mmφの長石含む	
145	谷埋土2 上層	須恵器 横瓶	体部	③残高1.4	①褐色(10YR6/1)~灰オ リーブ色(7.5Y4/2) ②灰色(N5/?) 断面 灰褐色(7.5YR5/2)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	外面自然粘 付着
146	谷埋土2 上層 (地山 直上)	須恵器 横瓶	体部	③残高8.8	①灰白色(N7/?)~灰色 (N4/?) ②灰白色(7.5Y8/1)~灰色 (N6/?) 断面 灰白色(7.5Y8/1)		0.5~1mmφの長石含む	
147	谷埋土2 上層	須恵器 長頸壺	頸部	③残高9.9	①灰色(N6/~N5/?) ②灰白色(N8/~N7/?) 断面 灰白色(2.5Y8/1)~ 青灰色(5B6/1)		1mmφの長石含む	
148	谷埋土2 上層	須恵器 甕	口縁部 ~頸部	③残高7.1	①②灰色(N6/?) 断面 灰白色(2.5Y7/2)		0.5~2mmφの長石含む	
149	谷埋土2 上層	須恵器 甕	口縁部	③残高3.1	①灰色(N6/~N4/?) ②断面 灰色(N6/?)		0.5~1mmφの長石含む	
150	谷埋土2 上層	須恵器 蓋	口縁部	③残高3.45	①②断面 灰色(N5/?)		0.5~1mmφの長石含む	
151	谷埋土2 上層	須恵器 甕	頸部	③残高4.6	①②灰色(N6/?) 断面 灰褐色(2.5Y7/2)		1mmφの長石含む	
152	谷埋土2 上層	須恵器 甕	頸部	③残高2.1	①灰白色(N8/?) ②黄灰色(2.5Y4/1) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)		0.5~1mmφの長石含む	
153	谷埋土2 上層	須恵器 甕	頸部	③残高2.65	①青灰色(5B6/1) ②断面 明青灰色(5B7/1)		0.5~3mmφの長石含む	
154	谷埋土2 上層	須恵器 甕	頸部 ~肩部	③残高1.9	①②灰白色(N7/?) 断面 灰白色(5Y7/2)		0.5~2mmφの長石含む	
155	谷埋土2 上層	須恵器 円面甕	脚部	③残高4.45	①灰色(N4/?) ②灰色(N6/?) 断面 灰色(N5/?)		1mmφの長石含む	
156	谷埋土2 上層 (地山 直上)	緑釉陶器 椀	底部	②(8.0) ③残高1.5	①黄灰色(2.5Y5/1)~浅黄 色(7.5Y7/3)~暗灰色(N3/?) ②灰色(5Y4/1) ③こぶい黄褐色(10YR7/2)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	
157	谷埋土2 上層	緑釉陶器 椀	底部	②(6.0) ③残高1.5	緑釉①オリーブ灰色 (10Y6/2) ②灰オリーブ色(7.5Y4/2) 素地①浅黄褐色(10YR6/2) ②こぶい黄褐色(10YR7/3)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	
158	谷埋土2 上層	緑釉陶器 椀	底部	③残高1.55	緑釉①②灰オリーブ色 (10Y6/2) 素地①② 灰白色 (10YR8/2)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	
159	谷埋土2 上層 (地山 直上)	青磁 椀	体部	③残高3.7	①②灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断面 灰白色(N8/?)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	
160	谷埋土2 上層	土師器 高台付坪	底部	②(4.3) ③残高2.4	①断面 浅黄色(2.5Y7/3) ②こぶい黄色(2.5Y6/3)		0.5~3mmφの長石含む	
161	谷埋土2 上層	土師器 高台付坪	底部	②(6.4) ③残高1.05	①断面 灰白色(2.5Y8/2) ② 灰黄色(2.5Y7/2)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	
162	谷埋土2 上層	土師器 高台付坪	底部	③残高1.8	①断面 灰白色(2.5Y8/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	
163	谷埋土2 上層	土師器 高台付坪	底部	③残高1.5	①灰黄色(2.5Y6/2) ②断面 黒色(N2/?)		0.5~1mmφの長石・0.5mm φのくさり粒含む	
164	谷埋土2 上層	土師器 高台付坪	底部	③残高1.4	①浅黄色(2.5Y7/3) ②こぶい黄色(2.5Y6/3) 断面 黄灰色(2.5Y6/1)		0.5~1mmφの長石含む	
165	谷埋土2 上層	土師器 坪	底部	②6.3 ③残高4.1	①浅黄色(2.5Y7/3)~灰黄 色(2.5Y6/2) ②浅黄褐色(10YR8/3)~灰 黄色(2.5Y6/2) 断面 暗灰色(N3/?)		0.5~1mmφの長石含む	底部糸切
166	谷埋土2 上層	土師器 坪	体部 ~底部	③残高2.65	①灰白色(2.5Y8/2)~灰色 (5Y5/1) ②断面 灰白色(2.5Y8/2)~ 灰色(5Y4/1)		0.5~1mmφの長石・石英含 む	

吉田焼内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②底③全高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
167	谷理土2 上層	土師器 坏	口縁部	③残高1.9	①灰白色(2.5Y7/1) ②断面 灰黄色(2.5Y7/2)		0.5~1mmφの長石含む	
168	谷理土2 上層	土師器 坏	口縁部	③残高2.2	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/1) 断面 灰白色(2.5Y8/1)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	
169	谷理土2 上層	土師器 椀	底部	②6.4 ③残高2.15	①②にぶい・黄色(2.5Y6/3) 断面 灰黄色(2.5Y5/1)		0.5~2mmφの長石含む 0.5mmφのくさり礫含む	
170	谷理土2 上層	土師器 椀	体部 ~底部	②(6.0) ③残高3.0	①灰黄色(2.5Y7/2) ②淡黄色(2.5Y8/3) 断面 暗灰色(N3/7)		0.5~2mmφの長石・0.5~ 1mmφのくさり礫含む	底部亲切
171	谷理土2 上層	土師器 椀	底部	②(6.8) ③残高2.2	①にぶい・黄褐色(10YR6/3) ②断面 にぶい・黄褐色 (10YR7/3)		0.5~3mmφの長石・5mmφ の石英・0.5~1mmφのくさり 礫含む	
172	谷理土2 上層	土師器 椀	底部	②(7.0) ③残高2.4	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面 灰白色(2.5Y8/1)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	
173	谷理土2 上層	土師器 椀	底部	②(7.0) ③残高1.15	①②断面 淡黄色(2.5Y8/3)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	緑釉陶器の 可能性あり
174	谷理土2 上層	土師器 椀	底部	③残高1.4	①②淡黄色(2.5Y7/3) 断面 灰色(N4/7)		0.5~3mmφの長石・1mmφ の石英・くさり礫含む	
175	谷理土2 上層	土師器 皿	底部	③残高1.2	①淡黄色(2.5Y7/3) ②明赤褐色(2.5Y5/6) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)		0.5mmφの長石含む	郡城系 土師器
176	谷理土2 上層	土師器 皿	口縁部 ~底部	③残高2.4	①黄灰色(2.5Y6/1) ②断面 にぶい・黄褐色 (10YR7/2)		0.5~1mmφの長石含む	
177	谷理土2 上層 (地山 直上)	土師器 高台付皿	底部	③残高2.3	①明赤褐色(5YR5/6)~淡 黄色(2.5Y7/3) ②明赤褐色(5YR5/6)~灰 黄色(2.5Y7/2) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)~灰 色(5Y4/1)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	赤色染彩
178	谷理土2 上層	土師器 高坏	脚部	③残高4.6	①にぶい・黄褐色(10YR7/3) ②淡黄色(2.5Y7/3)~灰黄 色(2.5Y7/2) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)		0.5~1mmφの長石・くさり礫 含む	
179	谷理土2 上層	土師器 高坏	脚部	②(10.4) ③残高5.8	①暗灰色(N3/)~灰白色 (2.5Y8/1) ②黄灰色(2.5Y6/1) 断面 灰白色(2.5Y8/1)		0.5mmφの長石含む	
180	谷理土2 上層	土師器 高坏	口縁部	③残高3.4	①断面 灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)		0.1~0.3mmφの砂粒含む	
181	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高3.55	①にぶい・黄褐色(10YR6/3) ~にぶい・褐色(7.5YR7/4) ②にぶい・黄褐色(10YR5/3) 断面 にぶい・黄褐色 (10YR7/3)		0.5~2mmφの長石・石英・ くさり礫含む	
182	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高2.65	①②淡黄色(2.5Y7/3) 断面 灰色(5Y5/1)		0.5~3mmφの長石・0.5~ 1mmφの石英・くさり礫含む	
183	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高3.55	①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3) 断面 黄灰色(2.5Y6/1)		0.5~1mmφの長石・石英・ くさり礫含む	
184	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高1.55	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい・黄褐色(10YR7/2) 断面 褐色(10YR6/1)		0.5~1mmφの長石・石英・ くさり礫含む	
185	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高2.75	①淡黄色(2.5Y7/3) ②淡黄色(2.5Y8/3) 断面 灰白色(2.5Y7/1)		0.5~2mmφの長石含む 0.5~1mmφのくさり礫含む 8mmφのチャート含む	
186	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高2.45	①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②灰黄色(2.5Y6/2) 断面 黄灰色(2.5Y6/1)		0.5~1mmφの長石含む	
187	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高2.5	①にぶい・黄褐色(10YR5/3) ②黄褐色(2.5Y5/3) 断面 黄灰色(2.5Y4/1)		0.5~3mmφの長石含む	
188	谷理土2 上層	土師器 甕	口縁部	③残高2.15	①②淡黄褐色(10YR8/3) 断面 灰色(N4/7)		0.5~1mmφの長石含む	
189	谷理土2 上層	土師器	把手	③残高2.95	①にぶい・黄褐色(10YR7/3) ~にぶい・褐色(7.5Y7/4) ②断面 にぶい・黄褐色 (10YR7/2)		0.5~1mmφの長石含む	

吉田焼内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量 (cm)		色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
				①(口縁部) ②(底部)	③(残高)			
190	谷埋土2 上層	土師器	把手		③残高2.45	①②灰黄褐色(10YR5/1)～ 褐灰色(10YR5/1) 断面 褐灰色(10YR5/1)	0.5～4mmφの長石・石英含 む	
191	谷埋土2 上層	輪 羽口		残長4.85 残幅3.7 残厚1.7 重量23.40g		①褐色(7.5YR6/6) ～灰色(5Y5/1) ②黑色(N2/) 断面 黄灰色(5B6/1)	0.5～3mmφの長石含む	
192	谷埋土2 上層	輪 羽口		残長2.45 残幅4.35 残厚2.2 重量16.42g		①灰色(7.5Y6/1) ～青灰色(5B5/1) ②黑色(N2/) 断面 灰色(7.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
193	谷埋土2 上層	弥生土器 高坏	口縁部		③残高4.85	①②③にぶい・黄褐色(10YR7/3) ②断面 にぶい・黄褐色 (10YR7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
194	谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部		③残高1.75	①②断面 灰白色(N7/)	1～2mmφの長石含む	
195	谷埋土1	須恵器 坏蓋	腹部		③残高0.85	①黄灰色(2.5Y6/2) ②断面 灰白色(N7/)	0.3mmφの砂粒含む	
196	谷埋土1	須恵器 坏蓋	腹部		③残高0.85	①②断面 灰白色(2.5Y8/2)	0.5mmφの長石含む	焼成不良
197	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	①(14.0) ③残高1.45		①②断面 灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
198	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部		③残高1.2	①②断面 灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
199	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部		③残高1.2	①②灰色(N6/) 断面 灰色(N5/)	0.5～1mmφの長石含む	
200	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部		③残高1.7	①②灰色(N6/) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
201	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部		③残高1.75	①青灰色(5B6/1) ②断面 明青灰色(5B7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
202	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部		③残高1.5	①②灰色(N6/) 断面 灰黄褐色(10YR5/2) ～暗灰色(N3/)	1mmφの長石含む	
203	谷埋土1	須恵器 坏蓋	脚部		③残高1.4	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面 黄灰色(2.5Y7/2)	0.5mmφの長石含む	
204	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部		③残高1.3	①黄灰色(2.5Y6/1)～灰白 色(N8/) ②断面 灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
205	谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部		③残高1.3	①②断面 灰色(N6/)	0.5～2mmφの長石含む	
206	谷埋土1	須恵器 高坏	脚部		③残高1.05	①灰色(N6/) ②断面 灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
207	谷埋土1	須恵器 坏蓋カ	脚部		③残高1.05	①②にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②灰白色(10R7/1) 断面 灰白色(2.5Y8/1)	0.5～2mmφの長石含む	焼成やや 不良
208	谷埋土1	須恵器 蓋蓋	天井部		③残高1.75	①灰白色(N7/)-灰色(N6/) ②断面 灰色(N6/)	0.5～3mmφの長石含む	
209	谷埋土1	須恵器 高台付坏	口縁部 ～底部	①(15.0) ②(8.2) ③5.25		①暗青灰色(5B3/1)～ (5B4/1) ②灰色(N5/) 断面 褐灰色(10YR6/1)	1～5mmφの長石含む	全体焼け 歪み
210	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.0) ③残高1.2		①灰色(10Y6/1) ②断面 灰白色(5Y7/1)	1mmφの長石含む	
211	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.1) ③残高8.1		①灰白色(N7/) ②灰色(N5/) 断面 灰色(N6/)	1mmφの長石含む	
212	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.0) ③残高1.7		①断面 青灰色(10B6/1) ②青灰色(5B6/1) ③④灰色(N5/)	0.5～2mmφの長石含む	
213	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.8) ③残高1.3		①②断面 黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
214	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.1		①②断面 灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
215	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.0) ③残高1.1		①②灰色(N6/) 断面 灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmφの長石含む	
216	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高3.0		①青灰色(5B5/1)～灰白 色(N7/) ②灰白色(N7/) 断面 灰黄褐色(10YR5/2)	0.5～2mmφの長石含む	
217	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高2.2		①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
218	谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.4		①②断面 灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
219	谷埋土1	須恵器 坏	底部	②(10.0) ③残高1.65		①断面 灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	

吉川焼内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①②③残高④底高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
220	谷理土1	須恵器 坏	底部	③残高1.1	①灰黄色(2.5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5mmφの長石含む		
221	谷理土1	須恵器 坏	底部	③残高1.1	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面 灰色(7.5Y7/1)	1mmφの長石含む		
222	谷理土1	須恵器 坏	口縁部	①(13.7) ②残高3.15	①②灰白色(N7/) 断面 灰白色(5Y7/2)	0.5~1mmφの長石含む		
223	谷理土1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.75	①灰黄色(2.5Y7/2) ②断面 浅黄色(2.5Y7/3)	0.5~1mmφの長石含む	焼成やや不良	
224	谷理土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.55	①灰白色(N7/) ②断面 灰色(N6/)	0.5mmφの長石含む		
225	谷理土1	須恵器 皿	口縁部 ~底部	③残高1.75	①②断面 灰色(N6/)	0.5~1mmφの長石含む		
226	谷理土1	須恵器 皿	口縁部	③残高1.25	①②断面 青灰色(5B6/1)	0.5~1mmφの長石含む		
227	谷理土1	須恵器 皿	口縁部 ~底部	③1.0	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2) 断面 にぶい黄褐色(10YR7/3)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	焼成やや不良	
228	谷理土1	須恵器 高坏	脚部	③残高3.6	①断面 灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(2.5Y8/1)~ (7.5Y7/1)	0.5~1mmφの長石含む	焼成やや不良	
229	谷理土1	須恵器 高坏	脚部	③残高	①暗青灰色(5B4/1)~灰色 (7.5Y6/1) ②灰白色(N7/)~灰白色 (2.5Y7/1) 断面 灰白色(N7/)	0.5~2mmφの長石含む		
230	谷理土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.55	①②断面 灰白色(2.5Y7/1)	1~2mmφの長石含む		
231	谷理土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.5	①灰白色(5Y7/1)~灰色 (5Y6/1) ②断面 灰白色(N7/)	0.5~1mmφの長石含む		
232	谷理土1	須恵器 蓋	高台	③残高2.1	①②灰白色(2.5Y8/2) 断面 灰白色(2.5Y8/1)	0.1~0.3mmφの砂粒含む	焼成不良	
233	谷理土1	須恵器 甕	頸部	③残高2.55	①灰色(N8/) ②灰色(N4/) 断面 灰色(N6/)~にぶい黄 褐色(10YR7/2)	1mmφの長石含む		
234	谷理土1	緑釉陶器 碗小	底部	③残高0.95	①暗オリーブ色(5Y4/3) ②オリーブ褐色(2.5Y4/3) 断面 浅黄色(2.5Y7/3)	精練(砂粒をほぼ含まない)		
235	谷理土1	白磁 碗	口縁部	①(15.0) ③残高2.65	①②灰白色(7.5Y7/2) 断面 灰白色(N8/)	精練(砂粒をほぼ含まない)		
236	谷理土1	白磁 碗	底部	②(6.6) ③残高1.8	①②灰白色(2.5GY8/1) 断面 灰白色(N8/)	精練(砂粒をほぼ含まない)		
237	谷理土1	土師器 高台付坏	底部	②(6.2) ③残高2.5	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面 暗青灰色(5B4/1)	0.5~1mmφの長石・きり 藁・チャート含む		
238	谷理土1	土師器 高台付坏	底部	②(7.4) ③残高1.5	①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②断面 にぶい黄褐色 (10YR7/4)	0.5~4mmφの長石・0.5~ 1mmφのきり藁含む		
239	谷理土1	土師器 高台付坏	底部	①(7.2) ③残高1.6	①②断面 灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5~1mmφの長石含む		
240	谷理土1	土師器 高台付坏	底部	③残高1.65	①②浅黄色(2.5Y8/3) 断面 灰色(N4/)	0.5~1mmφの長石含む		
241	谷理土1	土師器 高台付坏	底部	③残高1.4	①②浅黄色(2.5Y7/3) 断面 暗灰色(N3/)	0.5~1mmφの長石・きり 藁・チャート含む		
242	谷理土1	土師器 坏	口縁部	③残高2.5	①②断面 灰白色(2.5Y8/2)	0.5~1mmφの長石含む		
243	谷理土1	土師器 坏	口縁部	③残高2.9	①浅黄褐色(10YR8/3) ②褐色(5YR6/6) 断面 浅黄褐色(10YR8/3)	0.5~1mmφの長石含む	都城系 土師器 赤色塗彩	
244	谷理土1	土師器 碗	底部	②5.9 ③残高2.1	①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/3) 断面 灰色(N4/)	0.5~1mmφの長石・0.5~ 3mmφのきり藁含む	底部系切	
245	谷理土1	土師器 碗	底部	①(6.2) ③残高2.15	①にぶい褐色(7.5Y6/4) ②浅黄色(2.5Y7/3) 断面 淡黄色(2.5Y8/3)	0.5mmφの長石・きり藁 含む		
246	谷理土1	土師器 碗	底部	③残高2.05	①②断面 にぶい黄褐色	0.5~2mmφの長石・きり 藁・チャート含む		
247	谷理土1	土師器 碗	底部	③残高1.95	①②断面 浅黄色 (2.5Y8/3)	0.5~1mmφの長石含む		

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁部②底面③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
248	谷埋土1	土師器 皿	口縁部 ～底部	③残高1.3	①②断面 浅黄色 (2.5Y7/3)		0.1～0.3mmφの砂粒含む	
249	谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高2.8	①にぶい黄色(2.5Y6/3)～ 灰色(5Y4/1) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面 灰色(5Y4/1)		0.5～1mmφの長石・石英含む	
250	谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高2.4	①②断面 浅黄色 (2.5Y7/3)		0.5～1mmφの長石・チャー ト含む	
251	谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高2.45	①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2) 断面 黄灰色(2.5Y6/1)		0.5～5mmφの長石・1mmφ の石英含む	
252	谷埋土1	瓦器 椀	底部	③残高0.9	①黄灰色(2.5Y6/1) ②暗灰色(N3/) 断面 灰白色(2.5Y8/1)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	
253	谷埋土1	製塩土器	体部	③残高3.0	①断面 にぶい褐色 (7.5YR7/4) ②黄褐色(10YR8/3)		0.5～5mmφの長石含む	六連式 内面布目
254	Pit1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰色(N8/) 断面 灰白色(N7/)		0.5～2mmφの長石含む	
255	Pit1	緑釉陶器	体部					
256	包含層	須恵器 坏	口縁部	④残高2.15	①②断面 灰白色(N7/)		0.5mmφの長石含む	
257	包含層2	須恵器 甕	口縁部	③残高3.3	①青灰色(5B5/1) ②灰黄色(2.5Y6/2) 断面 灰白色(N7/)		0.5mmφの長石・石英含む	
258	包含層2	白磁 椀	口縁部	③残高2.25	①②灰白色(2.5GY8/1) 断面 灰白色(10Y8/1)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	
259	旧床土	須恵器 高台付坏	底部	②(7.5) ③残高1.3	①青灰色(5B5/1) ②明青灰色(5B7/1) 断面 にぶい黄褐色 (10YR5/3)		0.5～2mmφの長石含む	
260	旧床土	土師器 椀	底部	③残高1.4	①②断面 灰白色(2.5Y8/2)		1mmφの長石含む	

表7 出土遺物(石器)観察表

法量()は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm)				石材	備考
			①(10.0)	②(8.8)	③(5.6)	④(60.4)		
261	谷埋土3上層	砥石					凝灰岩	

209～218は須恵器高台付坏。209は完形復元可能な資料で、丸底気味の底部からやや内湾して体部が立ち上がり、口縁を軽く外反させる。やや大ぶりの高台は断面方形であり、内端で接地する。

219～221は無高台の須恵器坏底部片で、222～224は坏口縁部片。

225～227は須恵器皿の口縁部片。228・229は須恵器高坏の坏底一脚部片で、230・231は口縁部片。

222は須恵器壺の高台片で、233は須恵器甕の頸部片。内面にわずかに同心円当て具痕が残る。

234は緑釉陶器椀の底部片。内外面とも軸の乗りが良好で、外面は部分的に赤く発色している。

235・236は白磁の口縁部片と底部片。235は玉緑口縁で、軸葉の発色から両者は別個体と見られる。

237～241は土師器高台付坏の底部片で、242・243は坏の口縁部片。243は都城系土師器で、赤色塗彩が施され、口縁端部を内側に折り込んでいる。244～247は土師器椀の底部片。244には糸切痕が残る。248は土師器皿。249～251は土師器甕口縁部片。

252は瓦器椀の底部片と見られる。253は六連式製塩土器の体部片で、内面に布目が明瞭に残る。

遺構・遺物包含層ほか出土土器(図28、写真70、表6)

254・255はPit1出土の須恵器坏蓋片と緑釉陶器片(写真のみ掲載)であるが、Pit1埋土の土質は谷埋土2上層と同一である。256～258は遺物包含層出土資料で、256は須恵器坏口縁部片、257は須恵器甕の頸部片で、外面には斜線文が施されている。258は白磁椀の口縁部で、端部を外側に折り返してい

る。259・260は旧床土出土の須恵器高台付坏と土師器碗の底部片。

出土石器(図29、写真71、表7)

261は凝灰岩製の砥石で、1面のみを使用している。1側面を中心に黒色化しており、被熱を受けた可能性がある。重量は600.9gを量る。

【註】

- 1) 横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学理蔵文化財資料館年報—平成26年度—』, 山口 29頁4~9行参照

小結

当調査は、実働わずか8日間の調査であったが、埋没谷に対し人力掘削を行うことで層位ごとに遺物を取り上げることができた。木製品の公開は次年度年報に繰り越すが、土器および石器は可能な限り図化を行い、本書に示した遺物は261点に上る。その一方で、資料の公開に関し注意していただきたい点がある。

動物医療センター周域ではこれまでに複数回発掘調査を実施しているものの、出土した遺物に対し、特徴的な資料や一部の大型須恵器・土師器などをのぞき、各調査をまたぐ資料の接合検討を行っていない。各調査区は互いに近接している(図18)こと、小片資料が圧倒的多数であることから、同一個体を複数回図示している可能性が高い。

現に、平成10年度に実施した総合研究棟新営に伴う発掘調査にて出土した円面硯(註1田畑(2017) Fig.18の56)と平成28年度に実施した実習棟(動物病理解剖施設)新営その他工事に伴う本発掘調査にて出土した円面硯が接合していることから、各調査をまたぐ再度の接合検討が必要であることは言を俵たないが、人的・時間的限界により実現できていないことをまずはお詫びしたい。古代の吉田遺跡に関し、本報告を行う際にはこの課題に取り組む所存である。

末筆になるが、調査に従事していただいた右田次男、福永良彦、山本保孝、内田敏夫、田中好市の各氏には、急な依頼にもかかわらず全面的なご協力を得た。記して謝意を表したい。

【註】

- 1) 田畑直彦(2004)「平成7・10~14年度山口大学構内遺跡の概要」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口
田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XX』, 山口
横山成己(2007)「吉田遺跡第II地区の調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学理蔵文化財資料館年報—平成17年度—』, 山口
横山成己(2010)「農学部附属家畜病院改修工事に伴う本発掘調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学理蔵文化財資料館年報—平成18年度—』, 山口
横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修III期工事に伴う本発掘調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学理蔵文化財資料館年報—平成18年度—』, 山口
横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」, 山口大学理蔵文化財資料館(編)『山口大学理蔵文化財資料館年報—平成26年度—』, 山口
2) 調査成果は令和2年度末に刊行予定の年報に収録する。
3) その一方で、本書掲載の土師器(26)と類似する動物医療センター改修III期工事第2調査区出土の土師器(横山(2012)の151頁38)は接合しないことが判明している。

4. 動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(外灯設置)に伴う立会調査



図30 調査区位置図

調査地区 吉田構内S-20区

調査面積 2㎡

調査期間 平成27年9月28日

調査担当 横山成己

調査結果

動物医療センターにリニアック室が増築されることに伴い、新たに外灯が2箇所(西側:A地点、東側:B地点)に設置されることとなった。外灯基礎の掘削深度が1mを超えることから、工事時に立会調査を実施することとなった。

A地点は平成20年度に実施した動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区に近接する。現地表下0.8mが造成土であり、直下が明黄褐色(2.5Y6/6)の地山であったが、調査区南東隅に地山を切り込む落ち込みが検出された(図31、写真72)。埋土は黒褐色(10YR3/1)弱粘質土で、遺構の一部と見られるが、埋没谷の左岸の可能性もある。

B地点は柱根が遺存する大型掘立柱建物跡が検出された動物医療センター改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査区と動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査区(本書所収)の中間に位置している。重機掘削時に、現地表下0.7mで遺物包含層と見られる堆積土が確認されたため、予定掘削深度まで人力で掘削した。造成土以下は厚み0.2mの黄褐色(2.5Y5/3)粘質土(遺物包含層1)、厚み0.2mの褐灰色(10YR4/1)粘質土(遺物包含層2)となっており、部分的にさらに下位の黄灰色(2.5Y4/1)強粘質土(谷埋土1)が露出していたが、これは掘削時に確認できず、断面精査時に確認した(図31、写真73)。

B地点の遺物包含層2もしくは谷埋土1から須恵器7点、土師器3点が出土したが、図示可能な遺物は1点のみである(図32、写真74、表8)。1はB地点から出土した須恵器甕口縁部片で、口縁の内外端部を欠失している。

当調査は、1㎡2箇所という狭小範囲で実施した



写真72 A地点土層断面(北西から)



写真73 B地点土層断面(東から)

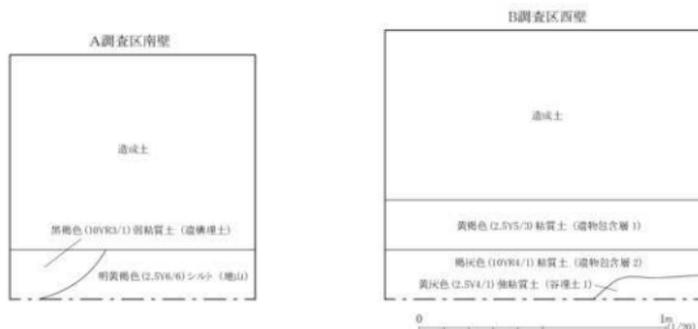


図 31 A・B調査区土層断面柱状図



図 32 出土土器実測図



写真 74 出土遺物(土器)

表 8 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口縁②底縁③器底	①外面 ②内面				
1	遺物包含層 ~谷埋土1	須恵器 壺	口縁部	③残高4.35	①②断面 青灰色(5B5/1)	0.5~3mmφの長石含む			

ものであるが、本学造成時の盛土下には良好に遺物包含層や遺構が埋存することが裏付けられた。当該年度は共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証を取得するための施設拡充計画が進められ、動物医療センター周域で小規模工事が多発した。当館は動物医療センター周域のみならず地下の掘削を伴うあらゆる工事計画に対し、原因部局に対しては計画地の必然性を確認しており、開発部局には工法の確認および工法変更の可能性を検討してもらっており、全学をあげて埋蔵文化財保護のため協力いただいているが、この度のような施設拡充計画においては、教育研究施設の配置変更にも限界があることから、いずれも工事立会を実施することとなり、その全てで埋蔵文化財の遺存を確認した。当地周辺が吉田遺跡の最重要埋蔵文化財保護地域であることになり、今後とも各方面の協力を得ながら慎重な保護活動を実施していきたい。

【註】

- 1) 横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」, 山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市埋蔵文化財資料館年報—平成20年度—』山口市
- 2) 横山成己(2010)「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査」, 山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市埋蔵文化財資料館年報—平成18年度—』山口市

5. 動物医療センター外灯設置工事に伴う立会調査



図33 調査区位置図



写真75 A地点土層断面(西から)



写真76 B地点土層断面(西から)



写真77 C地点土層断面(南東から)

調査地区	吉田構内S-20区
調査面積	22㎡
調査期間	平成28年1月23・31日、2月10日
調査担当	横山成己
調査結果	

当事業計画に関しては、平成21年度第13回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成22年3月23日開催)に提出されて以来、予算の都合上計画が実現化していなかったが、当該年度に動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事が実施されるにあわせ着手されることとなった。

工事は動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(外灯設置)にて設置された東側外灯(前頁図30のB地点)から電気線を引き込み、動物医療センター南側ゲートの東に新たに外灯を設置するもので(図33)、工事掘削時に立会調査を実施する運びとなった。

工事は新設外灯の基礎掘削から行われ、電気線の埋設掘削は南から北に向かって進行した。基礎掘削部であるA地点では、0.2mの表土直下が地山であり、埋蔵文化財は確認されなかった(図34、写真75)。

管路の掘削ではA地点より造成土直下が浅黄褐色(10YR8/4)シルトまたは灰白色(N8/)シルトの地山である状況が続き、外灯より北に約5mのB地点にて、現地表下0.45mの深度で地山を掘り込む幅0.8mで深さ0.25m以上の土壌を確認した(図34、写真76)。埋土の土質は黒褐色(10YR3/1)粘質土であった。

A地点より6.5m以北からは、造成土直下に楊灰色(10YR4/1)粘質土(遺物包含層2)または削平により黄灰色(2.5Y4/1)強粘質土(谷埋土1)が露出する状況が続いた。C地点では、現地表下0.45mにて同様な状況が見られた(図34、写真77)。

出土した遺物はいずれも遺物包含層2または谷埋土1からのもので、須恵器7点、土師器12点、陶

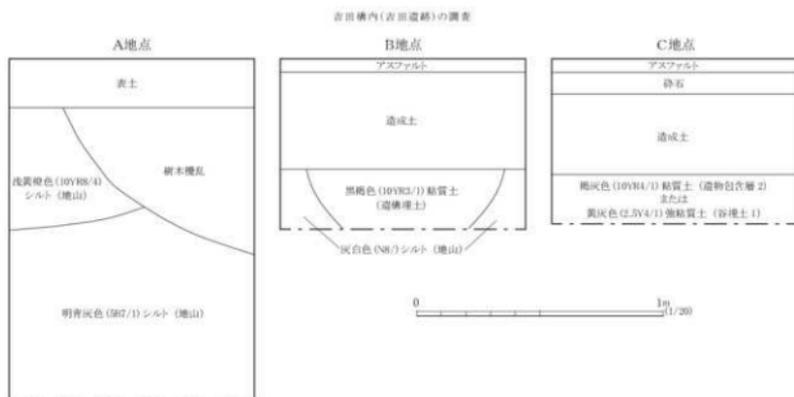


図34 A～C地点土層断面柱状図



図35 出土土器実測図



写真78 出土遺物(土器)

表9 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁定規測高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	遺物包含層2 ～谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.55	①青灰色(5B5/1) ②青灰色(5B6/1) 灰白色(N7/7)		0.5～1mmφの長石含む	
2	遺物包含層2 ～谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.90	①灰黄色(2.5Y7/2) ②断面 灰白色(2.5Y7/1)		0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成やや不良
3	遺物包含層2 ～谷埋土1	土師器 高台付坏	底部	③残高1.25	①②断面 褐色(7.5YR6/6)		0.1～0.3mmφの砂粒含む	
4	遺物包含層2 ～谷埋土1	青磁 椀	口縁部	③残高2.1	①②オリーブ灰色(2.5GV6/1) 断面 灰白色(N8/7)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	

器2点、瓦1点である。図示可能な資料は4点に過ぎない(図35、写真78、表9)。

山口市教育委員会により実施された市道間田神郷線送水管理設工事に伴う発掘調査では、ゲートの東方約10m地点で埋没谷と見られる落ち込みが確認され、古代の須恵器類とともに製塩土器が出土している。当調査では動物医療センターからゲート間の地下の様相の一端を知ることができた。

【註】

1) 縄田潔(1991)「吉田遺跡」, 山口市教育委員会・山口市文化財センター(編)『吉田遺跡 障子岳南(山水園)遺跡』山口市埋蔵文化財調査報告書第40集, 山口

6. 共同獣医学部解剖実習棟前動物体焼却炉設置工事に伴う立会調査



図36 調査区位置図



写真79 A地点土層断面(北東から)



写真80 B地点土層断面(北東から)



写真81 C地点土層断面(南西から)

調査地区 吉田構内R-19・20、S-20区

調査面積 10.75㎡

調査期間 平成28年1月14・18日

調査担当 横山成己

調査結果

当事業計画も、共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証を取得するための施設拡充のための工事である。計画当初は焼却炉を設置するために解剖実習棟前の既設枠場を解体するため浅く掘削する予定となっており、解剖実習棟新営に伴う発掘調査では古代の埋没谷とともに総柱掘立柱建物跡など遺構が密に分布することが明らかとなっていたことから、工事掘削時に立会調査を実施する運びとなっていたが、計画が具体化する過程で本体工事では掘削が行われず、工事に使用するクレーン車のアウトリガー接地の支障となる周辺3箇所(A～C地点)に対し掘削が行われることが判明したため、調査対象地が変更となった(図36)。

古代埋没谷の南西に南東-北西方向にのびる丘陵は、現在農学部附属農場の牧草地として活用されているが、本学吉田地区統合移転開始期の昭和41年(1966)に小野忠熙氏により吉田遺跡第Ⅱ地区と命名され、小野氏と本学学生による発掘調査が実施され、ピットや溝などの遺構が密に分布することが明らかとなっている。遺構と出土遺物の対応関係が明らかではないが、古代から中世にかけては確実に集落が営まれていたようで、弥生土器も一定量存在することから、当地への定住生活はさらに遡る可能性を有している³⁷⁾。

工事では、丘陵の北東法面2箇所(A・B地点)に1.2m×1.2mの規模で、A地点では深度0.9m、B地点では深度1.1mの掘削が行われた。同地は遺物包含層の形成が予想されたが、いずれも表土直下が浅黄橙色(10YR8/4)シルトの地山であり、B地点の地山には、埋没谷の下層に混ざる角礫が多く含まれることを確認したが、遺構は検出されなかった(図37、写真79・80)。

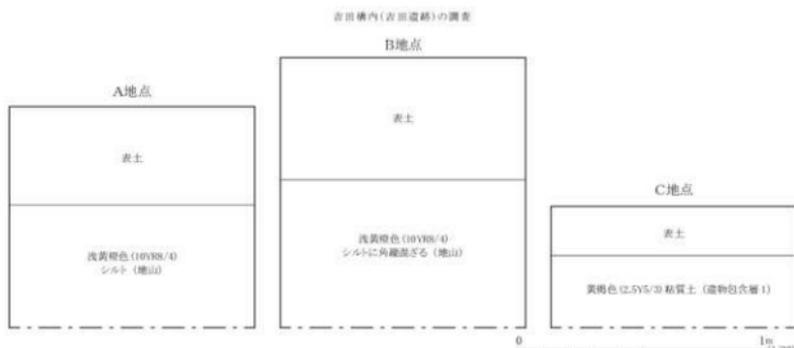


図 37 A～C地点土層断面柱状図

一方、旧枀場の南西隣に2m×2mの範囲で設定されたC地点では、古代埋没谷の存在が予測されたが、掘削深度が0.5mにおさまったことから、黄褐色(2.5Y5/3)粘質土(遺物包含層1)を確認するにとどまった(図37、写真81)。遺物包含層は人力により掘削したが、遺物は出土しなかった。

牧草地の北東部に関しては、小野氏により「馬小屋の建設中に地下から結晶片岩の板石や埴輪の破片とみられる遺物が掘り出され、古墳の内部主体の存在が予想されるに至ったので、工事を中止し、そのまま保護してある。なお、この地は、大学移転前柵田が拓かれていて勾玉を採集したことがあるといわれ、水田化以前に古墳の封土があった疑いがある」と報告されている²³。地元住民により採集された勾玉は現在山口市歴史民俗資料館に寄贈されており、その後本学文化会考古学部学生により実際に円筒埴輪が採取されていることから、当地に古墳時代後期の古墳が存在したことは確認されている。当地における近い将来の開発予定は存在しないと聞き及ぶが、学部が増加し、開発が構内縁辺にまで及んでいる昨今の状況を見ると、安心はできないものと思われる。関係部局と密に連携し、開発計画を注視する必要がある。

【註】

- 1) 田畑直彦(2004)「平成7・10～14年度山口市大学構内遺跡の概要」、山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、山口
- 2) 横山成己(2007)「吉田遺跡第II地区の調査」、山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市埋蔵文化財資料館年報—平成17年度—』、山口
- 3) 小野忠熙(1976)『山口市大学構内 吉田遺跡発掘調査概報』、山口市大学吉田遺跡調査団(編)、山口
- 4) 吉田寛(1986)「吉田遺跡採集の円筒埴輪について」、山口市埋蔵文化財資料館(編)『山口市大学構内遺跡調査研究年報IV』、山口

7. 共同獣医学部枠場設置工事に伴う立会調査



図38 調査区位置図



写真82 A地点土層断面(北から)



写真83 B地点土層断面(北から)



図39 A・B地点土層断面柱状図

調査地区 吉田構内R・S-20区

調査面積 25㎡

調査期間 平成28年2月15・16日

調査担当 横山成己

調査結果

前頁に記したように、解剖実習棟前の既設枠場を撤去し、新たに動物体焼却炉を設置したことから、動物医療センター周域に新規に枠場が必要となった。

新規枠場が牧草地の北東隅、前述した古墳推定地付近に計画されたことを受け、基礎掘削工事時に立会調査を実施することとなった。

工事業者に現場で工法を確認したところ、計画地が南から北に傾斜していることから、ベタ基礎設置のための掘削は南半部にとどまるとのことであった。掘削を進めたところ、造成土を抜ける掘削は南東隅(A地点)と南西隅(B地点)に設けられる1.2m×1.2m、深度0.8mの支柱基礎部分に限定されることが判明した(図38)。

A・B両地点とも、表土および造成土下に旧耕土と旧床土が存在し、下位に薄く灰黄色(2.5Y6/2)粘質土の遺物包含層が遺存しており、その下位が明黄褐色(2.5Y6/6)シルトの地山であることが判明した(図39、写真82・83)。遺物包含層からは、図化不能であるが須恵器の小片1点が出土している。

遺物包含層の確認によって、周辺域に遺構が遺存する可能性がより高まった。新規枠場の周囲には建築年不明の馬小屋や倉庫などが乱立しているが、みだりな解体など行わないよう注意を促したい。

8. 共同獣医学部カーポート設置工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内N-17区

調査面積 3㎡

調査期間 平成27年7月25日

調査担当 横山成己

調査結果

共同獣医学部および農学部校舎の玄関横に、身体障害者用カーポートが設置されることとなった。

昭和41年(1966)に開始された本学吉田地区への統合移転は、下関市長府からの農学部(農学科・獣医学科)の移転が始まる。農学部(獣医学部)校舎および附属農場関連施設の建設時には、埋蔵文化財保護対応がとられていなかったため、地下の様相は不明瞭のまま現在に至っていることから、農学部敷地にて計画された土地の掘削を伴う工事においては、小規模なものでも工事立会を実施し、地下情報を取得する方針としている。

当工事も工事面積が狭小であり、深度も支柱基礎部2箇所(A・B地点)で最深0.55mであったことから、掘削は造成土内にとどまった。

吉田構内中心部は学部校舎等で過密となっており、大規模工事が実施される可能性は低いことから、今後も小規模工事での地下情報の取得が重要となってくる。無駄足を踏むことも多いと思われるが、継続的に調査を行いたい。



図40 調査区位置図



写真84 A地点土層断面(西から)



写真85 B地点土層断面(西から)



図41 A・B地点土層断面柱状図

9. 農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査



図42 調査区位置図



写真86 A地点土層断面(北から)



写真87 B地点土層断面(南から)



写真88 C地点土層断面(南西から)

調査地区 吉田構内T・U-15・17区

調査面積 100㎡

調査期間 平成27年11月6日

調査担当 横山成己

調査結果

平成26年度に続き、平成27年度も農学部附属農場実験水田に排水路工事が計画された。実験水田においては、平成9年から10年にかけて実施した分布調査において、1号田の主に北半部で40点の遺物が採取されており、7世紀代の須恵器が報告されている。平成21年度には1号田から5号田の北側、5号田の西側と中央に排水用暗渠を設置する工事が実施され、立会調査を行った結果、西端の5号田において遺物包含層および河川跡を確認し、古代の遺物が包含されていることを確認した。

当該年度の工事は、2号田の南北に東西方向の排水路を設けるという計画であり(図42)、掘削深度から地山を掘り抜くことが確実視されたため、平成27年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成27年8月18日開催)にて保護対応が諮られ、立会調査を実施する運びとなった。

調査の結果、南側排水路(A地点)は耕土直下が地山であり、水田構築時に旧地形を大きく削平していることが明らかとなった(図43、写真86)。

一方の北側排水路に関しては、水田の北を東から西にのびる丘陵の南縁辺部にあたることから、こちらも大きく削平を受けているものと予想されたが、B地点、C地点の2箇所において、明黄褐色(2.5Y6/6)に灰色(N5/)が混ざるシルトの地山を掘り込む溝状遺構を検出した(図43、写真87・88)。溝状遺構は、丘陵方向と直交し南北方向に走っている。遺物が確認されなかったため所属時期は不明であるが、B地点検出の溝状遺構埋土には有機物が多量に含まれていることから、用水路または暗渠として使用されたものと推測される。

農学部附属農場実験水田周辺は、古代の遺構や遺物が散見されるとともに、江戸時代中期(18世

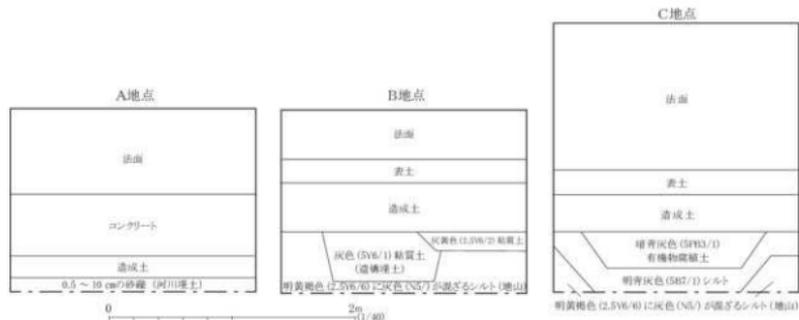


図 43 A～C地点土層断面柱状図

紀前半)の絵図に集落および水田が描かれていること³¹⁾から、近世の遺構や遺物が遺存する可能性が極めて高い地域である。しかしながら、前頁でも述べたとおり、本学の吉田地区統合移転順序の事情により、農学部附属農場敷地の地下の様相は不明と言わざるを得ない。小規模工事に対しても、今後とも慎重な埋蔵文化財保護対応が必要である。

【註】

- 1) 横山成己(2019)「農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成26年度-』, 山口
- 2) 田畑直彦(2004)「吉田構内農学部附属農場の分布調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報 XVI、XVII』, 山口
- 3) 横山成己(2013)「農学部附属農場水田暗渠排水工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成21年度-』, 山口
- 4) 享保12年(1727)から宝暦3年(1753)にかけて蒔圃により作成された「地下上申絵図 吉田村清図」(山口県文書館所蔵)による。

10. 理学部駐輪場屋根新設工事に伴う立会調査



図44 調査区位置図



写真89 工事風景(南西から)



写真90 9調査区土層断面(南から)



図45 9調査区土層断面柱状図

調査地区 吉田構内N-20区

調査面積 16㎡

調査期間 平成28年3月22日

調査担当 横山成己

調査結果

本学吉田キャンパスでは、平成21年(2009)時点では、各学部・大学院に在籍する学生約6,600名に対し、駐輪場収容台数は5,790台となっていた。自転車通学生が在学生の約7割にあたる4,600名であることから、十分に駐輪できる計算であったが、駐輪マナーの悪化(道路など駐輪場以外への駐輪)が指摘され続け、その原因の一つとして、駐輪場に屋根がないことが指摘されていた。

平成27年度末に至り、理学部より駐輪場屋根の新設工事計画が提出された。工事に対する埋蔵文化財保護対応に関し、2月1日から第8回埋蔵文化財資料館専門委員会がメール審議にて開催され、審議の結果工事立会を実施する運びとなった。

土地の掘削は10箇所に設けられる支柱基礎部(東から1～10調査区)で(図44、写真89)、各所1.25m×1.25mの範囲で深さ0.8mまで行われた。

調査の結果、東半部(1～6調査区)は造成土直下が明黄褐色(2.5Y6/6)シルトの地山で、大学造成時に大きく削平を受けていることが判明した。7調査区以西は、造成土と地山の間に旧床土と見られるにふい黄褐色(10YR5/3)粘質土が存在しており、わずかに埋蔵文化財が遺存する可能性を残しているが、本学移転以前の耕地化に伴い、ある程度地山の削平を受けているものと推測される。

【註】

- 1) 松本浩(2009)「吉田キャンパスの駐輪環境について」、山口大学総合科学センター排水処理施設(編)『山口大学環境保全』NO.25、山口
- 2) 葛崎偉(2011)「吉田キャンパスの駐輪状況について」、山口大学総合科学センター排水処理施設(編)『山口大学環境保全』NO.27、山口

11. 図書館周辺雨水排水整備工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内N-16区
 調査面積 35㎡
 調査期間 平成27年9月18・19日
 調査担当 横山成己
 調査結果

埋蔵文化財資料館西側を走る構内周回道路と東門から西に延びる道路が交差する地点は、北と東の高所から雨水が集中する位置にあたり、排水機能が低下していることから、大雨時には歩行困難な状態となることが多かった。

この状況を改善するため、施設環境部より図書館周辺雨水排水整備工事計画が提出されたことを受け、平成27年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成17年6月16日開催)にて埋蔵文化財保護対応が諮られた。

平成24年(2012)に工事計画地(図46)西側で実施した総合図書館3号館増築に伴う本発掘調査では、現地表下0.95mで弥生時代から鎌倉時代にかけての遺物を多量に包含する埋没河川が確認されており、当工事の掘削最深度が1.5mを予定されていることから、立会調査の実施が承認された。

調査の結果、周回道路の地下は厚く造成されており、部分的に著しく攪乱を受けていることが判明した(図47、写真91・92)。なお、断面模式図を作成した範囲以南は、雨水管布設の掘削深度が浅くなるため、調査対象から省いた。

【注】

- 1) 横山成己(2016)『図書館改修工事及び環境整備(図書館周回道路迂回)工事に伴う本発掘調査』, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成24年度-』, 山口



図46 調査区位置図



写真91 A地点土層断面(南西から)



写真92 B地点土層断面(西から)



図47 土層断面模式図

12. 総合研究棟横小路バリカー設置工事に伴う立会調査



図48 調査区位置図



写真93 A地点土層断面(西から)



写真94 B地点土層断面(西から)

調査地区 吉田構内Q-18・19区

調査面積 0.25㎡

調査期間 平成28年1月22日

調査担当 横山成己

調査結果

平成27年度に、吉田構内南東部の総合研究棟南側小路と理学部3号館西側道路の交差点にて、自動車と自転車による交通事故が発生した。総合研究棟南側小路は動物医療センターから西に急な下り坂となっており、交差点前では見通しも悪いことから、以前より危険性が指摘されていた。

事故の発生を受け、11月に施設環境部より小路の交差点地点前にバリカーを設置する工事計画が提出された(図48)。工事に対する埋蔵文化財保護対応に関し、11月30日から第6回埋蔵文化財資料館専門委員会がメール審議にて開催され、審議の結果、工事立会を実施する運びとなった。

掘削はバリカー基礎2箇所(A・B地点)に対し、0.35m×0.35mの規模で、0.35mの深さまで行われ、調査の結果いずれも造成土や既設管砂巻きの中でとどまることを確認した(図49、写真93・94)

【註】

1) 当地については、平成12年(2000)に架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査が実施されていた。掘削深度30～60cmでの工事であったが、平成27年度当時は調査報告が未刊行であり詳細が不明確であったことから、慎重を期した。

A地点東壁	
	アスファルト
	砂石
配管 砂巻き	造成土

B地点東壁	
	アスファルト
	砂石
	造成土
	砂

0 1m (1/200)

図49 A・B地点土層断面柱状図

13. 総合研究棟北側喫煙所新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内Q-17・18区

調査面積 4.5㎡

調査期間 平成28年2月15日

調査担当 川島尚宗 横山成己

調査結果

平成27年12月に至り、学術研究部より総合研究棟敷地内喫煙所新設の事業計画が提出された。12月8日から第7回埋蔵文化財資料館専門委員会がメール審議にて開催され、審議の結果、工事は小規模なものであるが、総合研究棟敷地では既往の調査により古代の埋没谷や遺構が検出されていることを重視し、工事立会を実施する運びとなった。

支柱の基礎掘削は4箇所(A～D地点)で行われた(図50)が、いずれも造成土内にとどまり埋蔵文化財に支障は生じなかった(図51、写真95・96)。

【注】

- 1) 田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新宮に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡道路調査研究年報XX』、山口



図50 調査区位置図

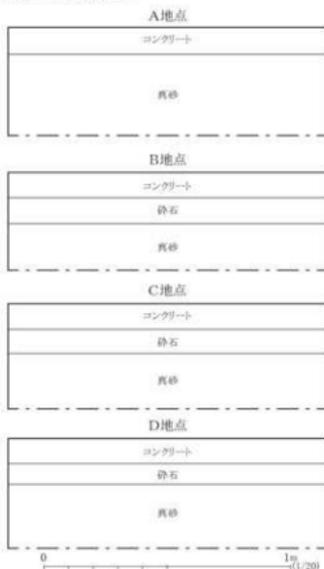


図51 A～D地点土層断面柱状図



写真95 A地点土層断面(南から)



写真96 B地点土層断面(南から)

14. 陸上競技場横遊歩道標識設置工事に伴う立会調査

調査地区	吉田構内E-20、H-18区	調査面積	2㎡
調査期間	平成27年10月28日	調査担当	横山成己
調査結果			

夏季休業前に、施設環境部より陸上競技場南東側遊歩道に歩行者用道路標識を設置する事業計画が提出されたことを受け、平成27年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(8月18日開催)にて埋蔵文化財保護対応が審議された。工事は遊歩道北東・南西端部に標識を設置するもので(図52)、掘削は平面規模1m×1m、深度約1mであった。陸上競技場と遊歩道には約0.8mの高低差があり、遊歩道側に盛土が施されているが、陸上競技場南部での既往調査では、現地表下0.1m強の深度で先史時代のものと見られる溝など遺構が複数確認されていることから、工事立会にて対応することが承認された。実際の工事はA地点が0.6m、B地点が0.65mの掘削にとどまったため、支障は生じなかった(写真97・98)。

【註】

1) 田畑直彦(2016)「陸上競技場トラック排水溝改修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成24年度—』, 山口



図 52 調査区位置図



写真 97 A地点土層断面 (北東から)



写真 98 B地点土層断面 (北東から)

15. 正門前樹木植樹工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内1-12区

調査面積 5㎡

調査期間 平成27年11月4日

調査担当 横山成己

調査結果

本学は平成27年(2015)をもって創基200周年を迎えたそうである。その記念事業として、吉田構内正門前に全長9mクリスマスツリー(モミの木)を植樹する計画が施設環境部より提出された(図53)。

平成27年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成27年6月16日開催)にて対応が審議され、工事掘削が現地表下1mを超える可能性が高いことから、立会調査の実施が承認された。

人と人、地域と大学が繋がるきっかけとなり、新たなコミュニティの場を形成することを目的として、12月1日にはクリスマスツリー電飾点灯式が開催されることが決定されたことから、植樹工事は11月4日に行われた。

工事は既存のケヤキの撤去に始まり、現地表下1.1mまで掘削が行われたが、地山が露出することはなかったことから、記録を作成後、調査を終了した(図54、写真99・100)。



図53 調査区位置図



写真99 工事風景(北西から)

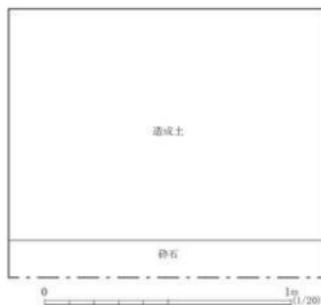


図54 土層断面柱状図



写真100 土層断面(西から)

15. 事務局前樹木移設工事に伴う立会調査



図 55 調査区位置図

調査地区	吉田構内K-15、1-16
調査面積	約14.5㎡
調査期間	平成27年7月18日
調査担当	田畑直彦
調査結果	

共通教育講義棟A棟(A地点)の樹木(カツカイブキ)1本を事務局前の庭園(B地点)に移設することに伴い(図55)、立会調査を実施した。

A地点では直径約4mの範囲を現地表下約83cmまで掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった(写真101)。B地点では、平面形1.3m×1.8mの範囲を現地表下47cmで掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった(写真102)。

以上の結果、埋蔵文化財に支障はなかった。しかし、B地点から約25m南側に位置する水銀灯新営に伴う発掘調査A区では、現地表下約86cmで遺物包含層、以下約92cmの地山面で古墳時代の溝状遺構が検出されている。B地点周辺では弥生～古墳時代の遺構・遺物が存在する可能性が高く、埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

【註】

- 1) 河村吉行(1991)「第2章 吉田水銀灯新営に伴う発掘調査」
山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』山口



写真 101 A地点土層断面 (西から)



写真 102 B地点土層断面 (西から)

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属山口中学校防球ネット新設工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内
 調査面積 約1.3㎡
 調査期間 平成27年12月24日
 調査担当 田畑直彦
 調査結果

教育学部附属山口中学校で防球ネットの新設工事が計画された。地下掘削は支柱を設置する3箇所(A～C地点 図56)をボーリングで掘削するもので、掘削後に立会調査を実施した。

A地点では現地表下43cmまでが表土・造成土で、以下43～70cmで弥生時代以降の遺構面形成層とみられる灰色(7.5Y5/1)シルトを検出した。現地表下70～230cmでは詳細は不明確であったが、灰オリーブ色(7.5Y4/2)粗砂・礫の互層堆積を確認した(写真103)。B地点では現地表下38cmまでが表土・造成土で、以下38～72cmで弥生時代以降の遺構面形成層とみられる灰色(7.5Y5/1)シルトを検出した。現地表下72～275cmでは詳細は不明確であったが、にぶい赤褐色(5YR4/4)粗砂・礫の互層を確認した(写真104)。C地点では現地表下280cmまで掘削を行ったが、樹木の根による攪乱が著しく、湧水もあったため、明確な層位が確認できなかった。

以上の結果、埋蔵文化財の保護に支障は生じないことを確認できた。



図56 調査区位置図



写真103 A地点土層断面(南から)



写真104 B地点土層断面(南から)

2. 教育学部附属山口小学校ガス管交換工事に伴う立会調査



図 57 調査区位置図

調査地区	白石構内
調査面積	約8㎡
調査期間	平成27年12月29日
調査担当	田畑直彦
調査結果	

教育学部附属山口小学校でガス漏れが発生し、教室棟Aの南東側でガス管交換工事を行うことになったため(図57)、緊急に立会調査を実施した。

A地点とその周辺では現地表下62cmまで掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった。B地点では現地表下49cmまでが表土・造成土で、以下49～60cmで河川埋土の可能性がある緑灰色(7.5GY6/1)シルトを検出した。C地点では現地表下49cmまでが表土・造成土で、以下49～63cmで弥生時代以降の遺構面形成層とみられるオリーブ黄色(5Y6/3)シルト、63～71cmでオリーブ灰色(2.5GY6/1)シルトを検出した(写真106)。また、オリーブ黄色シルトを検出面とする溝もしくは河川を確認した。検出幅は約70cmで、埋土は明青灰色(5B7/1)シルトと灰色(N6/0)シルトのブロック土、灰色(N6/0)粗砂、オリーブ灰色(2.5GY6/1)シルト・粗砂である。最大深度は約20cmであったが、遺物は出土しなかった。

以上の結果、調査区内は削平が著しく、埋蔵文化財に支障はなかったが、B・C地点周辺では溝もしくは河川が存在する可能性が高く、埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

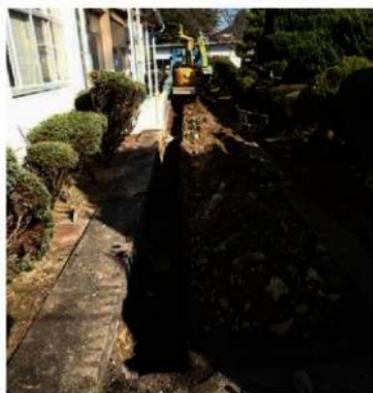


写真 105 調査区全景(南西から)



写真 106 C地点土層断面(南東から)

第4節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

1. 保育所新営その他工事に伴う予備発掘調査

調査地区 小串構内保育所南西側駐車場敷地
調査面積 50㎡
調査期間 平成27年5月13日～6月6日
調査担当 横山成己 山田圭子
調査結果

(1) 調査の経緯(図58、写真107・108)

小串構内北部、体育館北側敷地において、保育所の建て替え工事が計画された。山口大学医学部構内遺跡は、北方ほど堆積層中の遺物の密度が高く、南方へ移行するに従い遺物の密度が低くなる傾向にあるが、構内北部北東側は現在まで駐車場としての土地活用が続いてきたため、地下の様相は不明確であった。

そのような状況下で平成22年度に実施した地域医療教育研修センター新営に伴う予備発掘調査では、近世客土下に主として古墳時代から古代にかけての遺物が密に含まれる河川堆積層が存在することが明らかとなった。元来、堆積層に含まれる遺物の由来地として構内北西部の丘陵を想定していたが、この調査区は構内南東横を南流する真締川に隣接することから、当地周辺においては、丘陵からの遺物流入のほかに、河川による遺物流入を想定する必要が生じることとなった。

開発予定地は、体育館北側の約1,000㎡であり、丘陵地と真締川のほぼ中間地点に当たる。丘陵付近の堆積層と真締川付近の堆積層の関係を明らかにするため、北西-南東方向へ長くトレンチを設けることを模索したが、慢性的な駐車場不足から駐車場をできる限り閉鎖したくないという医学部の要求を最大限に考慮し、調査面積を5m×12mとし、仮設現場事務所、残土置き場を含め最小限の駐車場封鎖で調査を実施することとなった。

【注】

1) 横山成己(2014)「医学部地域医療教育研修センター新営工



図58 調査区位置図



写真107 調査地点遠景(北上空から)



写真108 調査地点近景(北から)

事に伴う予備発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成22年度—』、山口

(2) 調査の経過(写真109～111)

調査は平成27年5月13日に着手し、翌14日に重機掘削を終了した。15日以降は旧耕土(第1層)(写真109)、旧客土(第2層)の上面検出および掘削を行い、21日に自然堆積層である第3層上面を検出した(写真110)。以降、第3層から第5層まで掘削を進め、6月2日には予定通り海拔0m付近までの掘削を完了した。3日以降は断面精査および諸記録作成を実施する予定であったが、想定より早い梅雨入りにより、翌3日には調査区壁面が大きく崩落した(写真111)。崩落は調査区南西側花壇の下に達しており、現場復旧は困難であること、また隣接する駐車場ゲートも安全面から封鎖せざるをえない状況であることから、急遽調査区東側約2/3を埋め戻し、翌4日に平板測量および調査区壁面遺存部の断面実測を試みたが、精査中にさらに壁面の崩落が進行したため、柱状図の作成に止め、調査の続行を断念し、調査区全域を埋め戻すこととなった。雨天作業中止をはさみ、6日には調査区の埋め戻しを完了した。

(3) 基本層序(図59、写真112)

今回の調査では、現地表下約0.8mまでの造成土を重機により掘削した。造成土以下は人力による掘削となったが、最終的に現地表下2.5m付近までの掘削となることから、安全確保のため壁面に沿い0.8mの平坦部を設け段掘りを行った。造成土下位に確認した堆積層は5層に区分される。

第1層は構内造成前の旧耕土(褐灰色弱粘質土)で、層厚約0.08m。近世および近代の遺物を包含する。第2層は江戸時代後期(18世紀末)に耕地化のため置かれた客土と推定される。層厚0.3mの青灰色粘土であり、水田床土として利用されたため上部は土壌化してにぶい黄色を呈している。主として近世の遺物を包含するが、既往の調査では中世の瓦質土器および古墳時代の須恵器も混ざる。第3層は層厚0.2mの青灰色粘土と灰白色砂の互層。第4層は層厚0.7mのオリブ黒色粘性細砂で、扇形の青灰色砂が多く混ざる。二枚貝の痕跡と見られる。第5層は灰色強粘質土で、第4層同様扇形の青灰色砂が見られるが、その量は少ない。既往の調査では、第4・5層より縄文土器や石錘、弥生土器甕、古墳時代のものと見られる土器器裏体部片が出土している。

(4) 遺物(図60、写真113、表10)

遺物が見られたのは第1層および第2～1層のみで、第3層以下からは出土していない。

図示可能な遺物はいずれも陶器である。1・2は陶胎染付の底部片。3・4は鉢の口縁部片。5は粗陶器甕の口縁部片。6・7は挿鉢口縁部片で、6は肥前系、7は須佐唐津と見られる。

(5) 小結

小串構内は、真縮川右岸に立地している。真縮川は、現在南に直進し河口に至っているが、江戸時代には小串構内南端部(樋ノ口橋)で西折し、JR居能駅付近を河口としていた。そのため、本川(真縮川)が上流から運んだ土砂が河口を埋め、洪水被害に見舞われることが度々であったことが記録として残されている。18世紀末の寛政11年(1799)には本川河口の付け替え工事が藩に申請され、河口を樋ノ口橋から南方に直線的に付け替えた(新川)ことにより、川の流れが改善され、耕地化が進んだことが近世文書「船木宰判本控」に記されている⁸¹⁾。

当調査でも確認された旧耕土下の第2層は、耕地化に伴う客土と見られ、既往の調査では主として中

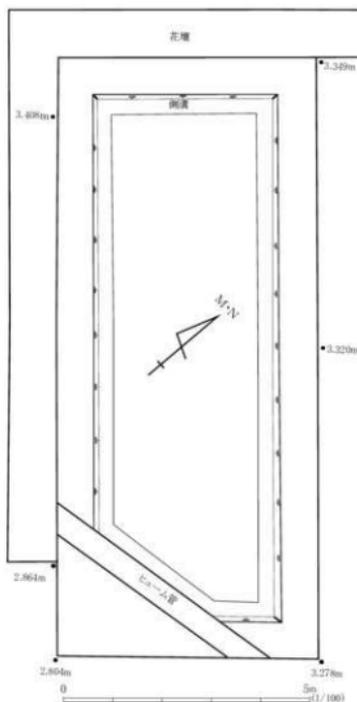


写真109 第1層上面検出状況(南東から)



写真110 第3層上面検出状況(南東から)



写真111 調査区崩落状況(東から)

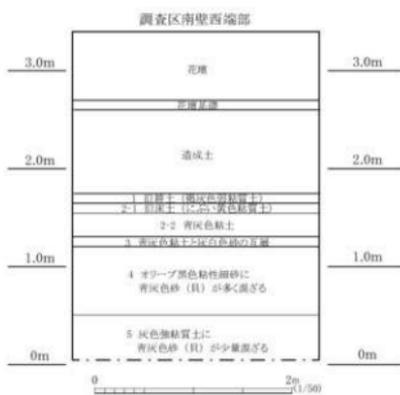


図59 調査区平面図・断面柱状図



写真112 調査区南壁西端部土層断面(北東から)



図 60 出土土器実測図



写真 113 出土遺物 (土器)

表 10 出土遺物 (土器) 観察表

法量 () は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量 (cm) ①口縁②底縁③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	1層 (旧耕土)	陶胎染付高台付物	底部	②(3.9) ③残高0.85	①断面 灰白色(2.5YR/2) ②灰白色(5Y7/2)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	灰釉
2	2-1層 (旧床土)	陶胎染付高台付物	底部	②(4.6) ③残高1.15	①断面 灰白色(2.5YR/1) ②灰白色(2.5YR/2)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	薬灰釉
3	1層 (旧耕土)	陶器 鉢	口縁部	③残高2.6	①②褐色(7.5YR4/3) 断面 灰色(5Y5/1)		精緻(砂粒をほぼ含まない)	鉄釉
4	1層 (旧耕土)	陶器 鉢	口縁部	③残高2.45	①にふい・褐色(7.5YR5/4) ②明赤褐色(5YR5/6) 断面 にふい・褐色(7.5YR7/3)		0.5～1mmφの長石含む	鉄釉
5	1層 (旧耕土)	粗陶器 甕	口縁部	③残高3.15	①②断面 にふい・黄褐色(10YR7/3)		0.5～1mmφの長石含む	
6	1層 (旧耕土)	陶器 掻鉢	口縁部	③残高2.65	①②灰褐色(7.5YR4/2) 断面 黒灰色(7.5YR4/1)		0.5～1mmφの長石含む	肥前
7	1層 (旧耕土)	陶器 掻鉢	口縁部	③残高4.0	①②褐色(7.5YR4/3) 断面 にふい・黄褐色(10YR7/3)		0.5～1mmφの長石含む	須佐唐津

世から近世の遺物が混入していることから、中世以降集落が営まれた地域から採土されたものと思われる。また、既往の調査で主として中世の遺物が包含されていた第3層、古墳時代以前の遺物が包含されていた第4・5層に遺物を確認することはできなかった。新保育所の開発域は広大であるが、旧床土より下位の堆積層で遺物の散布が希薄であったことを根拠として、調査は予備発掘にて終了することが平成27年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成27年6月16日開催)に諮られ、承認された。

【註】

1)小川国治(1992)「第4編近世第3章近世村落の成立と発展」,宇部市史編集委員会(編)『宇部市史通史篇』上巻,宇部(山口)

付節1 平成27年度 山口大学構内遺跡調査要項

山口大学大学情報機構規則

改正 平成18年3月14日規則第27号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人山口大学学則(平成16年規則第1号)第9条第2項の規定に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)の大学情報及び情報基盤を総合的に整備する山口大学大学情報機構(以下「機構」という。)に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 機構は、次の施設をもって組織する。

- (1)図書館
- (2)メディア基盤センター
- (3)理蔵文化財資料館

2 前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

(業務)

第3条 機構は、次の業務を行う。

- (1)大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関すること。
- (2)大学情報及び情報基盤の整備の施策及び実施に関すること。
- (3)情報セキュリティの施策及び実施に関すること。
- (4)その他機構が必要と認めた事項に関すること。

2 前項の業務を行うため、機構は、各学部、各研究科、全学教育研究施設及び事務組織と相互に連携を図るものとする。

(運営委員会)

第4条 機構に、機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、山口大学大学情報機構運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(情報セキュリティ委員会)

第5条 機構に、情報セキュリティに関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報セキュリティ委員会(以下「情報セキュリティ委員会」という。)を置く。

2 情報セキュリティ委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(情報基盤整備委員会)

第6条 機構に、情報基盤の整備に関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報基盤整備委員会(以下「情報基盤整備委員会」という。)を置く。

2 情報基盤整備委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(機構長)

第7条 機構に機構長を置き、学術情報担当副学長をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を総括する。

(副機構長)

第8条 機構に副機構長2名を置き、本法人の専任教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐する。

3 副機構長の担当は、機構長が定める。

4 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、機構長である副学長の任期の終期を越えることはできない。

5 副機構長に欠員が生じた場合の後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする

(専任大学教育職員)

第9条 機構に、専任大学教育職員を置く。

2 専任大学教育職員の選考は、運営委員会の議に基づき、学長が行う。

3 専任大学教育職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 機構に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館規則

平成16年4月1日規則第148号

(館長)

改正 平成17年3月24日規則第52号

第5条 館長は、大学情報機構長をもって充てる。

(趣旨)

2 館長は、資料館の業務を掌理する。

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構規則(平成16年規則第139号)第2条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(副館長)

(目的)

第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の専任の教授又は准教授のうちから山口大学大学情報機構運営委員会の議に基づき、学長が行う。

第2条 資料館は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に所在する遺跡の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収蔵・公開することを目的とする。

2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に欠員が生じた場合の後任の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

3 副館長は、館長を補佐し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に関し、館長を助けるものとする。

第3条 資料館は、次の業務を行う。

(事務)

(1)本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究

第7条 資料館に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(2)本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の刊行

(雑則)

(3)その他埋蔵文化財に関する必要な業務

第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に関し必要な事項は、別に定める。

(職員)

附 則

第4条 資料館に、次の職員を置く。

(1)館長

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(2)副館長

2 第5条第1項の規定にかかわらず、当分の間、館長は、大学情報機構副機構長のうちから大学情報機構長が指名した者をもって充てる。

(3)資料館所属の専任大学教育職員

附 則

(4)その他必要な職員

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

3 特別調査員は、専門委員会の議に基づき、館長が委嘱する。

山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規

(趣旨)

(4)その他資料館に関し必要な事項

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構運営委員会(平成16年規則第140号)第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(組織)

(審議事項)

第3条 専門委員会は、次の委員をもって組織する。

第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)に関し、次の事項について審議する。

(1)機構長

(1)管理及び運営に関する事項

(2)副機構長

(2)整備充実に関する事項

(3)館長

(3)予算に関する事項

(4)副館長

(5)資料館所属の専任大学教育職員

(6)考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員

(7)メディア基盤センター所属の専任大学教育職員のうち館長が指名した者1名

(8)施設環境部長	第6条 専門委員会が必要と認めるときは、専門委員以外の者を専門委員会に出席させることができる。
(9)情報環境部長	(部会等)
(10)情報環境部学術情報課長	第7条 専門委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。
(11)発掘調査地に関連のある部局の事務部の長	2 部会等に関し必要な事項は、専門委員会が別に定める。
(任期)	(事務)
第4条 前条第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。	第8条 専門委員会の事務は、情報環境部学術情報課において処理する。
(委員長)	(種別)
第5条 専門委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。	第9条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める
2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。	附 則
3 委員長に事故あるときには、副館長がその職務を代行する。	この規則は、平成18年4月1日から施行する。
(委員以外の者の出席)	

平成27年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長 山内 直樹 (大学情報機構長・館長・農学部教授)

委員 小河原 加久治 (大学情報機構副機構長・理工学研究科教授)

藤間 充 (副館長 農学部准教授)

村田 裕一 (人文学部准教授)

斎藤 智也 (メディア基盤センター助教)

藏田 秀夫 (施設環境部長)

小林 洋二 (情報環境部長)

叶井 貫一郎 (情報環境部学術情報課長)

田畑 直彦 (埋蔵文化財資料館助教)

横山 成己 (埋蔵文化財資料館助教)

川島 尚宗 (埋蔵文化財資料館助教)

付節2 山口大学構内の主な調査

表11 山口大学構内の主な調査一覧表

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第I地区A・B区	L~N-15	1	30?	土壁・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠則	年報 11-11
	第II地区家畜病院新営	R-20~21 S-T-19~20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	# #	# #	年報 3
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試掘	#	
	第IV地区牛舎新営	S-T-10・11	4	300	弥生溝・土壁、古墳型穴住居、中世住居跡・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	#	
	第IV地区		5				試掘	#	
昭和42年	第III地区杭列区および野上競技場	D-19~20 E-17-19~21 F-17-18	6	1,600	杭列、弥生型穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板柱木柱	事前	#	①
	第III地区南区	G-21~23 H-22	7		河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	# #	# #	
	第III地区北区	H-20 I-19~21 J-20~21	8	1,400	型穴住居、溝、土壁、柱穴		# #	# #	
	第III地区東南区	G-23 H-23~24 I-J-24 K-23~24 L-23	9		弥生型穴住居	弥生土器	# #	# #	
	第III地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	#	
	第V地区学生食堂	J-20 N-14 P-18	11		弥生溝、古墳土壁	弥生土器、土師器	事前	#	
	第V地区		12		河川跡、柱穴、土壁	弥生土器、土師器	試掘	調査担当 山口大学吉田 遺跡調査団	
	第I地区CC区大学本部新営	K・L-14	13	600	型穴住居、溝、土壁	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	#	
	第V地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	#	
	昭和44年	第I地区D区第1地点	L-13	14		近世大溝	弥生土器、木炭屑	# #	
第I地区D区第2地点		L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石鏡	# #	# #	
第I地区D区第3地点		M-13-14	16		土壁、柱穴	弥生土器、瓦質土器	# #	# #	
第I地区D区第4地点		M・N-14	17		土壁、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石鏡	# #	# #	
第I地区D区第5地点		L-12-13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	# #	# #	
第I地区D区第6地点		M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	# #	# #	
第I地区D区第7地点		M・N-13	20			須恵器	# #	# #	
第I地区E区第2学生食堂新営		M・N-14・15 O-15	21	900	古墳型穴住居、土壁溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鉄製品	事前	#	
昭和50年	第II地区				弥生土器	試掘	#	①	
昭和51年	第III地区				型穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	# #	# #	
昭和53年	人文学部校舎新営	M・N-21	22	160			#	調査担当 岩藤嘉一	年報 X
昭和54年	教育学部附属風養護学校新営	A-20・21 B-19・20 C-19	23	410	溝、土壁	縄文土器、弥生土器	試掘	山口大学理蔵 文化財資料館 山口市 教育委員会	年報 IX
	理学部校舎新営	N・O-19・20	24	250			#	#	年報 X
	農学部動物舎新営	P-19	25	380			#	#	年報 X
	本部管理棟新営	L-14	26	740	溝、土壁、柱穴、中世井戸、土壁墓、住居跡	弥生土器、土師器、石製品	事前	#	年報 VII
昭和55年	経済学部校舎新営	K-21	27	66			試掘	#	
	農学部農業観測実験施設新営	P・Q-15	28	50	溝、土壁		事前	#	年報 X
	本部環境整備	E-14~16 F-15-16	29				立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和55年	農学部環境整備	N-11 O-10-11 P-9-10	30				#		年報 X
昭和56年	教育学部校舎新営	H-19	31		弥生型穴住居、土壇、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		年報 I
	教育学部音楽棟新営	H-16	32		溝		#		
	教育学部美術科・技術科実験実習棟新営	J・K-19-20	33		旧河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器	#		
	正門橋脚新営	I-11	34					立会	
	時計塔増設	I-14	35				#		
	本部構内擁壁取設	K-L-13-14 J-17	36				#	工法等変更	
	教養部構内擁壁取設	I-15-17 J-17	37				#	工法等変更	
	構内循環道路舗装	J~M-15 M-N-16	38				#		
	農学部中庭整備	N-O-17	39				#		
	暖房施設改修	O-16	40				#	工法等変更	
学生部文化会車庫新営	M-8-9	41				#	工法等変更		
学生部馬場整備	M-N-8-9	42				#			
昭和57年	附属図書館増築	L・M-16	43	600	弥生～古墳遺、土壇、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		年報 II
	大学会館新営	M・N-14+15	44	130	弥生型穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護学校プール新営	A・B-21	45	880				立会	
	放射性同位元素総合実験室排水槽新営	O-18	46	2			#		
	教養部自転車置場昇降口新営	L-17	47	10			#		
	教養部中庭環境整備	J・K-16	48	150			#		
昭和58年	大学会館新営	M・N-12+13	49	2,000	古墳井戸、土壇、柱穴、中世井戸、掘立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶器、瓦質土器、緑釉陶器、木簡、石器	事前		年報 III
	ラグビー場防球ネット新営	G-18-19 H-19-20	50	114	弥生溝、弥生～古墳型穴住居、土壇	弥生土器、土師器、石製品	#	型穴住居は工法変更により現地保存	
	理学部大学校舎新営	M・N-20	51	409				立会	
	正門・南門二輪車置場および正門花壇新営	I・J-12+13 H-23	52	183			#		
	学生部アーチェリー場の台・電柱設置	N-8-9	53	33			#		
	学生部観音整備	M-7-8	54	1.6			#		
	学生部野球場散水栓取設	I-21 K-22	55	1				立会	
	教養部環境整備	I-15-16 J-15 K-17-18 L-18	56	81			#		
	学生部テニスコート改修	C-18 D-17 E-15-16 F-16	57	12			#		
	昭和59年	大学会館ケーブル布設	N-12	58	160	弥生土壇、柱穴	弥生土器	事前	
大学会館排水管布設		J~L-13	59	180	弥生～中世遺物包含層、古墳土壇、古代～中世土壇、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	#		
学生部テニスコートファンシ改修		B-17 C-16-17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		
経済学部樹木移植		K-19-21	61	8				立会	
昭和60年	大学会館環境整備	L-14-15 M・N-15	62	592	弥生～中世遺物包含層、弥生型穴住居、貯蔵穴、土壇、古代～近世土壇、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、国産陶磁器、土製品、石斧、原石、鉄器、雷撃	試掘		年報 V
	経済学部環境整備(樹木移植)	K-L-20	63	5				立会	
	農学部附属農場飼料園排水溝修復整備	R-17~19	64	30	古代末～中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、轆口、石器、鉄序	#		
	農学部附属農場農道改修	V-15~17	65	325			#		
	教育学部前庭環境整備(樹木移植)	I・J-19	66	430			#		
中央ボイラー棟車止設置	O・P-16	67	2.5			須恵器	#		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和60年	学生会館環境整備(樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石鏡、磁石、鉄滓	#		年報 V
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			#		
	農学部解剖実習棟周辺環境整備(実験動物運動場設置)	Q-18	70	16			#		
	理学部環境整備(緑地設置)	N-21	71	4			#		
	農学部附属風気病棟舗装	S-T-19	72	270			#		
昭和61年	国際交流会館新営	M-22・23 N-22	73	70	弥生～古墳河川跡 中世～近世溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鉄砲玉、加工意のある銅片	試掘		年報 VI
	山口銀行現金自動支払機設置(電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡小)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S-20 T-U-19	75	165	中世溝、柱穴	土師器、瓦質土器	#	工法変更	
	農学部附属農場農道交通規制(施設ポール設置)	M-10 P-15 Q-15～17	76	12			#		
	正門横(水田内)境界杭設置	J-10	77	0.25	包含層小		#		
	経済学部環境整備(樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			#		
昭和61年	吉田構内交通標識設置	G-23 K-9 O-22 S-20 V-17	79	3		須恵器	立会		年報 VI
	市道神郷1号線および周田神郷線の治水管理設	B-17・18 C-18・19 D-19・20 E-20・21 F-21・22 G-22・23 H-23・24 I-J-K-24 L-23・24 M-N-23 O-22・23 P-Q-22 R-21・22 S-21 T-20・21 U-19・20 V-18・19 W-X-18	80	2,100	古墳・弥生溝、 古代河川跡、 弥生包含層	弥生土器、土師器、須恵器 (墨書のあるもの含む) 瓦質土器、製塩土器、石斧、板石	立会	山口市教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	教養部自動販売機埋設(屋根設置および観覧席移動)	K-L-18	81	3.5			#		
	教養部身体障害者用スロープ取設	L-15・16	81	3			#		
	経済学部散水線取設	L-20	83	4			#		
	吉田構内水泳プール改修等	E-15 F-15・16 H-15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附属農場水道管理設	S-12	85	3			#		
	吉田構内汚水排水管等総改修	M-18 O-15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ取設	L-14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用スロープ取設	K-18～20 L-18	88	78			#	工法等変更	
	附属図書館荷物運搬用スロープ取設	L-16	89	8		弥生土器	#		
	教養部37番教室改修	K-16	90	1			#		
	教育学部附属教育実践研究指導センター新営	J-K-18・19	91	240		プランク、銅器、植物遺体	事前		
	教養部複合棟新営	J-K-17	92	35	埋蔵土溝、溝、柱穴	土師器、須恵器、土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新営	I-J-16	93	30	現状遺構	弥生土器	立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和62年	教養部複合棟新営	J・K-17・18	94	900	溝し穴、河川跡、塹穴住居、土壇、溝、井戸、埋壊土壇、掘立柱建物跡、谷状遺構、柱穴	縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、須恵質土器、陶磁器、石鏡、石斧、木製品	事前		年報Ⅵ
	九田川局部改修	B-16・17 C-16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学理論文化財資料館	
	国際交流会館新営	M・N-22・23	96	195			#		
	教育学部附属養護学校 自転車庫増設	B-20	97	1			#		
	農学部附属農場付園場 排水管理設及び 玉圃場遊人路拡幅	L~N-12	98	55	中世土壇墓か	弥生土器、土師器、須恵器、輸入白磁、陶磁器、磁石	#		
	農学部種枝	N-17	99	3			#		
経済学部集水棟改設	J-20	100	0.5			#		年報Ⅶ	
教養部複合棟新営に伴う 自転車庫増設	I-16	101	1	包含層か		立会			
国際交流会館新営に伴う 排水管理設	N・O-22	102	35	河川跡(溝か)、 包含層	弥生土器、須恵器	#			
教養部複合棟新営に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			#			
サッカーグラウンド改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	#			
消防用水設置	K~M-22	105	7.5			#			
平成元年	水銀灯新営	J・L-15	106	4	古墳溝状遺構柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、六連式数珠土器	事前		年報Ⅷ
	庭野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新営	H-22 I-21・22 J・K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器	#		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		#		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-8	110	4			#		
	体育施設系給水管改修	G・H-16	111	50		陶器	#	工法等変更	
	大学会館前記念植樹	M-13	112	6			#		
	吉田寮ボイラー種 地下貯油槽設備改修	M-8	113	45	包含層	土師器、須恵器、土師質土器、陶器、 二次加工のある剥片	#		
	第2武道場排水溝新営	G-15	114	2	溝		#		
	案内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			#		
平成2年	本部車庫給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	#		年報Ⅸ
	大学会館前庭園整備	N-14・15	117	35	中世溝		#		
	大学会館前庭園整備	M-15	118	2			#		
	第1学生食堂設備改修	I・J-19	119	7			#		
	教育学部附属養護学校案内板設置	E-20	120	1			#		
平成3年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P-17	121	76	縄文河川	縄文土器、石器	試掘		年報Ⅹ
	農学部改設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
	農学部微生物実験室 その他機械修繕機設備改修	P-17	123	8			#		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	124	2			#		
	サークル棟新営	F-14	125	1			#		
平成4年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P-17	126	980	縄文河川	縄文土器、石器	事前		年報Ⅺ
	交通規制標識及びモニター設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田構内道路 (南門ロータリー) 敷設	H-23	128	40			#		
	ボイラー室給水管漏水補修	O-16	129	4			#		
	農学部附属農場ガラス室新営	S-14	130	3.5			#		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	131	3			#		
	泉町平川線緊急地方道路整備工事 及び山口大学吉田団地 環境整備(正門周辺)	E-11・12	132				#		
泉町平川線緊急地方道路整備 (信号機設置)	I-11	133	7			#			
平成5年	本部裏給水管埋設	K~M-13	134	70	溝、柱穴	弥生土器、土師器、滑石製埴造品	事前		年報Ⅻ
	人文学部・理学部講義棟新営	M-20	135	4			試掘		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成5年	第2階内運動場新築	G・H-16	136	144	溝	弥生土器、須恵器、砥石	#		年報XIII
	農学部給水管理設	N~P-18	137	9					
	基幹整備 (屋外給水管改修)	L-15 M-17・18	138	16				立会	
	農学部産学連携医学科棟新築 電気設備	O-16	139	4				#	
	大学会館前庭パヴィー設置	N-14	140	1				#	
	大学会館前庭記念植樹	L-15	141	1.6				#	
	九田川河川局部改良	C-16 D-15・16	142	40				#	
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2				#	
	農学部ガラス室設置	S-14	144	10				#	
	教育学部給水管理設	H・J-19	145	15				#	
	環境整備(大学会館前庭)	L-14 M-13~15 N-14・15	146	140.9				#	
	環境整備(遺跡保存地区)	H-20 I-19~21 J-20・21	147	361				#	
	環境整備(正門周辺)	G-13 H-12	148	350				#	
平成6年	グラウンド屋外照明施設新設	E-20 F-21 G-18・22 H-19・20 I-21	149	600	縄文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生~古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砥石、磨石、磁石	事前	工法等変更	年報XIV
	第2階内運動場新築	G・I-15・16	150	726	弥生~古代溝、貯蔵穴、土坑、近世溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、砥石、磨石、磁石、剥片、須恵器、瓦質土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、下駄			
	グラウンド屋外照明施設配線理設	F-21 G-20・21 H-19・20	151	200	縄文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生~古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砥石、磨石、磁石	#	工法等変更	
	経済学部商品資料館新築	K・L-21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験施設処理施設棟新築	H-12・13	153	2	河川				
	体育器具庫及び便所新築	G・H-17	154	60	河川			工法等変更	
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L-22 M-22・23	155	5				立会	
	人文学部前駐車場整備	K-23 L-22・23	156	6				#	
	教育学部附属風養護学校 生活排水管改修	F-19	157	2				#	
	テニスコート改修	B-17 C-16・18 D-15~17 E-15・16	158	15				#	
	教育学部附属風養護学校 生活訓練施設棟新築	B-20~22 C-20	159	16				#	
	陸上競技場整備(透水管理設)	C-18 D-18・19	160	200				#	
	ハンドボール場改修(プレハブ設置)	K-22	161	30				#	
	野球場フェンス改修	H-22 I-21・22	162	3				立会	
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川か			#	
	九田川河川局部改良	D-15 E-14・15	164	100				#	
	第2階内運動場電柱仮設	G-14・15	165	0.5				#	
	教養部水道管破裂修理	I-16	166	2				#	
	グラウンド屋外照明施設配線理設	E-20 F-20~21 G-18・19・22 H-19・20 I-20・21	167	150				#	
	公共下水道接続 (教育学部附属風養護学校 プール排水施設設置)	A-21	168	4				#	
サークル棟給水管理設	F-14	169	1				#		
プール新営給水管理設	E-15 F-15・16	170	10				#		
公共下水道接続 (汚水管直水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器		#		
教育学部スロープ設置(音楽棟)	H-17	172	10				#		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成7年	農学部実験研究施設新営	Q・R-17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部実験研究施設新営	Q・R-17	174	520	中世井戸、近世溝	石片、須恵器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道布設	C-18 E-16 G-14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道布設	C・D-18 D・E-17 E・F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新営	T-10	177	22			試掘		
	湯身宿舎改修	N・O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N・O-15	179	48	柱穴、包含層	石器	試掘		
	第2屋内運動場外周照明施設新設	G-15・16	180				立会		
	機能分析センター新営工事用電柱仮設	O-19~21 P-22	181				#		
	農学部附属家畜病院バリア新設	S-20	182				#		
	古田尊司博士墓場新設	N-10	183				#		
	農学部実験研究施設電気・情報ケーブル及びガス・給排水管布設	Q・R-17	184				#		
	情報処理センタースロープ新設	O-19	185				#		
基幹環境整備(ATMネットワークケーブル布設)	E-19・20 F-18・19 G-18	186					#		
	I-15・16 J-20 K-19 M-10・11 N-12 O-16~18・20 P-18・19 Q-17・18	187					#		
平成8年	基幹環境整備(地身宿舎・国際交流会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI
	基幹環境整備(外灯新設)	H-21・22	189	306	河川	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	試掘		
	農学部附属農場排水管布設	S-10・11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	陸上競技場鉄柵取除	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水溝改修	R-11	192	2.2			#		
	種野寮バリア新設	O-20・21	193	7			#		
	サッカー場給水管改修	H-19・20 I-19	194	12	包含層		#		
	基幹環境整備(共通教育センタースロープ・テラス新設)	J・K-17	195	14.3	河川	縄文土器、須恵器	#		年報 XVI
	九田川河川局部改良	E-14	196	18			#		
	農学部附属農場道路舗装	K-12・13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	#		
	本部露排水管取替	K-14	198	2			#		
	農学部附属農場家畜病院患畜舎固厚取設	S・T-19	199	1			#		
平成9年	農学部附属農場堆肥舎新営	S-10	200	41.5			試掘		
	農学部バイオ環境制御施設新営	Q-15・16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製塩土器、石器	試掘		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	6.8			立会		
	基幹環境整備(外灯新設)	J・K-21 K・L-22 L-23	203	23.5	包含層		#		年報 XVII
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			#		
	九田川河川局部改良	E-14	205	4.8			#		
	本部2号館西側バリア新設	L-13	206	0.5			#		
	教育学部附属農産学校時計塔新設	D-21	207	1.4	包含層	土師器	#		
基幹環境整備(教育学部附属農産学校排水管取替)	C・D-21	208	17	河川		#			
基幹環境整備(暖却構築表土すきとり)	O-16	209	40			#			
平成10年	第2学生食堂増築及び改修	N・O-15	210	730	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石器、鉄器	事前		
	教育学部附属農産学校給食室改修	C-21	211	9	縄文河川、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器	試掘		
	九田川河川局部改良	E・F-14 F-13	212			縄文土器	立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	造構	造物	調査区分	備考	文献
平成10年	基幹環境整備(バリアフリー新設)	H-15 I-J-20 O-16・18	213				#		
	農学部動物用検疫所改修	Q-18	214				#		
	基幹環境整備(外灯新設)	L-17~19 M・N-18	215				#		
	理学部スロープ新設	M-18	216				#		
平成11年	ステルス回転モニュメント新設	M-13	217				#		
	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備	O-14~16	218	包含層、柱穴、河川	土師器、須恵器	#			
	九田川河川局部改良	F・G-13 G・H-12	219				#		
	第2学生食堂北西棟壁新設	N-14	220				#		
	サッカー場南側防球ネット新設	G・H-22	221				#		
	第1体育館・共通教育本部スロープ新設	H-15 R-16	222				#		
平成12年	基幹環境整備(外灯新設)	I-12 K-L-18 L-15 M・N-17	223				#		
	総合研究棟新築	Q-18 R-17~19	224	268 河川	土師器、須恵器	試掘			
	総合研究棟新築	Q・R-18・19 S-20	225	808 河川、土坑	縄文土器、土師器、須恵器、製塩土器、瓦質土器、石蔵	事前立会			
	飯倉及び周切施設改修	M-8	226	3.6				立会	
	架空電線取り外し埋設	O-15 P-15・16 Q-14・15・18・19 R-13・14 R・S-19 S-14	227	268 包含層			#		年報XX
	九田川河川局部改良	H-11・12 I-10・11 J-9・10 K-L-9	228	616			#		
	山口合同ガスガバナード新設及びガス配管布設	O・P-22	229	313			#		
	基幹環境整備(バリアフリー新設)	N-22 M-10 V-17	230	0.4			#		
	おずまや新設	L-18	231	5			#		
	共通教育センター空調設備新設	J-16	232	1.4			#		
平成13年	基幹環境整備(外灯新設)	J・K-21 M-10	233	2			#		
	経済学部校舎改修(プレハブ校舎新築)	K-21	234	40 河川	縄文土器、土師器、須恵器	試掘			
	九田川河川局部改良(平成12年度工事追加分)	K-9 L-8・9	235	42 河川			#	立会	
	総合研究棟新築(屋外配管布設)	P・Q-18	236	60			#		
	理学部改修1期(屋外配管布設)	M-18~20 N-19~21 O-19	237	76			#		
	九田川河川局部改良	L-8	238	96			#		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-14・15 J-15 M-15 N-16 Q-17・19 R-17・19 S・T・U・V-17	239	15.4 河川			#		年報XXI
	理学部校舎改修2期(ポンプ室配管布設)	M-19	240	11			#		
平成14年	理学部校舎改修2期(自転車庫・覆り廊下屋根新設)	M・N-20	241	196			#		
	第1学生食堂5-1改修	I・J-19	242	6			#		
	経済学部校舎改修(プレハブ校舎配管布設)	L-21	243	10			#		
	農学部校舎改修(解部実習棟プレハブ校舎新築)	R・S-19	244	520 縦立柱建物、柱穴、土坑、包含層、河川	土師器、須恵器(墨書土器)、製塩土器、緑釉陶器、瓦、轆口、鉋尾、瀬石	事前			
	農学部財風農場実験圃場整地	O-14	245				#	立会	
	農学部校舎他改修	N~Q-17・18	246		河川	縄文土器	#		
理学部改修3期工事(薬品庫提示板、自転車庫新設)	N・O-19 M-19・20	247				#			

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究科 プレハブ校舎新設	N-21	248				#		
	農学部校舎改修(解剖実習棟 プレハブ校舎新設)	R-S-19	249	河川、包含層			#		
	教育学部トイレ改修	I-18	250				#		
平成15年	農学部附属農場ガス管漏洩処理	O・P-16 Q-15	251	12	河川			立会	
	教育学部附属農業専門学校給食調理員 専用トイレ新設	C-21	252	1.7			#		
	農学部環境観測実験棟南側温室	F・Q-15	253	52			#		
	理学部中庭通路屋根新設	N-19	254	5.8			#		
	理学部中庭あずまや新設	N-20	255	6.8			#		
平成17年	基幹環境整備(外灯)	F-16, H-14 G-13~15, 18 I-16, 19 J-19, L-12 Q-15	256	11.5	河川		#		
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	J-K-16	257	130	ビツト、河川	弥生土器、土師器	予備		
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	I・J-K-16 H-12, E-20	258	580	ビツト、河川	弥生土器、土師器 須恵器	立会		
	日本・ドイツ学会 木田土壌の断面調査	R-16	259	3.1	河川		#		
	基幹環境整備(外灯)取設	H-17-22・23	260	7.7			#		
平成18年	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L-16, K-17 J-16-17	261	92	ビツト、溝、河川	弥生土器、土師器 石器	予備		
	農学部附属富山畜病院改修Ⅰ期	S-20	262	36	包含層・谷	土師器・須恵器 製塩土器	予備		
	農学部附属富山畜病院改修Ⅰ期	S-20	263	225	独立柱建物跡、溝、土壌	土師器、須恵器 緑釉陶器、木製品(柱)	本		
	農学部附属富山畜病院改修Ⅰ期	S-20	264	19	包含層		立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L-16	265	84	ビツト、河川、杭列	縄文土器、弥生土器 土師器	立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	J・K・L-16 I・J・K・L-17	266	480	ビツト、河川、溝	弥生土器、土師器 打製石斧、柱材	本		
	資料館(東亜経済研究所)新築	L・20-21	267	100	土壌、落ち込み、河川		予備		
	プレハブ倉庫移設	I-16	268	29			立会		
	第一学生食堂改修	J-20	269	75			#		
	図書館前広場環境整備	L-17-18	270	55			#		
平成19年	プレハブ校舎新設	F-14-15, G-15	271	400			#		
	人文学部外灯用電源取設	M-20	272	6			#		
	テニスコートフェンス改修	B・C-17, C-18	273	10	河川、包含層		#		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期	T-20	274	48	土壌、ビツト	土師器・須恵器 瓦質土器	本		
	駐車場整備工事	J-21	275	10			立会		
	資料館(東亜経済研究所)新築	L・20-21	276	550			#		
	第一事務局庁舎改修	L-15	277	5			#		
	吉田寮配水管取設	M-11	278	11			#		
	農学部附属農場内電源取設	Q-15, S-18	279	0.5	ビツト	須恵器	#		
	経済学部研究棟改修工事	L-M-19	280	26	河川、落ち込み		予備		
平成20年	新教育研究棟新築	M・N-11・12	281	473	谷、ビツト、溝	弥生土器、土師器 須恵器、瓦質土器 青磁	#		
	新教育研究棟設備関連工事	L-12~14 M-12-13	282	313	ビツト、溝、土壌	土師器、須恵器 緑釉陶器、白磁、青磁 因楽陶器、砥石	本		
	新教育研究棟新築	M・N-11・12	283	1,333	独立柱建物、ビツト 溝、土壌、井戸、谷	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、青磁 緑釉陶器、瓦質土器 木製品	#		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	T-19 S-20	284	250	独立柱建物、ビツト 溝、谷	弥生土器、土師器 須恵器、製塩土器 青磁、瓦質土器 木製品	#		
	国際交流会館B棟改修工事	N・O-22 N-23	285	457	河川		立会		
	サッカーグラウンド防球ネット取設	H-21-22 1-21	286	8.5	河川、ビツト		#		
	正門改修等工事	L-13 M-12+13	287	174	ビツト、溝、落ち込み	土師器、須恵器 瓦質土器、陶器、磁器	#		
	教育実践センター廊下フェンス取設	K-19	288	2	土壌	縄文土器	#		
平成21年	東アジア研究棟・経済学研究科新築	K-21	289	117	溝、河川	弥生土器、土師器 須恵器、木製品	予備		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成21年	野球場防球ネット取設置	H-23 T-24	K-24	290	40	ビツト、溝、包含層	弥生土器、瓦石	予備	年報7
	教育学部研究実験棟A棟改修	H-17-18 I-K-24		291	35.3			#	
	里山整備工事	Q-10 O-P-Q-11		292	36.9			#	
	新教育研究棟新築	U-17 M-17-17		293	340.5			立会	
	ビオトープ周辺雨水配水管取設	H-12		294	60			#	
	仮設高圧引込工事	L-M-10-11		295	7			#	
	ため池整備工事	S-8		296	130			#	
	基幹整備(給水管改修)	J-14・15		297	156	包含層		#	
	事務局外灯設置	J-14		298	1			#	
	第1事務局庁舎車駐車庫カーポート設置	L-14		299	1.2	ビツト		#	
	基幹・環境整備(第1体育館周辺排水整備)	H-13		300	300			#	
	男子学生食堂側丘陵及寄覆田	N-8 O-S-9		301	700			#	
	人文学部外灯設置	N-21		302	10			#	
	人文学部西側アプローチ改修	M-20		303	750			#	
	教育学部研究実験棟A棟改修電気設備	K-18		304	40	包含層、河川		#	
	理学部ソーラー外灯設置	O-20		305	0.3			#	
	農学部インターロッキング設置	P-17		306	9			#	
	農学部附属動物医療センター改修建築	S-19-20		307	154	包含層、埋没谷	土師器、須恵器	#	
	農学部附属農場水田暗渠排水	Q-15-16 R-15 S-15 T-15 U-15 V-15		308	96	包含層、河川	土師器、須恵器	#	
	農学部植物工場新築	P-15		309	98	包含層	土師器、須恵器	#	
	男子学生寮新築	M-10-11		310	1350			#	
ゾウビエ場排水整備	E-20 F-21		311	58.6			#		
アークチャーム整備工事	N-7-8 O-7-8		312	750			#		
テニスコート改修	C-17 D-16・17		313	18.3			#		
共通教育講義棟改修	L-17		314	11.6			#		
石彫実習場整備その他	N-O-P-8 Q-9		315	29			#		
平成22年	教育学部研究実験棟B棟改修工事	H-1・J-18		316	80	落ち込み、溝	弥生土器	予備 立会	年報8
	音楽サークル棟新築工事	G-14		317	13.5			予備	
	教育学部研究実験棟C棟改修工事	G-18		318	22			立会	
	古田倉改修工事	L-M-9		319	1,820			#	
	基幹整備(給水管改修)工事	Q-18		320	13.6	河川		#	
	基幹整備(15区市留田排水整備)工事	G-13		321	8			#	
	事務局2号館車寄せ取設工事	L-14		322	3.6	土壌		#	
	里山遊歩道平摺り取設工事	N-O-14		323	15.2			#	
	人文学部紅輪場外灯設置工事	M-22		324	13.6			#	
	教育学部附属特別支援学校 構内雨水排水補修工事	C-D-21		325	18	包含層、河川		#	
農学部附属農場東側開渠清瀬工事	R-S-19		326	10	ビツト、溝、土壌		#		
平成23年	特高受電設備機庫新築工事	P-Q-16 R-S-T・L-V-17		327	380	ビツト、枕列、河川	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石鏡	本 立会	年報9
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	G-13-14		328	72			立会	
	埋蔵文化財資料館スロープ取設工事	N-16		329	48			#	
	第2学生食堂西側 テーブル・ベンチ取設工事	M-15		330	8			#	
	農学部植物工場新設工事	P-15		331	224	ビツト		#	
	農学部連合獣医学科棟機庫庫 撤去・新設工事	O-17		332	75			#	
	教育学部附属特別支援学校 散水栓増設工事	C-D-21		333	16.8			#	
平成24年	図書館改修工事及び環境整備 (図書館周辺道路迂回)工事	M-16		334	172	河川、枕列	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 緑釉陶器、製塩土器 石器、木器、時帯丸剣	本	年報10
	産業動物実験施設新築工事	S-T-10		335	45			予備	
	植野倉新築工事	O-21-22 P-22		336	48	溝	須恵器	予備	
	第1学生食堂増築工事	I-19-20 J-20		337	66.1	河川、ビツト	弥生土器、土師器	予備	
	陸上競技場トラック排水溝改修工事	D-17~19 E-17~19 F-16~19 G-16~18		338	495	河川、溝		立会	
	人文・理学部管理棟EV設置工事	M-20		339	42.75			#	
農本館事務室等改修機械設備工事	R-S-13		340	27			#		
図書館改修その他工事 (産業動物プール設置)	K-10		341	25			#		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成24年	国際交流会館1号館引込給水管改修工事	M・N-22	342	15			立会		年報10
平成25年	獣医学国際教育研究センター棟新築工事	P・Q-17	343	608	縄文時代河川	縄文土器	本		年報11
	第1武道場前覆改修その他工事	P・G-16 G-17	344	692	弥生古墳時代河川溝、土壌	弥生土器、土師器、右衛門製網代編み製品	#		
	第1武道場前覆改修その他工事	H-15	345	1			立会		
	農薬本館研究・実験室改修工事	S-13	346	4			#		
	農学部本館他電気接地改修工事	S-13	347	1			#		
	榎野寮新築工事	O-20-21	348	35	落ち込み、ピット、河川		#		
	陸上競技場外灯設置工事	F-19-20 F-19 G-H-18	349	56			#		
	自転車置き場設置工事	G-H-15	350	90			#		
	基幹・環境整備(太陽光発電設備)工事	L・M-15 L-19	351	20			#		
	交通標識設置工事	J-15 K-11 L-13 M-11-12 O-18	352	6	包含層		#		
学術情報資産の集約管理システム設置工事	K-14	353	22.8			#			
平成26年	動物医療センター(ニフアク室等)新築その他工事	R-19 S-19-20	354	241	埋没谷溝 土壌 ピット	須恵器、土師器、鉄器製塩土器、墨書土器、木製品	本		年報12
	榎野寮1号棟改修工事	O-20-21 P-20-21	355	801	落ち込み ピット 河川	須恵器、土師器	立会		
	動物医療センター改修電気設備工事	S-19	356	9			#		
	農学部附属農場水田排水路工事	U・V-17	357	50			#		
	経済学部D棟改修電気設備工事	K-19	358	4			#		
	第1学生食堂増築工事	J-19-20 J-20	359	341	河川	弥生土器	#		
	第1学生食堂増築電気設備工事	J-19	360	16			#		
南門アプローチ整備工事	H-1-21-22	361	66.5	河川	弥生土器、土師器	#			
平成27年	総合研究棟(国際総合科学部)改修工事	H-18-19	362	56.5	土壌、ピット、溝	弥生土器	本	工事位置変更	年報13
	動物医療センター(ニフアク室等)新築その他工事(設備関連)	R・S-19	363	44.5	埋没谷	須恵器、土師器	立会		
	動物医療センター(ニフアク室等)新築その他工事(プレハブ撤去)	S-19-20	364	50	埋没谷	須恵器、土師器製塩土器、輪引口木製品(音義木簡)	#		
	動物医療センター(ニフアク室等)新築その他工事(外灯設置)	S-20	365	2	遺物包含層	須恵器	#		
	動物医療センター外灯設置工事	S-20	366	22	土壌、埋没谷	須恵器、土師器	#		
	共同獣医学部解剖実習棟前動物体捨却印設置工事	R-19-20 S-20	367	10.75	遺物包含層		#		
	共同獣医学部特設場設置工事	R・S-20	368	25	遺物包含層		#		
	共同獣医学部カーポート設置工事	N-17	369	3			#		
	農学部附属農場水田排水路工事	T・U-15-17	370	100	溝		#		
	理学部輪軸車庫新設工事	N-20	371	16			#		
	図書館周辺雨水排水整備工事	N-16	372	35			#		
	総合研究棟横小路バリア設置工事	Q-18-19	373	0.29			#		
	総合研究棟北側喫煙所新設工事	Q-17-18	374	4.5			#		
陸上競技場横道歩道標識設置工事	E-20 H-18	375	2			#			
正門南側木植樹工事	I-12	376	5			#			
事務局前樹木移設工事	K-15 I-16	377	14.5			#			

白石構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳型穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報Ⅲ
	教育学部附属山口小学校 排水栓改修		2	1			立会		
昭和60年	教育学部附属山口中学校 球技コート整備		3	2			#		年報Ⅴ
	教育学部附属幼稚園 環境整備(樹木植樹)		4	1			#		
昭和61年	教育学部山口附属学校 幼稚園・小学校部分		5	57	中世土壇カ	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器	試掘		年報Ⅵ
	汚水排水管布設	中学校部分		20	河川跡カ・柱列	陶磁器、不明鉄製品、石皿、剥片、植物遺体			
昭和61年	教育学部附属山口小学校 電柱移設		6				立会		年報Ⅶ
昭和62年	教育学部附属幼稚園 遊戯室拡張		7	40			#		年報Ⅷ
昭和63年	教育学部附属山口中学校 屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剥片	#		年報Ⅸ
平成元年	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳型穴住居、河川跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質陶器、黒色土器、磁器、二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、石核、砥石	事前		年報Ⅸ
	教育学部附属幼稚園 バスレーンコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、附刃、剥片、石核			
平成2年	教育学部附属山口中学校 汚水排水管布設		12	70	溝状遺構	縄文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石皿、砥石、扁平打製石斧、砥石、剥片	事前		年報Ⅹ
			13	130		弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、因産陶磁器、扁平打製石斧、砥石	立会		
平成6年	教育学部附属山口小学校 プール新築給水管理施設		14	3			#		年報ⅪⅣ
	教育学部附属山口中学校 プール新築給水管理施設		15	7			#		
平成7年	教育学部附属山口中学校 自転車駐車場新設		16				#		
平成10年	教育学部附属山口小学校 給食室改修		17				試掘		
平成12年	教育学部附属山口中学校 防球ネット新設		18				立会		年報ⅪⅤ
平成14年	教育学部附属山口中学校 給水設備改修		19				#		
平成14年	教育学部附属幼稚園 運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	#		
平成15年	教育学部附属山口幼稚園並新設 山口小学校スロープ新設		21	27.7			立会		年報Ⅰ
平成16年	白石地区市道歩道改修		22	1	河川		立会		
	教育学部附属山口小学校事務室新築		23	101	河川、土壇または溝		#		年報Ⅱ
	教育学部附属幼稚園・小学校 フェンス・通門改修		24	11			#		
平成17年	教育学部附属山口幼稚園・小学校 給水管改修		25	10			立会		年報Ⅲ
平成19年	教育学部附属山口中学校校舎等改修		26	121	河川、落ち込み、ピット	縄文土器、弥生土器	手掘		年報Ⅴ
	教育学部附属山口中学校校舎等改修		27	38	河川、包含層		立会		
平成21年	教育学部附属山口小学校共用棟・教室B棟間渡り廊下屋根取設		28	2.5					年報Ⅶ

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査 区分	備考	文献
平成 21年	教育学部附属幼稚園園内中庭池 改修整備			29	50	落ち込み		立会	年報 7
	教育学部附属山口中学校中庭取付			30	1.5			#	
平成 22年	教育学部附属山口小学校 渡り廊下設置			31	12			立会	年報 8
	教育学部附属学校園案内板設置工事			32	1			立会	年報 9
平成 23年	教育学部附属幼稚園 渡り廊下屋根拡張工事			33	11.5			#	
	教育学部附属幼稚園遊具設置工事			34	0.35			立会	
平成 24年	教育学部附属幼稚園 園舎テラス取設工事			35	7.9			#	
	教育学部附属山口中学校 看板表示設置工事			36	0.6			#	年報 10
	教育学部附属山口中学校テニスコート 防球ネット嵩上げ工事			37	4.8			#	
	教育学部附属山口中学校武道場新築 植物移植工事			38	3			#	
	教育学部附属山口中学校 武道場新築工事			39	235.8		弥生土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 木製品	予備	年報 11
平成 25年	教育学部附属山口中学校武道場新築 工事に伴う外護及び渡り廊下取設工事			40	77.6		縄文土器、弥生土器、 土師器	立会	
	教育学部附属山口中学校 グラウンド防球ネット新設工事			41	1.3			立会	年報 13
平成 27年	教育学部附属山口小学校ガス管 交換工事			42	8			#	

小串構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査備考	文献
昭和58年	医学部体育館新営		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘	年報Ⅲ
	医学部図書館増築		2	4			立会	
	医学部体育館新営		3	1			立会	
昭和59年	医学部浄化槽新営		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前	年報Ⅳ
	医学部体育館新営		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	#	
	医学部基幹整備(特高受変電設備)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘	
	医学部臨床講義棟病理解剖棟新営		7	38			#	
昭和60年	医学部附属病院外来診療棟新営		8	390		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	#	年報Ⅴ
	医学部基礎研究棟新営		9	10		近世陶器	#	
	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会	
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			#	
昭和61年	医学部附属病院外来診療棟新営		12	40			#	年報Ⅵ
	医学部附属病院外来診療棟新営		13	5			#	
	医学部附属病院外来診療棟周辺環境整備等(出水処理設)		14	18			#	
昭和62年	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			#	年報Ⅶ
	医学部附属病院病棟新営		16	104		削器、ナイフ形石器、細石刃核	試掘	
昭和63年	医学部附属病院病棟新営		17	300		二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、礫石、磯、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	立会	年報Ⅷ
	医学部附属病院運動場整備		18	220			#	
平成元年	医学部附属病院MRI棟新営		19	45		削器、細石刃、二次加工のある剥片、剥片、石核	試掘	年報Ⅸ
平成2年	医学部臨床実験施設新営電気工事		21	0.5			立会	年報ⅩⅠ
平成4年	焼却地盤調査		22				#	年報ⅩⅡ
平成5年	医学部臨床実験施設新営その他(焼却棟新営)		23	9			#	年報ⅩⅢ
平成6年	医学部附属病院MRI-CT装置棟新営		24	6			#	年報ⅩⅣ
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新営		25	300			#	年報ⅩⅤ
平成8年	医学部附属病院診療技術短期大学部屋外排水管布設		26	40			試掘	年報ⅩⅥ
平成9年	医学部聖霊碑・納骨堂新営		27	6			立会	年報ⅩⅦ
	基幹環境整備(看護婦宿舎浄化槽撤去)		28	15.2			試掘	
	医学部別棟移設		29	4			立会	
平成10年	医学部別棟移設		30	10			#	年報ⅩⅧ
	宇部市土地地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		31	134	包含層、近世～近代用水路	剥片、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	
	宇部市土地地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路)		32	379	包含層、近世～近代溝	剥片、縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	#	
平成11年	宇部市土地地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		33	792	近世～近代用水路、土坑	陶器、磁器、鉄製品	#	宇部市教育委員会と共同調査
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新営		34	229	包含層	縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器、鉄釘	試掘	年報ⅩⅨ
平成14年	医学部附属病院高エネルギー棟新営		35	13.25			#	年報ⅩⅩ
	総合研究棟新営		36	382	包含層	縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	#	
平成15年	基幹環境整備(煙突)新営		37	76			試掘	年報ⅩⅩⅠ

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成16年	医学部基幹環境整備 (地下オイルタンク他)		38	144		縄文土器、土師器、 陶器、磁器、石種	鉄器		年報 2
	医学部職員宿舎他公共下水接続		39	400		弥生土器、土師器、 瓦質土器、陶器、磁器	#		
	医学部総合研究棟北側 連絡用渡り廊下取設		40	40.6			立会		
平成17年	医学部附属病院基幹環境整備 (冷熱源設備他改修)		41	37			#		年報 3
	医学部南側通用門取設		42	30			#		
平成18年	モニュメント設置		43	6.2			#		年報 4
平成19年	医学部総合研究棟改修Ⅰ期		44	6.75			予備		年報 5
平成20年	医学部総合研究棟改修Ⅱ期		45	9			#		年報 6
平成21年	小串宿舎B棟埋設ガス管改修		46	58			立会		年報 7
平成22年	医学部附属病院患者用 ・職員用立体駐車場建設		47	125		埴管、陶器、磁器、 瓦質土器、土師器	予備 立会		年報 8
	地域医療教育研修センター新営		48	156	畦畔、溝	磁器、陶器、泥人形、 土人形、埴管、土鐘、 土師器、須恵器、 弥生土器、縄文土器	予備		
平成23年	地域医療教育研修センター新営工事		49	4			立会		年報 9
平成26年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新営工事		50	90		縄文土器、土師器、 石種	予備		年報 12
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新営工事		51	30			立会		
	廃棄物管理棟新営工事		52	149			#		
平成27年	保育所新営その他工事		53	50		陶器	予備		年報 13

常盤構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	工学部校舎新築		1	70		遺患跡	試掘		年報Ⅷ
	工学部図書館増築		2	70			〃		
昭和59年	工学部尾山宿舎排水管布設			30			立会		年報Ⅳ
昭和60年	工学部尾山宿舎擁壁取設等			65			〃		年報Ⅴ
	工学部受水構改修		3	1.5			〃		
	工学部尾山宿舎排水管改修			6			〃		
昭和61年	工学部身体障害者用スロープ取設		4	29			〃		年報Ⅵ
	情報処理センター(常盤センター)空調設備取設		5	30			〃		
昭和63年	工学部焼却炉上屋新築		6	225			〃		年報Ⅷ
平成元年	工学部夜間照明装置及び防球ネット設置		7	2			〃		年報Ⅸ
	工学部記念緑地		8	2.5			〃		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			〃		年報Ⅹ
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			〃		年報ⅩⅠ
平成4年	工学部プレハブ研究・実験棟新築		11	6			試掘		年報ⅩⅡ
	工学部・工業短期大学の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新築		12	40			〃		
	工学部および工業短期大学部職員宿舎取壊		13	9			立会		
	大学祭展示物設置		14	7			〃		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新築		15	12			試掘		年報ⅩⅢ
	工学部地域共同研究開発センター新築		16	16			〃		
平成7年	工学部国際交流会館新築		17	8		石礎	〃		
平成8年	工学部国際交流会館新築		18	352	段状遺構	ナイフ形石礎、剥片	事前		年報ⅩⅣ
平成12年	工学部福利厚生棟新築		19	38.5			試掘		年報ⅩⅤ
平成13年	工学部インキュベーションセンター新築		20	60		土師質土器、瓦	〃		年報ⅩⅥ
平成14年	総合研究棟新築		21	13.5			〃		
平成15年	工学部本館改修		22	428			立会		年報Ⅰ
平成16年	工学部定重速度応力腐食割れ実験室新築		23	20			試掘		年報Ⅱ
	工学部光半導体素子実験室新築		24	52.5			〃		
	工学部消水貯留工事		25	9			立会		
平成17年	工学部職員宿舎揚水施設改修		26	65			〃		年報Ⅲ
	工学部会議棟身障者スロープ取設		27	38			〃		
平成18年	総合研究棟改修工事(Ⅱ期・本館北)		28	280			確認		年報Ⅳ
平成19年	工学部総合研究棟改修(Ⅲ期・本館)		29	147			〃		年報Ⅴ
平成20年	工学部女子学生寄宿舎新築その他		30	24			予備		年報Ⅵ
平成21年	工学部ガス管改修		31	12.5			確認		年報Ⅶ
平成26年	常盤寮C棟新築工事		32	103			立会		年報Ⅷ

光構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属風光小学校 自転車庫増設設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報Ⅲ
昭和59年	教育学部附属風光小・中学校 地球伊新宮		2				立会		年報Ⅳ
昭和60年	教育学部附属風光中学校 外灯改修		3	1		土師器	#		年報Ⅴ
昭和61年	教育学部附属風光小学校創立 記念事業(フロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	#		年報Ⅵ
昭和62年	教育学部附属風光中学校 グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、 瓦質土器、瓦	#	御手洗湾採集	年報Ⅶ
昭和63年	教育学部附属風光小学校 遊器具移設		6	10		土師器、土師質土器、 陶磁器	#		年報Ⅷ
	教育学部附属風光小学校 屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、 須恵器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、 土雑	#	御手洗湾採集	
平成2年	教育学部附属風光小学校 運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 施釉陶器、磁器、 土雑、剣片、鉾浮	試掘	御手洗湾採集 遺物含む	年報Ⅹ
	教育学部附属風光小学校 運動場改修		9	23	土壇	土師器、須恵器、 須恵器模倣土師器	事前		
平成3年	教育学部附属風光中学校 武道館新宮		10	38	土壇、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報Ⅺ
	教育学部附属風光小学校 屋外施設設置		11	18		土師器、石雑	立会		年報Ⅺ
	教育学部附属風光中学校 バウンディングネット新設		12	0.5		土師器	#		
平成4年	教育学部附属風光中学校 武道館新宮		13	500	土壇、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		年報ⅪⅡ
	教育学部附属風光中学校 武道館増設遊具		14				立会		
平成5年	教育学部附属風光中学校 武道館新宮その他		15	6			#		年報ⅪⅢ
平成6年	教育医学部附属風光小・中学校 プール新宮給排水管理設		16	19			#		年報ⅪⅣ
平成8年	教育学部附属風光小・中学校 園障(外周フェンス・防球ネット)取設		17	7		陶磁器	#		年報ⅪⅤ
平成10年	教育学部附属風光小学校 給食堂改修		18	6			#		年報ⅪⅥ
平成11年	教育学部附属風光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世～近代土壇	土師器、須恵器、 韓式系土器、 甕形土器、陶器、磁器	試掘 立会		
平成12年	教育学部附属風光小・中学校 護岸石積改修		20	173	石垣	陶磁器	立会		年報ⅪⅩ
平成12年	教育学部附属風光小・中学校 上水道(給水管)改修		21	23			#		
平成15年	教育学部附属風光小学校エレベータ 昇降路等新設		22	169	ピット、土壇、溝	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器	試掘 立会		年報Ⅰ
平成17年	教育学部附属風光小学校 体育器具新置		23	53		土師器、須恵器 磁器陶	予備		年報Ⅲ
平成21年	教育学部附属風光小・中学校護岸改修 教育学部附属風光中学校校舎改修 に伴うプレハブ建設		24	40	石垣	陶磁器	立会		年報Ⅶ
平成22年	教育学部附属風光中学校 防球ネット設備		25	107	ピット、土壇	須恵器	本		年報Ⅷ
平成23年	教育学部附属風光中学校 下水道総括工事		26	225			立会		年報Ⅷ
平成23年	教育学部附属風光小学校 遊具設置工事		27	1			立会		年報Ⅷ
平成24年	教育学部附属風光小学校下水 接続工事		28	19.4		土師器、須恵器、陶磁器	予備		年報Ⅸ
	教育学部附属風光小学校下水 接続工事		29	20			立会		
平成24年	教育学部附属風光小学校下水 接続工事		30	125.4	ピット、土壇、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塩土器	本		年報Ⅹ
	教育学部附属風光小学校下水 接続工事		31	889	ピット、土壇、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塩土器	立会		
平成25年	教育学部附属風光小学校校舎校舎 設置工事		32	57	土壇	土師器	立会		年報Ⅹ
平成25年	教育学部附属風光小学校校舎改修その他工事 教育学部附属風光小学校校舎改修その他機械 設備工事		33	412	落ち込み、包含層	土師器、須恵器	立会		年報Ⅺ
	教育学部附属風光小学校校舎改修その他電気 設備工事								

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成26年	教育学部附属光小学校グラウンド 鉄柵新設工事			34	23	ビント	縄文土器、須恵器 土師器、瓦器	立会	年報 12
	教育学部附属光中学校校舎排水管 改修工事			35	3			緊急	

その他構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和59年	学生部ポート駐車場 合宿研修所整備	宇部市大字小野 宇土井		0.5			立会		年報 IV
	学生部コート駐車場 合宿研修所整備	吉敷郡秋徳町 東字中道					#		
昭和60年	熊野荘給湯機器取設	山口市熊野町3-21		7			#		年報 V
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29		35	杭		#		年報 VI
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市旭通9 2丁目3-32		1		土師質土器	#	6号宿舎	
昭和63年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市 水の上町6-9		7		瓦	#	2号宿舎	年報 VII
		山口市白石 二丁目8-7		1		須恵器、土師器、 土師質土器、 瓦質土器、陶磁器	#	7号宿舎採集	
平成元年	本部職員宿舎 公共下水道切替	山口市水の上町 6-1		1			#	1号宿舎	年報 IX
平成2年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市石籠音町 1-25		1.2		陶磁器	#	7号宿舎	年報 X
平成3年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市香山町 3-1		0.5			#	3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水 その他改修	山口市湯田温泉 6丁目		30			#		年報 X1
	経済学部6号職員宿舎 電柱設置	山口市旭通9 2丁目3-32		0.5			#		
平成4年	上野小路共同下水道布設	山口市天花 932-2		1			#		年報 XI
		山口市上野小路 宇久保7-4		7			#		
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29		44			#		年報 XIV
平成15年	ポート部合宿所給排水整備	宇部市大字小野 宇土井		80			確認		年報 1
平成16年	湯田宿舎B棟自転車置場新設	山口市湯田温泉 6丁目8-29		11			確認		年報 2
平成17年	経済学部職員宿舎2号フェンス取替 工学部職員宿舎(尾山) 湯水施設改修	山口市水の上町6-9 1-33-34		1 15			確認 確認		年報 3
平成21年	秋徳団地(ヨット艇庫)浄化槽改修	山口市秋徳東706-2		4.5			#		年報 7

※文献① 山口大学吉田遺跡調査団「吉田遺跡発掘調査概報」(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

山口大学構内の主な調査

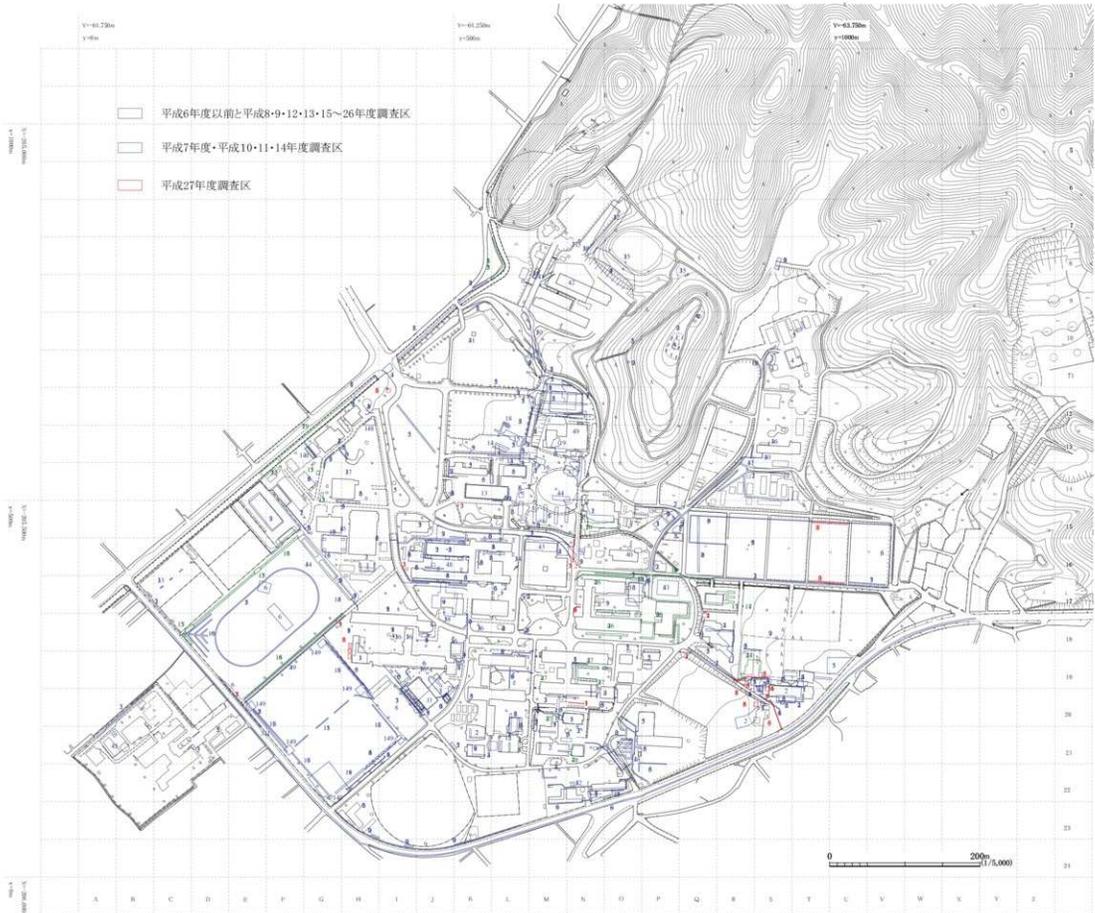


図61 山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

山口大学構内の主な調査

- 平成27年度調査区
- 平成6年度以前・平成15～17年度・平成21～24年度調査区
- 平成10年度・平成14年度調査区

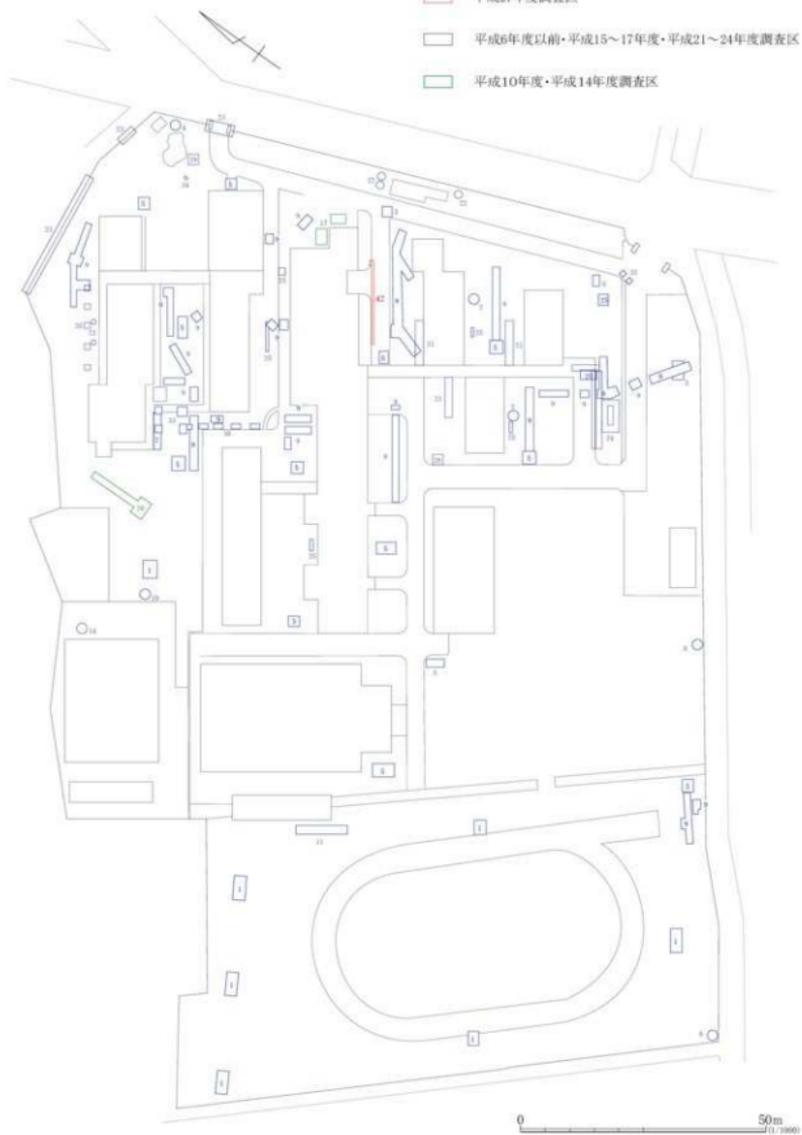


図 62 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

山口大学構内の主な調査

- 平成27年度調査区
- 平成6年度以前の調査区・平成12・19・21・24・25年度調査区
- 平成7年度・14年度調査区

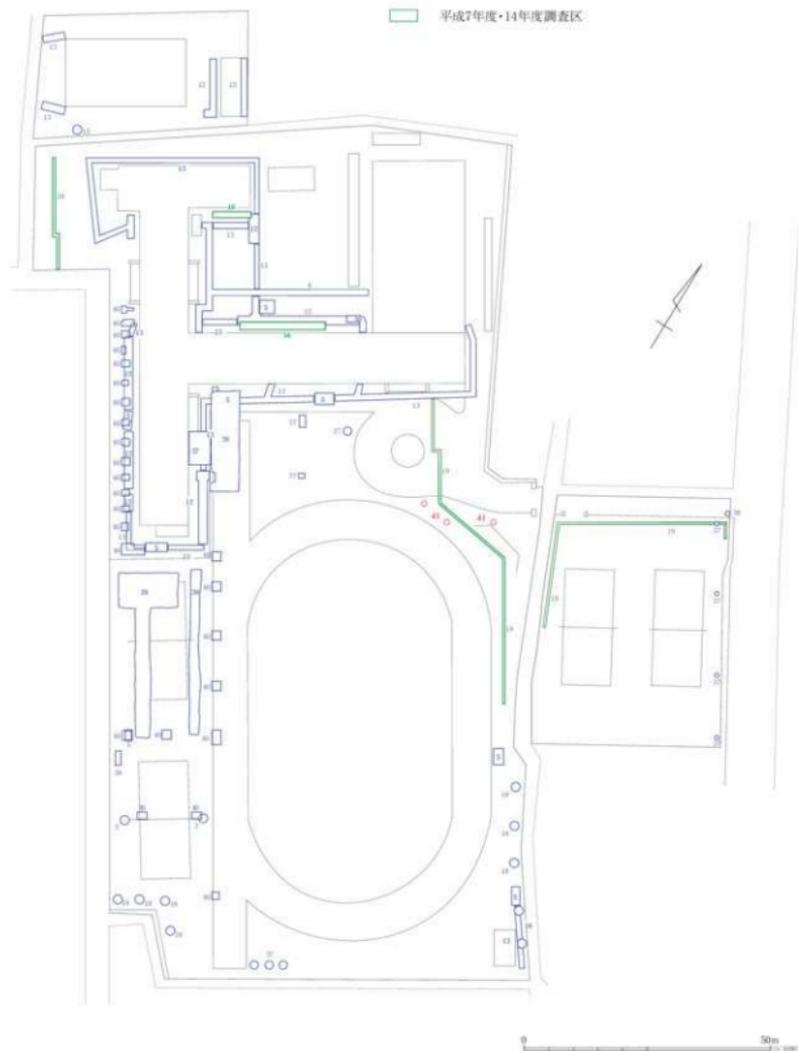


図63 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図

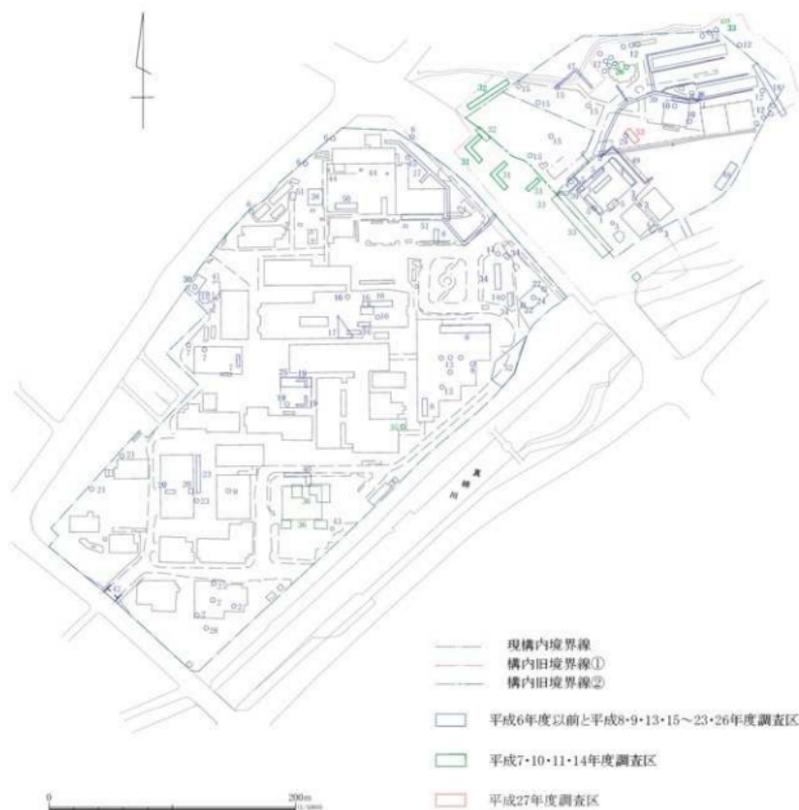


图64 山口大学小串構内調査区位置图

山口大学構内の主な調査

- 構内旧境界線
- 構内境界線
- 平成6年度以前と平成8・9・12・13・15～21・26年度調査区
- 平成7年度・平成14年度調査区

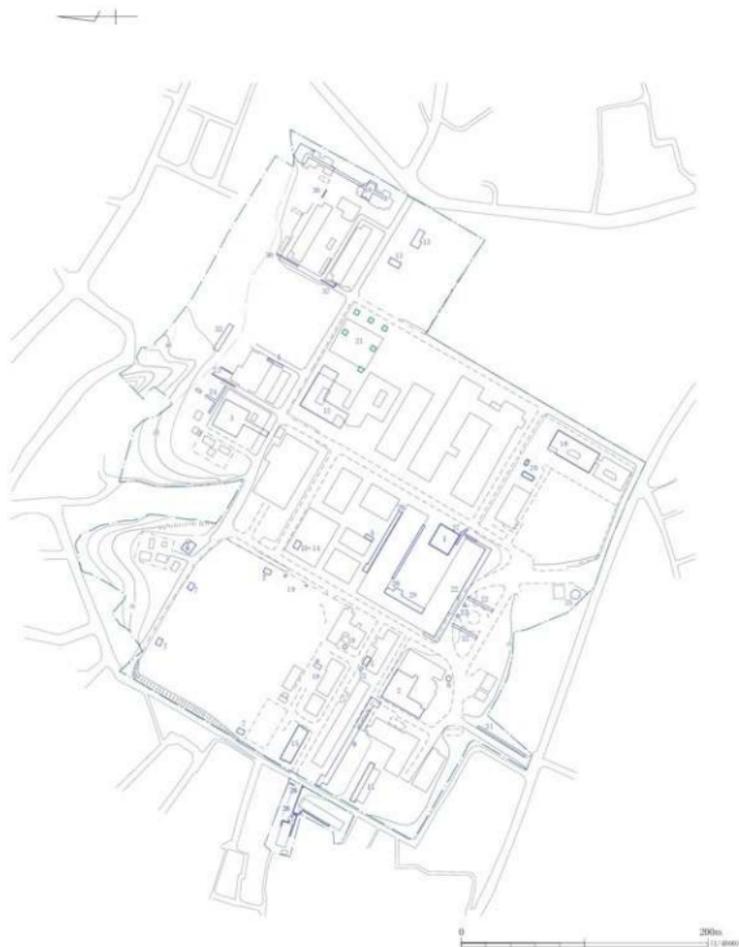


図65 山口大学常盤構内調査区位置図

山口大学構内の主な調査

- 構内境界線
- 平成8年度以前と平成12・15・17・21・25・26年度調査区
- 平成10・11年度調査区



図 66 山口大学光構内調査区位置図

付篇

館蔵品調査報告
—古墳時代から平安時代の遺物—

横山 成己

1. はじめに

筆者は山口大学埋蔵文化財資料館に着任以降、山口県内遺跡出土の所蔵未公開資料の学術公開を継続的に実施しているが、大きな障害となるのが資料情報の欠落であった。平成26年度には、そのために死蔵状態が続いている資料を対象に、観覧者に情報提供を求めることを目的とした企画展を開催した。展示の開催に当たり、できる限り資料調査を行い、わずかではあるが展示期間中の情報提供もあった。本稿にてその調査報告を行いたい。

2. 資料報告

[花岡古墳群] (図67、写真114のHO1～5)

花岡古墳群出土と目される資料群に関しては、『山口考古』第34号(横山2014)に詳細を記している。これらの資料が出土・採取されたとされる下松市花岡八幡宮裏山は、末武平野北部にて熊毛丘陵から細く南に派生する標高約70mの支脈である。その南端部に八幡宮楼門や多宝塔、本殿が立地し、境内の北方背後は昨今草木で覆われているが、かつては花岡公園の名称で整備されていたそうである。現在支脈の南半部は「花岡古墳群」の名で埋蔵文化財包蔵地に指定されている。2ないし3基存在したと思われる円墳は、いずれも半壊・全壊状態にある。

資料の由来に関しては、資料の注記HO1「花岡八幡宮々司 村上文建氏 寄贈 一九五〇・七・二九」や遺物カードHO3「桜ヶ岡口(高か) 花岡八幡 小川宣氏」、HO4「遺物名 弥生式土器片 発見地 下松市花岡町花岡八幡宮 発見者～発掘者 小川 藤本 山本 棟近 発見～発掘年月日 昭和25年7月29日」の情報から、昭和25年(1950)7月29日に当時山口大学教育学部生であった小川宣氏をはじめ藤本氏・山本氏・棟近氏により遺跡地調査が実施されHO4が採集され、同日花岡八幡宮司からHO1が寄贈、昭和28年(1953)以降に小川氏により再び遺跡地にてHO2・5が採集され、山口大学に寄贈されたと推測される。

HO1はほぼ完形の須恵器提瓶であり、口縁と把手を部分的に欠失する。全長は25.0cm、体部径は20.5cm、体部厚は14.9cmを測り、口径は7.0cmに復元される。頸部は直立しており、口縁内端を肥厚させている。腹面にはカキ目が施されており、背面は回転ヘラ削りが施される。双耳は角状を呈しているが、形骸化が進行している。HO2も須恵器提瓶。口縁から体部半ばまでの破片で、体部背面を欠失する。焼成不良で内面は灰褐色を呈する。1と同様腹面にカキ目を施す。頸部は大きく外反しており、口縁外端をわずかに肥厚させている。口径は9.9cmに復元される。肩部に双耳が折損した痕跡が残っている。HO3は須恵器灯蓋。天井部1/4程度が残る破片で、口縁端部を欠失している。径は天井口縁境界部の稜および回転ヘラ削り痕から復元した。口径は13cm弱、器高は3cm程度と推定される。回転ヘラ削りは天井部上位にのみ施される。HO4は須恵器坏身口縁部片。小片のため口径復元不能。受け部から内傾して直線的に伸びる口縁を有しており、内端の段は消滅している。残存部の内外面とも回転ナデ調整。HO5は錆化が著しく、原面の確認がほぼ不能な状態にある鉄器であるが、有茎平根系の方頭式鉄鏃と推定される。現長5.5cm、最大幅3.35cmを測り、現重量は26.02gを量る。その他、下松市郷土資料展示収蔵施設「島の学び舎」にも「周防国花岡八幡宮裏山古墳」の注記がある須恵器甕体部片が存在する。

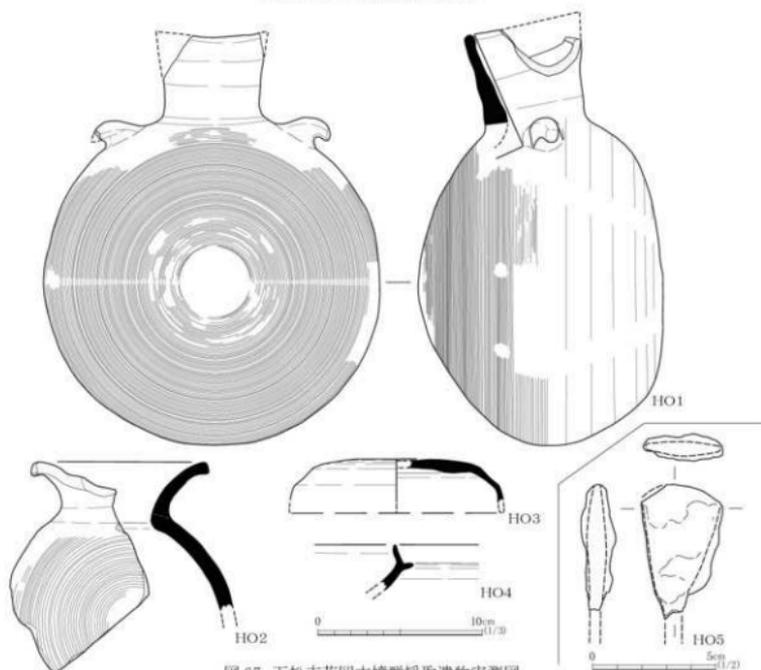


図 67 下松市花岡古墳群採取遺物実測図



写真 114 下松市花岡古墳群採取遺物

【御堀遺跡】(図68～70、写真115～117のMH1～9)

当館遺物収納コンテナNO. 9、収納袋NO. 13に納入されていた資料群である。ビニール大袋内に小袋が納入された状態で保管されており、前者に須恵器片28点と土師器片1点、後者に須恵器片5点と土師器片1点が入っていた。当館遺物収蔵台帳を見ると、大袋に「御堀円墳付近」、小袋に「大内御堀下堀 原始墳墓地区」と書かれていたようであるが、赤色油性マーカーで書かれていたらしく消滅していた。御堀円墳は昭和45年(1970)に緊急発掘調査が実施され、その後発掘により消滅した馬塚古墳(富士塚ほか1971)の可能性のあるものの断定しがたく、小字下堀は宮島町の東に接する地域(現在のユニクロ山口店からスポーツデポ山口店周域)に残る。昭和30年代までに大内御堀にて判明していた墳墓の状況を鑑みると(佐伯1958、1961)、馬塚古墳周域から象頭山山嶺周域(現在の御堀遺跡南西端部から象頭山墳墓群西部)にて採取された可能性が高いように思われる。土器自体に赤色インクで注記されている「御堀 I s」「御堀 2 II」などは、何らかの地区割と推定されるものの、踏査記録が残っていないため詳細は不明である。採取年月日に関しては、遺物の注記に「25.12.1□」と「26.12.18」があり、昭和25年(1950)もしくは昭和26年(1951)の12月に小野忠熙氏または本学学生により採取されたのであろう。

報告資料は全て須恵器である。MH1は壺口縁部片。「く」字状に屈曲する口縁部で、下端に断面半円形の突帯を1条廻らせている。頸部には2条の沈線が遺存しており、上部に櫛描波状文を密に施している。MH2は壺頸部片。小片であるが、基部で径12～13cmになると見られる。ゆるやかに外反する頸部で、上端にわずかに櫛描波状文が残る。MH3は壺体部。腹部復元径は6.4cmと小型であることから、子持壺の一部と見られる。子持壺は当県では狐塚古墳(山口市阿東徳佐)、桜の木古墳(山陽小野田市)、青井1号墳(下関市豊浦)の3例しか知られておらず、貴重な資料と言える。MH4は器台の台底部。外面に斜め方向の平行叩き、内面下位に同心円当て具痕が残る。MH5は器台脚部片と見られる。上端に2条、下端に1条の沈線が残り、間に上下2条の櫛描波状文が下から上の順に施される。長方形ス坎の側面が残っている。MH6は器台脚裾部片。裾端部を欠失しており、断面三角形の突帯が1条廻る。突帯の上部に8本単位の櫛描波状文が廻る。掲載図ではMH1～3を子持壺、MH4～6を器台として報告しているが、同一個体であることを示すわけではない。

MH7は他の資料とは大きく時期が異なり、8世紀前半代の坏蓋である。低いドーム状の天井部から、ゆるやかに内湾して口縁に降下する。口縁端部を垂直に下垂させ、端部は丸く収めている。外面は回転ナデ、内面は口縁部に回転ナデ、天井部に不定方向のナデが施される。復元口径16.6cm、残高3.1cmを測る。MH8は6世紀後半の坏身で、ほぼ完形に復元される。焼き歪みが顕著な個体で、口径10.3～11.8cm、器高3.6～4.4cmを測る。外面の回転ヘラ削りは器高の1/2に施される。MH9は6世紀末～7世紀初頭の坏身で、外面の回転ヘラ削りは底部付近にのみ施される。復元口径9.3cm、器高4.15cmを測る。

大内御堀は、樺野川の支流である仁保川の下流右岸、山口盆地の東に接する大内盆地の北縁部にあたり、西から象頭山墳墓群、横穴式石室を有する馬塚古墳、入野石棺、全長28mの前方後円墳である大内氷上古墳(谷口1986)、山崎古墳、高尾古墳群、妙見社古墳群、調査を経ず消滅した氷上古墳群(現在は金成団地と呼称され、仏供田遺跡に包括される)(森田2001a)が存在し、弥生時代以降活発な造墓活動が見られる地域である。部分的に高尾古墳群採取の須恵器器台の報告(森田2001b)などが知られるものの、未調査の遺跡が多数で詳細不明な点が多い。当資料群は、断片的ではあるが大内御堀西端部に形成された墳墓の時期、性格を示すものとして貴重な資料となる。

【小平尾遺跡】(図71、写真118のKBO1)

当館遺物収納コンテナNO. 11、収納袋NO. 1に単独で収納されていた資料である。須恵器壺の頸

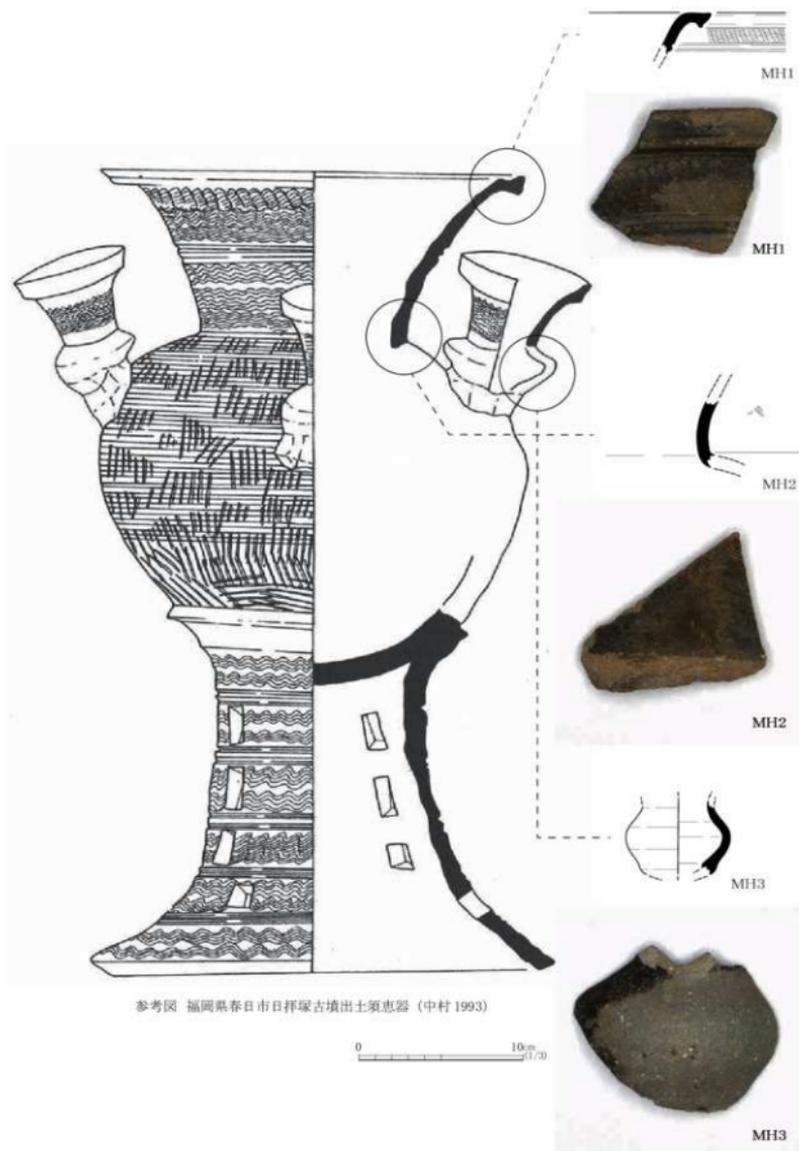
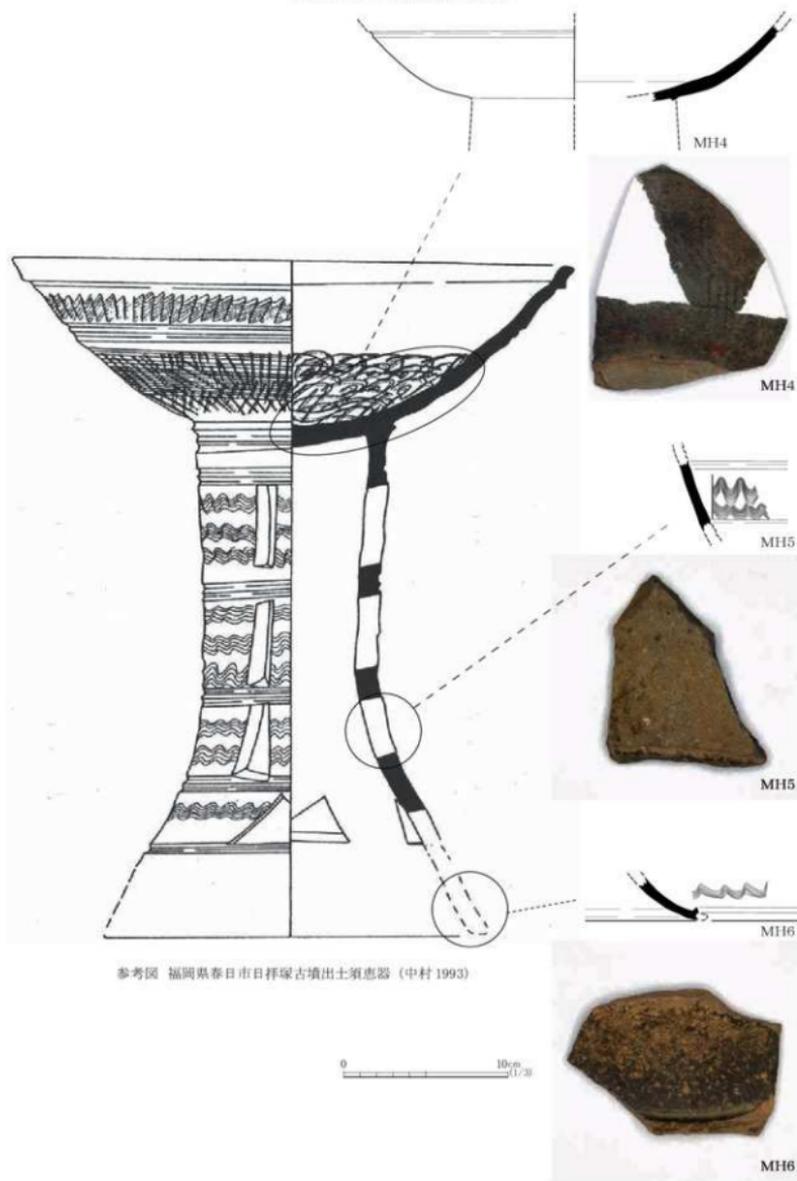


図 68・写真 115 山口市大内御堀採取遺物①



参考図 福岡県春日市日禰塚古墳出土須恵器 (中村 1993)

図 69・写真 116 山口市大内御堀採取遺物②

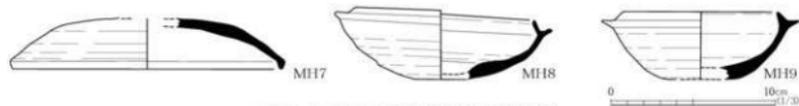


図 70 山口市大内御堀採取遺物実測図③



写真 117 山口市大内御堀群採取遺物③



図 71・写真 118 柳井市小平尾遺跡採取遺物



図 72・写真 119 光市浅江採取遺物

～底部片で、内面には「玖珂郡 余田村 祝部 小平尾 28.4.16」の注記を有する。同封された遺物カードには「遺物名 祝部 発見地 山口縣玖珂郡余田村 発見者～発掘者□(名) 西本清穂 発見～発掘年月日 昭和28年4月16日 出土状況 余田村中央部に位し お宮下に於て発見 当所は以前古墳があったと称される地である。遺物は土中にうもれていたものを発見 所蔵者 山口大学」と記載され、出土状況略図として出土地点の地図が描かれている。以上の情報から、出土地は柳井市余田の「小平尾遺跡(古墳時代遺物散布地)」と称せられる周知の埋蔵文化財館蔵地と見て間違いない。

須恵器壺**KBO1**は器壁の厚い個体で、器面調整は体部外面下位に回転ヘラ削りが施されるほかは回転ナデ調整。腹部復元径12.2cm、残高8.7cmを測る。遺物カードの記載どおり、古墳副葬品の可能性もあるが、遺跡自体の性格が不明瞭なため断定できない。

【光市浅江】(図72、写真199のAE1)

当館遺物収納コンテナNO. 3、収納袋NO. 5に単独で収納されていた資料である。完形の土師器皿で、底部外面に「光市浅江 田中義雄氏寄贈 1953. 3. 7」の注記を有する。同封の遺物カード表面には「発見地 光市□(浅か)江 4057番地附近 発見者～発掘者名 田中伸平 発見～発掘年月日 不明 出土状況 土師器」、裏面には「(1)干□(魃か)により地下水位に昇降あり (2)砂層、□(のか)み? (3)□(盛か)□(土か)している (4)地表面下1丈1尺より出土」の記載が見られる。光市浅江は島田川右岸河口に残る地名であり、番地から現在の光市浅江4丁目付近の地下3.3m地点、当地は埋め立て地であることから、島田川により運ばれた川砂もしくは海生砂から出土したと思われる。

AE1は京都系土師器で、手づくね成形である。口縁を外方に屈曲させ端部を跳ね上げる、いわゆる「て」の字状口縁の皿で、当果では稀少な資料と言える。精緻された胎土や、灰白色(部分的に黄橙色)を呈していることから、搬入品と推定される。口径9.6～9.8cm、器高1.4cmを測る。11世紀代の所産と見られる。

【島田川流域採取遺物】(図73、写真120のSDG1～3)

3点とも須恵器坏蓋で、遺物収納コンテナNO. 93、収納袋NO. 27に収納されていた。SDG1の天井部外面に「島田川中流」、SDG2天井部外面に「周防 和田山 (6)」と注記されている。SDG3に注記は見られない。

本学では、昭和25年(1950)から昭和27年(1952)にかけて、山口県岩国市周東町に源を發し、光市で瀬戸内海に流入する島田川の流域遺跡群を調査するため、当時教育学部光分校に勤務していた小野忠熙氏を中心に「山口大学島田川遺跡学術調査団」が結成され、中流域に分布する弥生時代の遺跡を中心に発掘調査を実施し、それと同時に、上流から下流域の踏査も行い、遺跡の分布状況を確認している(小野ほか1953)。当資料も、この分布調査の際に採取または寄贈されたものと思われる。SDG1の島田川中流は旧三丘村(後の熊毛町、現周南市東部)や旧周防村(後の周南町、現光市)を指すと思われる、SDG2の周防和田山は島田川左岸、旧三丘村と旧周防村の境界にあたる周南市小松原に立地する和田遺跡である可能性が高いが、断定できない。

SDG1は歪みの大きな完形の蓋で、つまみを持たない扁平な天井部から屈曲気味に口縁に降下する。口縁端部はわずかに下垂させ丸く収める。器面調整については、天井部は内外面とも不定方向のナデ、口縁部は内外面とも回転ナデが施されるものの、やや粗雑である。口径13.2cm、器高1.65cmを測る。**SDG2**は口縁の一部を欠失するがほぼ完形の蓋であり、天井部に扁平な擬宝珠状つまみを持つ。器壁の厚い扁平な天井部から屈曲して口縁に降下し、口縁端部をやや外方に下垂させる。口縁内端には焼成時の坏口縁の溶着が見られる。器面調整は天井部外面のみ回転ヘラ削り、他は回転ナデが施され

る。口径12.3cm、つまみ径2.35cm、器高2.05cmを測る。SDG3は輪状つまみを有する蓋で、口縁部を半損している。扁平な天井部は外面がやや凹み、ヘラ切り痕をそのまま残す。天井部から屈曲気味に口縁を降下させ、口縁端部はわずかに下垂させる。口径17.7cm、つまみ径6.1cm、器高1.65cmを測る。SDG1～3はいずれも9世紀代の資料である。

[山口県女子師範学校・山口県立室積高等学校旧蔵遺物] (図74・75、写真121・122のUK1～3)

UK1・2は遺物収納コンテナNO. 93、収納袋NO. 26に収納されていた須恵器蓋坏であり、UK3は遺物収納コンテナNO. 93、収納袋NO. 23に単体で収納されていた須恵器壺である。問題となるのが資料に貼られた注記シールで、UK2底部外面には「山口縣女□(子か)師範□(学か)□ 所属 第一郷□(土か)室 □□ 第七□(二か)□(號か)」、UK3腹部外面には「山口縣立室積高等女学校 □属 第一郷土室 □(番か)號 第七三號」と記されている。

UK2に記される「山口県女子師範学校」は山口大学教育学部的前身校の一つで、大正3年(1914)に山口県立工業学校から転身開校した「山口県室積師範学校」が大正9年(1920)に改称したもので、昭和18年(1943)に「山口県師範学校」と統合するまで存続した校名である。対する「山口県立室積高等女学校」は、昭和11年(1936)に開校し、昭和23年(1948)には学制改革により「山口県立光女子高等学校」に改称、翌昭和24年(1949)には「山口県立光高等学校」と統合している(杉原1975)。つまり両者は全くの別学校である。一方で資料に貼られたシールの様式(サイズ、項目、印字が青色インクで印刷され、書き込みが墨であること)は同一で、資料番号も「七二」「七三」と連番である。これをどのように理解すべきであろうか。

両校史を紐解くと、当初山口県立室積高等女学校は山口県女子師範学校内に併設して開校しており、昭和23年の学制改革のおりに室積新聞、現光市立室積中学校敷地に移転している。第一郷土室は両校の共用施設であった可能性があり、県立高校の移転にともない、山口県師範学校に引き継がれ、恐らく小野忠熙氏を介して本学に収蔵されることとなったのだろう。

UK1は完形の須恵器坏蓋。天井部と口縁部の境界は曖昧で、ゆるやかに内湾しながら口縁に降下し、口縁端部は丸く収める。外面ヘラ削りは上部1/5にのみ施され、内外面とも回転ナデ調整が施される。内面天井中心に同心円当てで具痕を残している。口径14.1cm、器高4.1cmを測る。UK2は完形の須恵器坏身。底部は上げ底状を呈し、やや開き気味に体部が立ち上がる。口縁は内傾して立ち上がり、端部を丸く収める。外面ヘラ削りは下部1/5にのみ施され、体部から口縁部にかけて内外面とも回転ナデ調整、底部は内外面とも不定方向のナデが施される。底部内面中央に同心円当て具痕を残す。両者は元来セット関係にあったと思われる、6世紀後半の所産である。UK3は須恵器壺。頸部より上を欠失しているが、体部は良好に遺存している。やや肩の張る器形で、底部は丸底である。底部は内外面とも不定方向のナデ調整、体部は内外面とも回転ナデ調整が施されるが、外面は部分的にヘラナデが行われている。頸基部から肩部にかけては斜め方向のハケが施される。腹部最大径16.4cm、残高13.9cmを測る。

[注記「FUKUSHŌJI」遺物] (図76、写真123のUK4)

遺物収納コンテナNO. 47、収納袋NO. 14に単体で収納されていた9世紀代の須恵器長径瓶である。底部外面に「FUKUSHŌJI 27.12.27」の注記が見られることから、昭和27年(1952)に採取された資料であることがわかる。問題となるのが当館遺物収蔵台帳の出土地名項目に記された「美祿郡秋芳町別府福昌寺」の地名であり、筆者が資料を確認した際は収納袋にそのような文字は残っていなかった。

この地名に関し調査を進めると、福昌寺という寺院は現存していないものの、現在美祿郡秋芳町別府中村に所在する開創永保3年(1706)の西福寺(山号満泉山)は、創建大同2年(807)とされる壬生神社

(美祿市秋芳町別府聖田所在)の社坊6寺の一つであった真言宗満泉寺(福正寺)の旧跡を興したとされ、明治26年(1893)に暴風で本堂が倒壊したため現在の地に寺域を移したそうである(篠田1991)。満泉寺(福正寺)旧跡は、三ヶ台(標高335m)から南東に延びる舌状丘陵の東端部(標高約98m)、下葛満八幡宮の北側とされ、現在は畑地となっている。周知の埋蔵文化財包蔵地としては、縄文時代から古墳時代の遺物散布地である真木遺跡に含まれる。

管見ではあるが、旧秋芳町別府に「FUKUSHŌJI」にまつわる地名は他に見当たらないこと、9世紀初頭創建とされる神社の社坊跡地から当資料が出土したとしても时期的に矛盾が生じないことなどから、採取地を特定できるかに思えるが、現在の資料の状態が「美祿郡秋芳町別府福昌寺」と乖離していることを重視し、「不明資料＝UK」として報告を行う。

UK4は口縁を部分的に欠失するものの、ほぼ完形の長頸瓶である。丸味を帯びやや肩の張る体部にゆるやかに外反する頸部が付く。口縁端部は丸く収めている。やや器壁が厚い底部の外端に、断面方形の小ぶりの高台が「ハ」字状に付く。器面調整は、外面は全面的に回転ナデが施されるが、体部下位に部分的にヘラ削りが残る。内面も回転ナデが施されるが、肩部のみ横ナデを行っている。底部外面には曲線2条と直線1条からなるヘラ記号が施されている。筆順は写真123に示したとおりである。頸部から体部外面には灰と自然釉を被っている。胎土が精緻で焼成も良好であり、成形に熟練度の高さも見られることから、搬入品である可能性が高い。口径5.2cm、腹部最大径10.2cm、高台径6.7～6.8cm、器高13.5cmを測る。

【採取地不明遺物】(図77、写真124のUK5)

遺物収納コンテナNO. 93、収納袋NO. 22に単体で収納されていた須恵器長頸瓶で、肩部を部分的に欠失するものの、ほぼ完形で遺存している。当資料に関しては、資料自体への注記、収納袋への注記、遺物カードのいずれも欠落している。

UK5は器壁の厚い個体で、焼き歪みが見られる。無高台の平底から直立気味に体部が立ち上がる。肩部は水平に張りだし、頸部は大きく外反して口縁に至る。体部の器面調整は、肩部と底部付近に回転ヘラ削りが見られるほかは回転ナデが施される。頸部から口縁部は内外面とも回転ナデ調整。底部は内面が不定方向のナデ、外面もナデが施されるが繊維痕がわずかに観察される。口径8.4cm、腹部最大径16.0cm、底部径10.2cm、器高21.5cmを測る。

【採取地不明耳環】(図77、写真124のUK6～8)

UK6・7は遺物収納コンテナNO. 7、収納袋NO. 2に、UK8は遺物収納コンテナNO. 93、収納袋NO. 8に収納されていた。いずれも資料自体への注記、収納袋への注記、遺物カードが欠落しており、情報を一切保持していない。UK7・8は一見セット関係にあるように思えるが、収納状況からUK6・7が同一遺構から出土した可能性もあり、憶測の域を出ない。

UK6は比較的遺存状態の良い個体で、銅地金貼耳環と見られる。金板はおよそ半分が剥離しており、木口巻き込み部も剥がれ緑青が著しい。小野忠熙氏が調査を担当し、現在所在不明となっている下松市御屋敷山古墳出土品と形態やサイズが類似する(小野1961・横山2013)が、当資料の断面形はほぼ正円であることから、別個体と見られる。直径30.1～32.9mm、孔径14.7～16.1mm、厚さ8.6～8.7mmを測り、重量32.0gを量る。**UK7**は遺存状態が極めて悪い個体である。地金は銅と見られるが、貼られた金属はほぼ遺存しないようである。直径25.4～26.1mm、孔径16.6～18.0mm、厚さ4.1～4.6mmを測り、重量6.07gを量る。**UK8**も遺存状態が極めて悪い。UK7とほぼ同時サイズで、直径24.3～27.0mm、孔径16.3～17.9mm、厚さ4.4～4.9mmを測り、重量6.98gを量る。



図73 島田川流域採取遺物実測図



写真120 島田川流域採取遺物

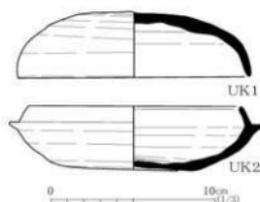


図74・写真121 山口県女子師範学校旧蔵遺物

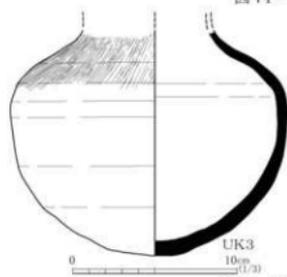


図75・写真122 山口県立室積高等女学校旧蔵遺物

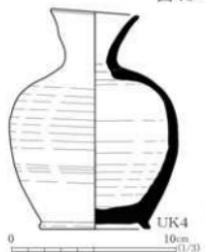


図76・写真123 注記「FUKUSHOJI」遺物



図 77・写真 124 採取地不明遺物

表12 遺物(金属器)観察表

注:黒は現存最大値 ①は寛元筆 ▲は物上合計

遺物番号	フナナナ 図号	種類	部位	計測 (口径25mm)①(厚25mm)②(重量g)	備考
HO5	フナナナ25 図6	鉄器	器身部	①55 ②35.5 ③8 ④26.02	有基平組式の器身部片、器身先端部の一部と基部を欠失する。緑化が顕(1.A)。 同封のカーブに「基+丘口(高小) 花園八幡 小川宮氏」の記述がある。
UK6	フナナナ7 図7	耳環	完形	直径30.1~32.9 孔径14.7~16.1 ①4.6~8.7 ②32.05	比較的遺存状態が良い個体。銅鍍金部耳環と見られる。金部半分は剥離している。本日の録音は黒い。
UK7	フナナナ7 図7	耳環	完形	直径25.4~26.1 孔径16.6~18.0 ①4.1~4.6 ②6.07	遺存状態が極めて悪い個体。銅鍍金は緑化をふく。知られている金属は剥離が顕く。録音不明。
UK8	フナナナ93 図8	耳環	完形	直径24.2~27.0 孔径16.3~17.9 ①4.4~4.9 ②6.96	遺存状態が極めて悪い個体。UK7とはほぼ同形。知られている金属の種類不明。

3. おわりに

本稿に掲載した資料で採取時期がわかるものは、全て昭和20年代中ごろから後半にかけての年月日を有していることから、新制大学として本学が設立した当初に小野忠熙氏と学生が採取または寄贈を受けた資料と見られる。そのほか、小野氏が正式に発掘調査を実施した山口県内遺跡出土品を含めると、当館が所蔵する構内遺跡出土品以外の遺物総量は、収納コンテナで約100箱を数える。当初これらの資料は小野氏が所属した教育学部をはじめ学内各所に收藏されていたそうであるが、昭和52年(1977)3月の埋蔵文化財資料館竣工後は、当館に集約されることとなった。これらの資料は、見島ジーンコンボ古墳群や潮待貝塚出土遺物など極一部を除き、未だ死蔵状態にある。

当館に着任以降、筆者はこれらの資料群の公開に努めているが、たびたび障害となっているのが、資料情報の欠落であった。平成26年度は、一定の情報を保持している資料や遺存状態の良い未公開資料を選択し、観覧者へ資料情報を求めるとともに、資料情報の重要性を訴えかける企画展を開催した。その際に寄せられた情報と、筆者自身の調査により得た情報を付したのが本報告となる。当館の全所蔵品に対して、筆者が在職中に整理作業等を完遂することはないであろうが、粘り強く収蔵資料の学術公開を継続していく所存である。

【註】

- 1) 横山成己(2019)「第36回企画展『情報求む！～収蔵庫に眠る由来不明の考古資料たち～』を開催」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』、山口 開催目的と展示内容を記している。
- 2) 『山口県文化財概要 第4集』(小野ほか1961)所収の「山口県埋蔵文化財一覽」には、「発見年月日：昭和25年7月27日 発見者指名：小川宣 所在地：下松市花岡町花園八幡神社 遺跡および出土品：弥生土器片(多数)」の記載が見られる。内容物から見てコンテナNO.5袋NO.51に関連する記載と考えられるが、発見年月日がわずかに異なる。
- 3) 小川宣氏は昭和28年4月に山口県桜丘高校に着任されている。
- 4) 昭和33年発行の『大内村誌』では、馬塚古墳は全長71尺(約21m)の前方後円墳として紹介されている(佐伯1958)。
- 5) 森氏の報告では、須恵器器台は当館所蔵品で、昭和48年(1973)の表採品とされるが、所在不明である。
- 6) 光市役所建設部都市計画課都市計画係に1953年当時の浅江4057番地の所在を確認したところ、古い記録に残っていないが、現在の浅江4丁目430-2付近の可能性があるとご教示いただいた。
- 7) 『島田川』(小野ほか1953)によると、和田遺跡は弥生土器の遺物包含層(土器棺を含む)とされており、今回報告資料とは時間的な乖離が大きい。和田遺跡の南に隣接する虹川遺跡も弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地とされる。
- 8) 当館に「第一郭土室」のシールが貼られた資料が3点しか存在しないのは、考古資料が元来この3点に限られていたことがその理由として考えられるが、昭和21年(1946)の失火により校舎の大半が消失したことが原因である可能性もある。

【文献】

- 小野忠熙ほか(1953)『島田川 周防島田川流域の遺跡調査研究報告』、小野忠熙(編)、山口
- 小野忠熙(1961)『御屋敷古墳』、小野忠熙・山口県教育委員会(編)『山口県文化財概要 第4集 埋蔵文化財』、山口
- 藤田善熙(1991)『神社と寺院・教会』、秋芳町史編集委員会(編)『秋芳町史 改訂版』、美弥(山口)
- 杉原猛熊(1975)『学校教育』、光市史編纂委員会(編)『光市史』、光(山口)
- 富士整勇ほか(1971)『山口市馬塚古墳緊急発掘調査概要』、山口県教育庁社会教育課(編)、山口
- 佐伯敬紀(1958)『第三編 先史時代』、河野通毅(編)『大内村誌』、周南(山口)
- 佐伯敬紀(1961)『大内町の諸遺跡』、小野忠熙・山口県教育委員会(編)『山口県文化財概要 第4集 埋蔵文化財』、山口

- 中村浩(1993)「福岡県春日市所在日押塚古墳出土須恵器について－東京国立博物館列品の検討を中心として－」,九州古文化研究会(編)『古文化談義』第30集(上),北九州(福岡)
- 谷口哲一(1986)『大内氷上古墳』,山口県教育委員会文化課・山口県埋蔵文化財センター(編),山口
- 森田孝一(2001a)「山口市氷上遺跡(仏供田遺跡)の破壊と遺物について」,森田孝一(編)『山口県考古学研究所資料集報』,美祿(山口)
- 森田孝一(2001b)「山口市高尾山古墳群内の表採須恵器に関して」,森田孝一(編)『山口県考古学研究所資料集報』,美祿(山口)
- 横山成己(2013)「下松市御屋敷山古墳の出土遺物」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』,山口
- 横山成己(2014)「下松市花岡八幡宮裏山資料と花岡古墳群」,山口考古学会(編)『山口考古』第34号,防府(山口)

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくまいごうぶんかざいしりょうかんねんぼう
書名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	—平成27年度—
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	13
編著者名	田畑直彦 横山成己 川島尚宗
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 Tel083-933-5035
発行年月日	西暦2020年(令和2年)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 48秒	131度 27分 57秒	20150730- 20150828	56.5㎡	総合研究棟(国際総合科学部) 改修工事
山口大学 医学部構内遺跡	山口県宇部市 南小串1丁目1-1	35202		33度 57分 42秒	131度 15分 4秒	20150513- 20150606	50㎡	保育所新営その他工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡	集落	弥生	土壇・溝・ピット	弥生土器・須恵器 陶磁器	
山口大学 医学部構内遺跡	散布地	縄文		陶磁器	

山口大学埋蔵文化財資料館年報
—平成27年度—

令和2年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 (有)三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8

YAMAGUCHI UNIVERSITY
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.13

CONTENTS

Chapter I	Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities	1
Section 1	Exhibition activities	2
Section 2	Social education activities	7
Chapter II	The project on the Yamaguchi University campus in the 2015 fiscal year	10
Section 1	General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2015 fiscal year	10
Section 2	Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site"	14
Section 3	Excavation on the Kogushi campus "Shiraishi site"	85
Section 4	Excavation on the Tokiwa campus "Yamaguchidaigaku-Igaubukounai site"	87
Appendix 1	The gist of researches and studies at Yamaguchi University in the 2015 fiscal year	91
Appendix 2	List of researches in Yamaguchi University campus	94
Appendix	Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum Collection, Artifacts from the Kofun period to the Heian period	118

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2020